

平成 23 年度 業務実績報告書（案）

参考資料集

平成 24 年6月

公立大学法人 名古屋市立大学

目次

年度計画 No.	資料名	頁数
2	教養教育カリキュラム新旧対照表	1
2	教養教育修得必要単位数の新旧比較表	5
4	薬学部 生命薬科学演習のシラバス	11
5	人文社会学部 家族社会学2 受講生感想	12
5	2011年9月24日付北陸中日新聞（人文社会学部 能登島実習）	13
13	人間文化研究科 平成23年度の課題研究科目概要	14
14	国際ワークショップ「歴史的町並みを活かしたまちづくりー橘町を対象として」概要、実績	16
14	国際ワークショップ「美術史と模写-Scroveni 礼拝堂のGiottoのフレスコ画より」概要、実績、講演会ポスター	17
14	サークルKサンクスとの連携プロジェクト概要、実績	19
17	大学間交流協定実績（年度別）	20
21	大学満足度調査結果、結果分析	23
21	授業評価アンケート結果	46
24	「最先端・次世代研究開発プログラム」に採択された研究課題概要	48
26	「名古屋市立大学 大学院薬学研究科薬学研究科 創薬基盤科学研究所 設立記念シンポジウム」概要	49
27	平成23年度名古屋市立大学東海薬剤師生涯学習センター概要、講座概要	50
27	平成23年度愛知県薬剤師会生涯学習特別委員会企画講座	53
27	文科省補助事業（GP）「チーム医療に貢献する薬局薬剤師の養成」概要	54
28	経済学研究科附属経済研究所 平成23年度プロジェクト研究概要	61
29	人間文化研究科附属人間文化研究所 平成23年度プロジェクト研究概要	62
29	「文化財を守る」講演会・シンポジウム概要、実績、ポスター	63
29	『人間文化研究所年報』7号（抜粋）	65
30	「建築遺産の保存：研究と応用」企画展・国際シンポジウム概要、実績、ポスター	81
30	「3.11 東日本大震災への追悼展覧会 失われた街」展覧会・シンポジウム概要、実績、ポスター	84
31	なごや看護生涯学習セミナー概要	87
31	看護研究サポートプロジェクト概要	88
37	博物館共同ワークショップ「名古屋市博物館×名古屋市立大学×九州国立博物館 ワークショップでござる」ポスター	89

37	千種生涯学習センターとの共催講座「人にやさしいデザイン」概要、実績	90
38	各研究所シンポジウム等実績一覧	91
38	公開講座等実績一覧（平成 24 年 3 月 31 日現在）	92
39	経済学研究科附属経済研究所 第 16 回 公開シンポジウム概要	95
41	審議会等委員会就任状況一覧	96
44	東海経済活性化フォーラム概要	99
49	「名古屋市立大学病院地域連携のご案内 平成 23 年度」	100
56	平成 23 年度 e ラーニング教材一覧、対象受講者数、受講人数	159
72	役員会、教育研究審議会、経営審議会の開催回数と主な議題	162
73	芸術工学部及び芸術工学研究科組織改正概要	166
85	管理経費前年度比較（決算終了後に提出）	167
86	電気・ガス・水道の使用量等（決算終了後に提出）	168
94	「2011 国際森林年 名古屋市立大学市民シンポジウム」結果報告	169

教養教育カリキュラム新旧対応表

平成23年度

平成24年度

(1)共通科目
ア テーマ科目

(1)共通科目
ア 一般教養科目

区分	授業科目(副題)	単位数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
健康・福祉	テーマ科目 1(教養として知っておきたい様々な病気の実態)	1	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 2(社会と医学)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 3(創薬と生命)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 4(社会保険と労働市場)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 5(少年犯罪)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 6(生理学から病態を考える)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 7(バイオサイエンス入門)	2	選	選	選	選	選	選
環境	テーマ科目 8(環境と薬学)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 9(生物多様性と持続可能な暮らし・観光)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 10(持続可能な暮らしを考える)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 11(都市の緑と自然)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 12(省資源・省エネルギー型の社会を考える)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 13(社会環境論)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 14(生活の中の科学)	2	選	選	選	選	選	選
大学 特色 科目	テーマ科目 15	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 1(教養として知っておきたい様々な病気の实態)	1	選	選	選	選	選	選
	特色科目 2(創薬と生命)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 3(環境と薬学)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 4(持続可能な社会をつくる社会事業)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 5(ワーク・ライフ・バランス)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 6(次世代育成の課題)	2	選	選	選	選	選	選
大学 特色 科目	特色科目 7(省資源・省エネルギー型の社会を考える)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 8(デザインと情報)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 9(社会環境論)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 10(メディア環境論)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 11(植物の多様性と環境)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 12(動物と人の進化多様性)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 13(男女共同参画社会をめざして)	2	選	選	選	選	選	選
大学 特色 科目	特色科目 14(ジェンダー入門)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 15(共生社会におけるふれあいネットワーク)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 16	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 17(正義論)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 18(キャリアデザイン)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 19(地域企業の国際化)	2	選	選	選	選	選	選
	特色科目 20	2	選	選	選	選	選	選
大学 特色 科目	学外実習1	2	選	選	選	選	選	選
	学外実習2(中国短期語学研修)	2	選	選	選	選	選	選
	学外実習3(フランス短期語学研修)	2	選	選	選	選	選	選
大学 特色 科目	学外実習4	2	選	選	選	選	選	選
		2	選	選	選	選	選	選
		2	選	選	選	選	選	選

区分	授業科目(副題)	単位数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
健康・福祉	テーマ科目 1(教養として知っておきたい様々な病気の实態)	1	白	選	選	選	選	選
	テーマ科目 2(創薬と生命)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 3(環境と薬学)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 4(持続可能な社会をつくる社会事業)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 5(ワーク・ライフ・バランス)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 6(次世代育成の課題)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 7(省資源・省エネルギー型の社会を考える)	2	選	選	選	選	選	選
大学 特色 科目	テーマ科目 8(デザインと情報)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 9(社会環境論)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 10(メディア環境論)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 11(植物の多様性と環境)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 12(動物と人の進化多様性)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 13(男女共同参画社会をめざして)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 14(ジェンダー入門)	2	選	選	選	選	選	選
大学 特色 科目	テーマ科目 15(共生社会におけるふれあいネットワーク)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 16	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 17(正義論)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 18(キャリアデザイン)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 19(地域企業の国際化)	2	選	選	選	選	選	選
	テーマ科目 20	2	選	選	選	選	選	選
	学外実習1	2	選	選	選	選	選	選
大学 特色 科目	学外実習2(中国短期語学研修)	2	選	選	選	選	選	選
	学外実習3(フランス短期語学研修)	2	選	選	選	選	選	選
	学外実習4	2	選	選	選	選	選	選

イ 文系共通科目

区分	授業科目(副題)	単位数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
現代 社会 の 諸 相	日本国憲法(ケースメソッドで学ぶ日本国憲法)	2	選	選	選	選	選	選
	日本国憲法(歴史的・比較的政治学から学ぶ「基本憲法」)	2	選	選	選	選	選	選
	日本国憲法(なぜ憲法が必要なのか)	2	選	選	選	選	選	選
	法学1(法と国家、法と生活)	2	選	選	選	選	選	選
	法学2(現代社会と法律)	2	選	選	選	選	選	選
	現代社会1	2	選	選	選	選	選	選
	現代社会2(中国短期語学研修)	2	選	選	選	選	選	選
現代 社会 の 諸 相	現代社会3(情報社会とメディア)	2	選	選	選	選	選	選
	現代社会4(ジェンダー入門)	2	選	選	選	選	選	選
	経済学1(経済学の考え方)	2	選	選	選	選	選	選
	経済学2(経済のしくみ)	2	選	選	選	選	選	選
	経済学3	2	選	選	選	選	選	選
	経営学1(からの経営学)	2	選	選	選	選	選	選
	社会学1(社会学概論)	2	選	選	選	選	選	選
現代 社会 の 諸 相	社会学2(地域社会学)	2	選	選	選	選	選	選
	社会学3	2	選	選	選	選	選	選
	政治学1(現代日本の政治)	2	選	選	選	選	選	選
	政治学2(戦後の日本と世界の政治経済的考察 - 政治とはなにか)	2	選	選	選	選	選	選
	政治学3(「国民国家」とは何か)	2	選	選	選	選	選	選
	国際関係論1	2	選	選	選	選	選	選
	国際関係論2	2	選	選	選	選	選	選
現代 社会 の 諸 相	国際関係論3	2	選	選	選	選	選	選
	文系課題科目1(金融工学入門)	2	選	選	選	選	選	選
	文化の理解1(日本文化入門)	2	選	選	選	選	選	選
	文化の理解2(東海の歴史と文化)	2	選	選	選	選	選	選
	文化の理解3(日本の文化史と古典作品1)	2	選	選	選	選	選	選
	文化の理解4(日本の文化史と古典作品2)	2	選	選	選	選	選	選
		2	選	選	選	選	選	選

区分	授業科目(副題)	単位数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
現代 社会 の 諸 相	日本国憲法(事例で学ぶ日本国憲法)	2	選	選	選	選	選	選
	日本国憲法(歴史的・比較的政治学から学ぶ「基本憲法」)	2	選	選	選	選	選	選
	日本国憲法(なぜ憲法が必要なのか)	2	選	選	選	選	選	選
	法学1(法と国家、法と生活)	2	選	選	選	選	選	選
	法学2(現代社会と法律1)	2	選	選	選	選	選	選
	法学3(現代社会と法律2)	2	選	選	選	選	選	選
	法学4(知的財産権入門)	2	選	選	選	選	選	選
現代 社会 の 諸 相	法学5(法とその精神)	2	選	選	選	選	選	選
	現代社会1	2	選	選	選	選	選	選
	現代社会2(情報社会とメディア)	2	選	選	選	選	選	選
	経済学1(経済学の考え方)	2	選	選	選	選	選	選
	経済学2(経済のしくみ)	2	選	選	選	選	選	選
	経営学1(企業と社会、個人の関係)	2	選	選	選	選	選	選
	経営学2(会計・ファイナンスと情報処理)	2	選	選	選	選	選	選
現代 社会 の 諸 相	社会学1(社会学概論)	2	選	選	選	選	選	選
	社会学2(地域社会学)	2	選	選	選	選	選	選
	社会学3(現代社会と「生きづらさ」)	2	選	選	選	選	選	選
	政治学1(現代日本の政治)	2	選	選	選	選	選	選
	政治学2(戦後の日本と世界の政治経済的考察 - 政治とはなにか)	2	選	選	選	選	選	選
	政治学3(「国民国家」とは何か)	2	選	選	選	選	選	選
	政治学4(私たちにとって政治とは何か)	2	選	選	選	選	選	選
現代 社会 の 諸 相	国際関係論1(クローバー政治経済論)	2	選	選	選	選	選	選
	国際関係論2	2	選	選	選	選	選	選
	国際関係論3	2	選	選	選	選	選	選
	国際関係論4	2	選	選	選	選	選	選
	文化の理解1(日本文化入門)	2	選	選	選	選	選	選
	文化の理解2(東海の歴史と文化)	2	選	選	選	選	選	選
	文化の理解3(日本の文化史と古典作品1)	2	選	選	選	選	選	選
現代 社会 の 諸 相	文化の理解4(日本の文化史と古典作品2)	2	選	選	選	選	選	選
		2	選	選	選	選	選	選
		2	選	選	選	選	選	選
		2	選	選	選	選	選	選
		2	選	選	選	選	選	選
		2	選	選	選	選	選	選
		2	選	選	選	選	選	選

異

文化・自文化の理解									
文化の理解5		1	2	選	選	選	選	選	選
歴史の認識1(日本史入門1)		1	2	選	選	選	選	選	選
歴史の認識2(日本史入門2)		1	2	選	選	選	選	選	選
歴史の認識3(ヨーロッパ史入門1)		1	2	選	選	選	選	選	選
歴史の認識4(ヨーロッパ史入門2)		1	2	選	選	選	選	選	選
歴史の認識5(東アジア史入門1)		1	2	選	選	選	選	選	選
歴史の認識6(東アジア史入門2)		1	2	選	選	選	選	選	選
歴史の認識7(アメリカ史入門)		1	2	選	選	選	選	選	選
人類学1(異文化理解入門)		1	2	選	選	選	選	選	選
人類学2(マレーシア諸島の歴史と現在)		1	2	選	選	選	選	選	選
地理学1(都市と郊外の地理学)		1	2	選	選	選	選	選	選
地理学2(人文地理学)		1	2	選	選	選	選	選	選
文系課題科目2(文化の深層を読む)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間性の探究1(平和論)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間性の探究2(音楽と文化)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間性の探究3(美術の歴史と鑑賞)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間性の探究4(人間とデザイン)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間性の探究5(共生社会におけるふれあいネットワーク)		1	2	選	選	選	選	選	選
哲学1(哲学入門1)		1	2	選	選	選	選	選	選
哲学2(哲学入門2)		1	2	選	選	選	選	選	選
宗教学(宗教学入門)		1	2	選	選	選	選	選	選
心理学1		1	2	選	選	選	選	選	選
心理学2(平和と多文化共生の心理学)		1	2	選	選	選	選	選	選
心理学3(人間関係の心理学)		1	2	選	選	選	選	選	選
倫理学1(応用倫理学－生命倫理の現在)		1	2	選	選	選	選	選	選
倫理学2(応用倫理学入門－環境保全の倫理学)		1	2	選	選	選	選	選	選
倫理学3(基礎からわかる倫理学)		1	2	選	選	選	選	選	選
倫理学4(実存と倫理)		1	2	選	選	選	選	選	選
キャリアデザイン1		1	2	選	選	選	選	選	選
キャリアデザイン2		1	2	選	選	選	選	選	選

文化と人間性の探究									
文化の理解5(ヨーロッパの文化と歴史)		1	2	選	選	選	選	選	選
文化の理解6(日本宗教史入門)		1	2	選	選	選	選	選	選
歴史の認識1(日本史入門1)		1	2	選	選	選	選	選	選
歴史の認識2(日本史入門2)		1	2	選	選	選	選	選	選
歴史の認識3(ヨーロッパ史入門1)		1	2	選	選	選	選	選	選
歴史の認識4(ヨーロッパ史入門2)		1	2	選	選	選	選	選	選
歴史の認識5(東アジア史入門1)		1	2	選	選	選	選	選	選
歴史の認識6(東アジア史入門2)		1	2	選	選	選	選	選	選
歴史の認識7(アメリカ史入門)		1	2	選	選	選	選	選	選
人類学1(異文化理解入門)		1	2	選	選	選	選	選	選
人類学2(マレーシア諸島の歴史と現在)		1	2	選	選	選	選	選	選
地理学1(都市と郊外の地理学)		1	2	選	選	選	選	選	選
地理学2(人文地理学)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間性の探究1(音楽と文化)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間性の探究2(美術の歴史と鑑賞)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間性の探究3(人間とデザイン)		1	2	選	選	選	選	選	選
哲学1(哲学入門1)		1	2	選	選	選	選	選	選
哲学2(哲学入門2)		1	2	選	選	選	選	選	選
宗教学(宗教学入門)		1	2	選	選	選	選	選	選
心理学1		1	2	選	選	選	選	選	選
心理学2(平和と多文化共生の心理学)		1	2	選	選	選	選	選	選
心理学3(人間関係の心理学)		1	2	選	選	選	選	選	選
倫理学1(応用倫理学－生命倫理の現在)		1	2	選	選	選	選	選	選
倫理学2(基礎からわかる倫理学)		1	2	選	選	選	選	選	選
倫理学3(実存と倫理)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間と自然1(科学史)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間と自然2(環境と制度・社会・政治・経済)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間と自然3(環境科学Ⅰ)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間と自然4(環境と法律)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間と自然5(環境と医学)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間と自然6(社会と医学)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間と自然7(くすり和社会)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間と自然8(都市の緑と自然)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間と自然9(リプロダクティブ・ヘルスとライフサイクル)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間と自然10(科学と統計のリテラシー)		1	2	選	選	選	選	選	選
人間と自然11		1	2	選	選	選	選	選	選
人間と自然12		1	2	選	選	選	選	選	選
自然と数理解1(意思決定の数理)		1	2	選	選	選	選	選	選
自然と数理解2(統計学入門)		1	2	選	選	選	選	選	選
自然と数理解3(宇宙のなりたち)		1	2	選	選	選	選	選	選
自然と数理解4(植物とバイオテクノロジー)		1	2	選	選	選	選	選	選
自然と数理解5(化学反応のしくみ)		1	2	選	選	選	選	選	選
自然と数理解6(エネルギーのサイエンス)		1	2	選	選	選	選	選	選
自然と数理解7(バイオサイエンス入門)		1	2	選	選	選	選	選	選
自然と数理解8(情報と数理の世界)		1	2	選	選	選	選	選	選
自然と数理解9(地球史入門)		1	2	選	選	選	選	選	選
自然と数理解10(地域生態学)		1	2	選	選	選	選	選	選

理系共通科目									
自然系広領域1(環境と制度・社会・政治・経済)		1	2	自	自	選	選	自	選
自然系広領域2(環境科学Ⅰ)		1	2	自	自	選	選	自	選
自然系広領域3(環境科学Ⅱ)		1	2	自	自	選	選	自	選
自然系広領域4(環境と法律)		1	2	自	自	選	選	自	選
自然系広領域5(動物行動学)		1	2	自	自	選	選	自	選
自然系広領域6(植物の多様性と環境)		1	2	自	自	選	選	自	選
自然科学講義1(医療と健康)		1	2	自	自	選	選	自	選
自然科学講義2		1	2	自	自	選	選	自	選
自然科学講義3		1	2	自	自	選	選	自	選
自然科学講義4		1	2	自	自	選	選	自	選
自然科学講義5		1	2	自	自	選	選	自	選
理系課題科目1(くすり和社会)		1	2	自	自	選	選	自	選
理系課題科目2(デザインと情報)		1	2	自	自	選	選	自	選
理系課題科目3(ライフサイクル)		1	2	自	自	選	選	自	選
理系課題科目4(リプロダクティブ・ヘルスとライフサイクル)		1	2	自	自	選	選	自	選
理系課題科目5(情報と数理の世界)		1	2	自	自	選	選	自	選

外国語科目									
英語1		1	2	選	選	選	選	選	選
英語2		1	2	選	選	選	選	選	選
英語3		1	2	選	選	選	選	選	選
英語4		1	2	選	選	選	選	選	選
英語5		1	2	選	選	選	選	選	選
英語6		1	2	選	選	選	選	選	選
英語7		1	2	選	選	選	選	選	選
英語8		1	2	選	選	選	選	選	選
英語9		1	2	選	選	選	選	選	選
英語10		1	2	選	選	選	選	選	選

未 修 外 国 語	英語リフレクション2(再履修振替用)										1	1	選	選	※選	選	選	選	選
	*ドイツ語A										1	1	選	選	選	選	選	選	選
	*ドイツ語B										1	1	選	選	選	選	選	選	選
	*ドイツ語C										1	1	選	選	選	選	選	選	選
	*ドイツ語D										1	1	選	選	選	選	選	選	選
	*フランス語A										1	1	選	選	選	選	選	選	選
	*フランス語B										1	1	選	選	選	選	選	選	選
	*フランス語C										1	1	選	選	選	選	選	選	選
	*フランス語D										1	1	選	選	選	選	選	選	選
	*中国語A										1	1	選	選	選	選	選	選	選
	*中国語B										1	1	選	選	選	選	選	選	選
	*中国語C										1	1	選	選	選	選	選	選	選
	*中国語D										1	1	選	選	選	選	選	選	選
	*日本語リーディング・リスニング1										1	1	自	※選	選	自	選	※選	自
	*日本語ライティング1										1	1	自	※選	選	自	選	※選	自
	*日本語リーディング・リスニング2										1	1	自	※選	選	自	選	※選	自
	*日本語ライティング2										1	1	自	※選	選	自	選	※選	自
未 修 外 国 語	*日本語プレゼンテーション1										1	1	自	※自	自	選	※自	自	選
	*日本語ディスカッション1										1	1	選	選	※自	自	選	※自	選
	*日本語プレゼンテーション2										1	1	選	選	※自	自	選	※自	選
	*日本語ディスカッション2										1	1	自	※自	自	選	※自	自	選

オ	情報科目										情報科目									
	授業科目										授業科目									
	*情報処理基礎										*情報・統計処理									
	情報処理応用										*情報処理基礎									
	*情報処理基礎										*情報処理									

カ	健康・スポーツ科目										健康・スポーツ科目									
	授業科目										授業科目									
	*健康・スポーツ科学論										*健康・スポーツ科学論(含演習)									

キ	ポランディア科目										ポランディア科目									
	授業科目										授業科目									

(2)基礎科目 ア 物理学	基礎物理学 I										基礎物理学 I									
	基礎物理学 II										基礎物理学 II									
	物理学基礎 I A(力学基礎)										物理学基礎 I A(力学基礎)									
	物理学基礎 I B(力学一般)										物理学基礎 I B(力学一般)									
	物理学基礎 II(電磁気学)										物理学基礎 II(電磁気学)									
	物理学基礎 III(熱力学)										物理学基礎 III(熱力学)									
	物理学基礎 IV(近代物理学)										物理学基礎 IV(近代物理学)									
	基礎物理学 I (副題)										基礎物理学 I (副題)									
	基礎物理学 II										基礎物理学 II									
	物理学基礎 I A(力学基礎)										物理学基礎 I A(力学基礎)									

イ 化学	無機化学										無機化学									
	有機化学										有機化学									
	基礎化学										基礎化学									
	物理化学										物理化学									
	化学分光学										化学分光学									

ウ	生物学	基礎生物学	配当 年次	単位 数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
		生物学基礎Ⅰ	1	2	必					
		生物学基礎Ⅱ	1	2	選	必/自				
		植物生命科学	1	2	選					
		生物学基礎Ⅲ	1	2		選				
ウ 生物学										
エ	自然科学実験	基礎生物学	配当 年次	単位 数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
		生物学基礎Ⅰ	1	2	必					
		生物学基礎Ⅱ	1	2	選	必/自				
		植物生命科学	1	2	選					
		生物学基礎Ⅲ	1	2		選				
エ 自然科学実験										
オ	数学・統計学	*自然科学実験Ⅰ	配当 年次	単位 数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
		*自然科学実験Ⅱ	1	1	必					
		*自然科学実験Ⅲ	1	1	必					
		*自然科学実験Ⅳ	1	1	必					
		*自然科学実験Ⅴ	1	1	必					
オ 数学・統計学										
カ	早期体験学習	微分積分学Ⅰ	配当 年次	単位 数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
		微分積分学Ⅱ	1	2	選	選				
		線形代数	1	2	選					
		*数学A1	1	2	選					
		*数学A2	1	2	選					
カ 早期体験学習										
キ	芸術工学基礎	統計学A1	配当 年次	単位 数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
		統計学A2	1	2	選					
		統計学B1	1	2	選					
		統計学B2	1	2	選					
		統計学C1	1	2	選					
キ 芸術工学基礎										
ク	人間関係論	基礎生物学	配当 年次	単位 数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	看護
		生物学基礎Ⅰ	1	2	必					
		生物学基礎Ⅱ	1	2	選					
		生物学基礎Ⅲ	1	2	選					
		生物学基礎Ⅳ	1	2	選					
ク 人間関係論										

「必」＝必修科目、「選」＝選択科目、「自」＝自由科目、「国必」＝国際文化学科のみ必修科目、* 印＝指定科目（クラスおよび学期・曜日・時限を指定）

教養教育修得必要単位数の新旧比較表

(1) 医学部

平成 23 年度

区分			最低修得必要単位数	
共通科目	テーマ科目	健康・福祉	2 単位	
		環境	2 単位	
	文系共通科目		6 単位	
	理系共通科目		自由科目	
	外国語科目	英語	4 単位	
		未修外国語	2 単位	
	情報科目		2 単位	
	健康・スポーツ科目		3 単位	
	ボランティア科目		自由科目	
	基礎科目	物理学	4 単位	左記のほか3区分のいずれかの科目から2単位
		化学	2 単位	
		生物学	2 単位	
		実験	2 単位	
		数学・統計学	数学4単位，統計学2単位	
	医薬看連携早期体験学習		2 単位	
合計		41 単位		

平成 24 年度

区分		最低修得必要単位数		
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	2単位	
		現代社会の諸相	6単位	
		文化と人間性の探究	4単位	
		人間と自然	2単位	
		自然と数理の探究		
		外国語科目	英語	4単位
			未修外国語	2単位
		情報科目	2単位	
	基礎科目	健康・スポーツ科目	2単位	
		ボランティア科目	自由科目	
		物理学	4単位	
		化学	4単位	
		生物学		
		実験	1単位	
数学・統計学	4単位			
医薬看連携早期体験学習	2単位			
合計		39単位		

(2) 薬学部

平成 23 年度

区分			最低修得必要単位数
共通科目	テーマ科目	健康・福祉 環境	2 単位 2 単位
	文系共通科目		6 単位
	理系共通科目		自由科目
	外国語科目	英語	4 単位
		未修外国語	2 単位
	情報科目		2 単位
	健康・スポーツ科目		3 単位
	ボランティア科目		
	物理学		4 単位
	化学		2 単位
基礎科目	生物学		2 単位
	実験		2 単位
	数学・統計学		4 単位
	医薬看連携早期体験学習		
	生命薬科学研究入門		
	合計		3 9 単位

平成 24 年度

区分			最低修得必要単位数
共通科目	一般教養 科目	大学特色科目	4 単位
		現代社会の諸相	4 単位
		文化と人間性の探究	
		人間と自然	2 単位
		自然と数理の探究	
	外国語科目	英語	4 単位
		未修外国語	2 単位
	情報科目		2 単位
	健康・スポーツ科目		2 単位
	ボランティア科目		
基礎科目	物理学		2 単位
	数学		2 単位
	化学		
	生物学		2 単位
	実験		1 単位
	医薬看連携早期体験学習		
	生命薬科学研究入門		
	合計		3 5 単位

左記単位
以外に 4
単位以上

(3) 経済学部

平成 23 年度

区分			最低修得必要単位数
共通科目	テーマ科目	健康・福祉	2 単位
		環境	2 単位
	文系共通科目		4 単位
	理系共通科目		2 単位
	外国語科目	英語	6 単位
		未修外国語	4 単位
	情報科目		2 単位
	健康・スポーツ科目		3 単位
	ボランティア科目		
	数学・統計学		数学 6 単位 統計学 2 単位
基礎科目	合計	3 9 単位	

平成 24 年度

区 分			最低修得必要単位数
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	4 単位
		現代社会の諸相 文化と人間性の探究	4 単位
		自然と数理の探究	2 単位
	外国語科目	未修外国語	6 単位
			4 単位
	情報科目		2 単位
	健康・スポーツ科目		2 単位
	ボランティア科目		
基礎科目	数学・統計学		数学 6 単位 統計学 2 単位
			3 8 単位
合 計			

(4) 人文社会学部（人間科学科・現代社会学科）

平成 23 年度

区分			最低修得必要単位数
共通科目	テーマ科目	健康・福祉	2 単位
		環境	2 単位
	文系共通科目		4 単位
	理系共通科目		2 単位
	外国語科目	英語	6 単位
		未修外国語	4 単位
	情報科目		2 単位
	健康・スポーツ科目		3 単位
	ボランティア科目		
	合計		3 6 単位

平成 24 年度

区分		最低修得必要単位数		
共通科目	大学特色科目	2 単位		
		現代社会の諸相 文化と人間性の探究	4 単位	
			人間と自然	4 単位
			自然と数理の探究	6 単位
		英語	4 単位	
	外国語科目	未修外国語	2 単位	
		情報科目	2 単位	
	健康・スポーツ科目	2 単位		
	ボランティア科目			
	合 計		3 6 単位	

(5) 人文社会学部（国際文化学科）

平成 23 年度

区分			最低修得必要単位数
共通科目	テーマ科目	健康・福祉	2 単位
		環境	2 単位
	文系共通科目		4 単位
	理系共通科目		2 単位
	外国語科目	英語	8 単位
		未修外国語	4 単位
	情報科目		2 単位
	健康・スポーツ科目		3 単位
	ボランティア科目		
	合計		3 6 単位

平成 24 年度

区分		最低修得必要単位数	
共通科目	大学特色科目	2単位	
		現代社会の諸相 文化と人間性の探究 人間と自然 自然と数理の探究	4単位
			4単位
			8単位
			4単位
	外国語科目	英語 未修外国語	2単位
		2単位	
	情報科目	2単位	
	健康・スポーツ科目	2単位	
	ボランティア科目		
	合計		36単位

(6) 芸術工学部

平成 23 年度

区分			最低修得必要単位数
共通科目	テーマ科目	健康・福祉	2 単位
		環境	2 単位
	文系共通科目		6 単位
	理系共通科目		自由科目
	外国語科目	英語	4 単位
		未修外国語	2 単位
	情報科目		6 単位
	健康・スポーツ科目		3 単位
	ボランティア科目		自由科目
	数学・統計学		4 単位
基礎科目	芸術工学基礎		2 単位
	合計		3 1 単位

平成 24 年度

区分			最低修得必要単位数		
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	2単位	左記単位以外に4単位以上	
		現代社会の諸相 文化と人間性の探究	2単位		
					人間と自然
					自然と数理の探究
		外国語科目	英語		4単位
	未修外国語		2単位		
	情報科目		6単位		
	健康・スポーツ科目		2単位		
	ボランティア科目		自由科目		
	基礎科目	数学・統計学		6単位	
合計		30単位			

(7) 看護学部

平成 23 年度

区分			最低修得必要単位数
共通科目	テーマ科目	健康・福祉	2 単位
		環境	2 単位
	文系共通科目		4 単位
	理系共通科目		4 単位
	外国語科目	英語	4 単位
		未修外国語	2 単位
	情報科目		2 単位
	健康・スポーツ科目		3 単位
	ボランティア科目		自由科目
	医薬看連携早期体験学習		2 単位
基礎科目	人間関係論		2 単位
	合計		27 単位

平成 24 年度

区分			最低修得必要単位数	
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	2 単位	
		現代社会の諸相 文化と人間性の探究	4 単位	
				人間と自然
				自然と数理の探究
		外国語科目	英語	4 単位
	未修外国語		2 単位	
	情報科目		2 単位	
	健康・スポーツ科目		2 単位	
	ボランティア科目		自由科目	
	医薬看連携早期体験学習		2 単位	
基礎科目	看護基礎		4 単位	
	合計			26 単位

【年度計画 4】

PGSE012020

授業科目名	生命薬科学演習 (P1105) Pharmaceutical and Life Sciences Seminar
担当教員	樋口 恒彦
単位数	2 単位
講義期間 曜日・時限	前期 集中
授業の目的・目標	生命薬科学科は、将来製薬等企業の研究所や大学・国公立研究所の研究者となる学生の育成を目指す学科である。このキャリア構築のために参考となる体験型の取り組みを各種行い、その過程で自身の将来像を考え、目標を持ち、それにつながる高い研究能力の獲得を生む研究意欲を高めるきっかけを作ることが目的であり目標である。
学習到達目標	・企業や国公立研究所における研究の概略を知り、説明できる。 ・企業や国公立研究所における研究を行うためには、自身がどのような能力を身につけるべきかを知る。 ・PBL チューターを経験し、その役割・意義を学ぶ。
授業概要	1. 製薬企業・国公立研究所の研究員の講演 2. 研究所の見学と研究員へのインタビュー 3. 製薬企業研究所の見学旅行 4. 1 年次「生命薬科学入門」PBL のチューター 以上の 4 種の取り組みのうちの 3 種程度を履修する（詳しくは履修要件参照）
授業計画	1. 講演 (1) 国立医薬品食品衛生研究所 研究員 (2) シオノギ製薬 創薬研究所 篠原俊次 講師（予定） (3) 愛知県警 科学捜査研究所 大山信行 講師（予定） 2. 研究所見学と研究員へのインタビュー 4 つの製薬企業と 3 つの国公立研究所の中で希望のところに outgoing 見学・インタビューを行い、後日グループで発表する 3. 製薬企業研究所の見学旅行 6 月下旬に 1 泊 2 日で静岡・東京の製薬企業研究所を見学し、研究員との質疑応答を行う 4. 1 年次「生命薬科学入門」PBL のチューター PBL に必要なシナリオ作りに参加し、生命薬科学入門においてチューターとしての役割を果たす
成績判定基準	講演とチューターは、出席のみ 研究所見学と研究員へのインタビューは、参加及びグループでの発表 製薬企業研究所の見学旅行については出席
教科書・テキスト	
参考文献	
履修要件	本演習はポイント制とし、演習の履修には 30 ポイント以上を得ることを要件とする 1) 外来講師による講演 (1 講演 2 ポイント) 4 講演 2) 企業等への [見学+インタビュー]、発表 12 ポイント 3) 企業への見学旅行 [+レポート] 15 ポイント 4) 生命薬科学入門 PBL のチューター (12 ポイント) (12 名まで) 上記を組み合わせることで履修し、30 ポイント以上を得る
履修上の注意事項	
連絡先・オフィスアワー	担当：樋口恒彦（精密有機反応学分野、研究北棟 6F 西）TEL 052-836-3435 オフィスアワー：講演者については講演の直後の時間
備考	4 年次 選択科目（生命薬科学科）

【年度計画5】

「家族社会学2」の名古屋市子ども青少年局の現・元職員による講義に関する受講生の感想（33通提出）

受講生が提出した代表的な感想は次の通りである。

「実際に、市の子育て政策に携わる市の職員の方からお話を聞くことができて良かったです。自分がなんとなく常識だと思っていたことが、何度もくつがえされて、とても興味深い授業でした。」

「「保育士に求められる役割」の中では、保育士の責任の重さを痛感した。牛乳アレルギーや、小麦粉アレルギーの子供への対応の話から、常日頃の細やかな心遣いの必要性に驚いた。また発達障害児と健常児の合同保育、モンスターペアレント対応、小学校との連携、ソーシャル・ワーカーとしての役割、外国人親子への対応等々、保育の現場で求められる役割が、大変過重になっているように見受けられた。」

「今回の講義で、私の印象に強く残ったのは、保育士の役割についてです。…課題の多くは園児のみでなく、その保護者まで支援の対象となっている点から、やはり保育士、保育園は、単に子どものためにあるだけでなく、その家庭、さらにはその地域にまで関わる重要な存在であるということを感じました。」

「保育の現場では多様なニーズに対応するだけでなく、保護者の相談にのったりとソーシャル・ワーカーとしての役目も果たさなければならないことは、実に負担が大きい。現在待機児童を解消するために保育園の定員を増やす、いわば「定員の弾力化」によって市はこの危機を乗り越えようとしているが、これは保育士一人あたりの仕事が増加するという意味している。

世間では母親の子育てストレスについて盛んに議論されているが、このままの体勢で無理な定員拡大を進めるのであれば、いずれは保育士の方が子育てストレスで倒れてしまうのではいかと心配だ。」

「保育現場の課題は多岐に渡っているため、保育に関する高い専門性だけでなく、他にも様々なことに関する知識が必要であると分かった。例えば、子どもと深くかかわる保育園では児童虐待に早期に気付き対処することが求められている。

家庭支援や障害児保育、子育て相談など様々な保育ニーズに応えていく保育園であるが、昨今はソーシャル・ワーカーとしての役割も期待されていることを知った。社会の動きを正確に捉えながら、社会のなかで保育を位置づけ、子どもやその親の福祉を向上させていくことが求められているのである。」

能登島の変遷発表

名古屋市立大生 実習を終了

七尾市の能登島で学外実習をしていた名古屋市立大人文社会学部の学生が、市役所で成果の発表会を開いた。

同大の赤嶺淳准教授の集中講義「国内フィールドワーク」を受講している学生ら二十

六人が参加した。十九日二十三日までの日程で滞在し、「能登島の暮らしの変遷」をテーマに、民宿を経営したり、まちづくりに携わったりしている住民ら六人から聞き取った。

発表会には、学生を

含め、市職員ら約六十人が参加した。学生は、能登島と同市石崎町を結ぶ能登島大橋が開通して便利になった一方で、島内で疎遠化が進んだという住民の話などを紹介。「時代の流れの中で、能登島の住民の人生が変わっていったというのが印象だった」などと、感想を話していた。

(倉形友理)

人間文化研究科 課題研究科目について

人間文化研究科は人文社会学部を基礎にする大学院で、人間、社会、文化の各学問分野を学ぶことができます。本研究科には大きな特色として、課題研究科目があります。

(1) 「課題研究科目」方式について

博士前期課程では、『課題研究科目』方式で学生指導が行われています。これは複数の教員と複数の学生が共同で研究するという方式で、発表や討論を通じて研究を深めていくことができます。学生は、この方式を通じて複数の教員から指導を受けることができます。

(2) 現在開講されている課題研究科目について

課題研究科目名	内容
グローバル社会と地域文化に関する研究	世界の急速なグローバル化に伴い、環境、民族、移民、言語、コミュニケーションなどに起因する諸問題が、相互にからみあいながら複雑化の様相を呈している。諸地域文化との共生の視点に立つ本課題研究科目では、これらの複雑多岐にわたる問題群を、特にフィールドワークに依拠しながら学際的に考察・研究していく。
欧米文化に関する研究	近世から現代までの欧米の文化について、その背景となる社会、歴史、思想を考慮し、その特質、可能性及び現代的意義を研究する。特に、従来のように、欧米を近代市民社会の理想とするような欧米中心主義の立場に立つのではなく、外部世界とたえず交流・衝突して自己変革を遂げてきた欧米が、境界を常に変動させている地域であり、内部的にも個人中心の市民社会と一括りにできないような交錯し合う多民族・多文化・多言語を内包する混淆した地域であるといった、新たな見方に立って欧米を考察することを特徴とする。とりわけ、文化的越境、マイノリティの言語や文化、文化とジェンダー、異文化衝突など多文化主義や共生に関わる現代的な諸問題を、国民国家と EU や NATO などの地域連合・安保体制さらには環境（生活空間、自然との共生）の問題までも視野に入れながら、学際的に考究していく。
日本の文化に関する研究	日本の文化の普遍性と特殊性を考慮に入れながら、現代の日本の文化の由来と問題点を考え、未来を展望する。具体的には、古代中世日本の仏教の受容史、日本の律令の成立と実態の解明、現代日本の言語活動を通して見た日本語の体系と変異の考察、折口学に立脚した沖縄の民俗・祭祀・芸能の分析、近現代の日本文学の講読並びに作家の背景や作品世界の分析、東アジアと近代日本との関係史の追究、などから、日本文化と社会の基層にあるものの考察と近現代日本の多様な文化が共生する社会を多彩な視座からとらえなおしていく。 上記の領域の範囲で、個々の学生の問題意識に沿った課題を、文献資料やフィールドワークから得たデータの読解と、教員と学生との討議を

	通して検討していく。
地域・労働・メディア社会に関する研究	本課題研究科目は、多元的な社会経済システムについて理論的・歴史的・実証的な側面からアプローチする。グローバル化と分権化が交錯する現代社会にあって、「地域」「労働」「メディア社会」、さらには情報をキーワードに、経済・社会の諸領域にまたがる問題を研究対象とする。研究指導は修士論文作成に向けた個別指導を重視し、地方財政論、労働社会学、社会経済史、意思決定論、メディア・政治社会学などの専門分野からの学際的な協働のもとに進めていく。 また、本課題研究科目は「ジェンダー・人権・福祉」の領域と相互に関連した研究指導を志向している。
ジェンダー・人権・福祉に関する研究	現代の社会問題を的確にとらえ、それを分析するのに必要な基本的な視点は何かを主題に学習し、これまで軽視されることの少なくなかった「ジェンダー」、「人権」、「福祉」の立場から、社会における諸問題に焦点を当てて研究を進めていく。 こうした観点がなぜ必要なのかを理論的・歴史的・実証的に研究し、福祉社会の様々な問題を具体的にとりあげ、研究していく。
「こころ」の発達に関する研究	乳幼児期から老年期にいたる心身の発達のメカニズムを解明することを目的とする。心身の発達には遺伝的要因と、対人関係をはじめとするさまざまな環境要因が関係しており、それらの要因の相互関係を解明することが求められる。さらに、これらのメカニズムを解明するためには、適切な行動指標を決め、それらを測定する妥当性と信頼性の高い方法を開発することが必要になる。 このような観点から、「こころ」の発達及び変容を多面的に研究していく。
社会と教育に関する研究	現代社会における少子高齢化、高度情報化、国際化の進展は、子育て不安、学力低下、いじめや不登校問題、さらには多文化教育問題に至る多様な教育問題を提起するに至っている。そして、今そのような諸課題にどのように対処していくべきかの方法や思想、そして実践のあり方が鋭く問われてきている。そこで、本課題研究科目では、このような教育に関する諸問題をめぐって、幼児教育・保育分野、アジアを中心とする比較教育分野、及び教育内容分野(科学教育、音楽教育、英語教育、発達発達)から研究課題を選定し、研究指導を行っていく。

【年度計画 14】

芸術工学研究科 国際ワークショップ 23 年度実績

「歴史的町並みを活かしたまちづくりー橘町を対象として」

1. 目的 歴史的建造物の保存には、耐震や補強のハード技術の支えが必要で、安全・安心を確保した上でまちづくりに活用する必要がある。国際シンポジウムで文化遺産建築の保護制度、耐震や補強技術とまちづくり事例を学ぶとともに、名古屋市における歴史的建造物の保存事例を視察した上で、橘町のまちづくりを考える。

2. 活動実績

①11 月 14 日（月）15 時～16 時 30 分

芸術工学研究科教授、学生 2 名、名古屋市 2 名、橘町の方および名古屋仏具研究会関係 3 名と打合せ。

②11 月 24 日（木）9 時～18 時

芸術工学研究科教授、招聘教員および留学生 9 名、名古屋市 1 名、事前視察。

③11 月 26 日（土）9 時 30 分～12 時

芸術工学研究科研究科長、教授、学生 4 名、海外招聘教員 4 名、名古屋市 4 名、コンサルタント 1 名、橘町の方 3 名、職人の仕事場を見学したのち、まちづくり案について打合せ。

なお、このワークショップは、平成 24 年度秋に、橘町の活性化を目的としたまちづくりワークショップを開催することを計画しており、来年度も継続実施予定。

【年度計画 14】

芸術工学研究科 国際ワークショップ

「美術史と模写—Scrovegni 礼拝堂のGiottoのフレスコ画より」

1 目的

本学大学院芸術工学研究科とイタリア、パドヴァ大学は2011年4月に大学間交流協定を締結した。パドヴァ大学より美術史学者等を招聘し、パドヴァ市のスクローヴェーニ礼拝堂の壁画の模写を通し、フレスコ画、模写の意味、ルネサンス以前の文化・芸術について学ぶ。

2. 開催期間

平成23年10月8日～11月30日
11月25日に講演会を開催

3 参加者

招聘教員3名、大学院生1名、学部生13名
講演会は上記に加え、本学留学生6名

第3回国際環境ワークショップ 講演会 「フレスコと陰窩」

イタリア・パドヴァ大学

ジョヴァンナ・ヴァレンツァノ教授

日時：2011年11月25日（金曜日） 16：20～

会場：名古屋市立大学・大学院芸術工学研究科
芸工棟 M101

Carolingian Age (751-987) から Giotto までのフレスコ (Fresco) とクレット CRYPT) について講演していただきます。Crypt は過去の歴史・建築・美術を読み取るうえで重要な資料が詰まっています。

今回は、ヴァレンツァノ教授に、発掘現場での研究成果、聖堂地下室から発見されたフレスコについて話しをしていただけることになりました。Giotto までの約 300 年間のフレスコの変化を考察し、「だまし絵」への変遷をひもとくことにより、Crypt の世界観が感じられ、古イタリアの世界観が広がることと思います。



Dr. Giovanna Valenzano (Padova University)

Carolingian Age を中心に中世美術に関して幅広く研究をされ、初期キリスト教美術、Giotto の壁画、ゴシック建築等の著書や論文がある。

【年度計画 14】

サークルK サンクスとの連携プロジェクトについて

テーマ：女性客誘致のための店舗レイアウトの提案

目的：顧客、特に女性客の増加を目的とした、レイアウト、販売戦略などの提案を行う。

参加者：経済学部 河合ゼミ(3年生、5名)、経済研究科教授、
芸術工学部横山研究室(5名)、1～3年生学生(20～30名)、博士後期課程院生、芸術工学研究
科教授、サークルKサンクス(5～6名)、学術課学術広報係長

内 容：前半(平成23年4月～平成23年度9月末)

経済学部学生を主としたインタビュー調査およびアンケート調査

後半

芸術工学部学生によるサークルKサンクスへの店舗レイアウト、販売促進企画等の提案

POP 提案グループ(新製品用ショーケース、新製品用POPテンプレート)

シェリエドルチェグループ(手土産用ショッピングバック、パッケージ、内カフェグッ
ズプレゼント提案)

綺麗トイレグループ(トイレのブランド化、既存トイレに置くグッズ制作)

実施概要

日付	内容
4月20日	経済学部と芸術工学部学生によるサークルKサンクス塩付通り店ヒアリング
5月12日	経済学部と芸術工学部合同ミーティング
	(経済学部によるマーケティング調査)
10月6日	サークルKサンクス、経済学部、芸術工学部による全体ミーティングにおいて、経済学部のマーケティング調査結果の報告と芸術工学部の提案に際しての条件整理
11月24日	サークルKサンクス、経済学部、芸術工学部による全体ミーティング (芸術工学部企画内容プレゼン)
12月12日	サークルKサンクス塩付通り店ヒアリング(芸術工学部学生、芸術工学研究科教授、学術広報係長)
1月17日	芸術工学研究科による、芸術工学部学生の提案内容の確認
1月19日	昭和事務所にて、芸術工学部学生による提案内容の中間プレゼン
4月以降	サークルK向け最終プレゼン予定(芸術工学部)
4月以降	理事長、副理事長向け 学内プレゼン予定(経済学部+芸術工学部)

【年度計画17】

大学間交流協定の実績(年度別)

平成24年3月31日

締結相手校	学部等	協定	締結日	年度	学生		研究者				
					派遣	受入	派遣	受入			
ニューサウスウェールズ大学	経済学部	研究者交流協定	平成2年11月21日	13			1	0			
				14			1	0			
				15			1	0			
				16			1	0			
				17			1	1			
				18			1	1			
				19			1	0			
				20			0	0			
				21			0	0			
				22			0	0			
				23			1	0			
		学生交流協定	平成3年11月15日	13	0	0					
				14	1	0					
				15	1	1					
				16	2	0					
				17	2	0					
				18	1	0					
				19	0	0					
				20	0	0					
				21	0	0					
				22	0	0					
				23	2	0					
				医学部	学術交流協定	平成8年12月5日			13	2	0
	14	3	0				2	0			
	15	2	0				1	0			
	16	3	0				0	0			
	17	2	0				1	0			
	18	2	1				1	0			
	19	2	0				0	0			
	20	2	0				1	0			
	21	2	0				1	0			
	22	2	0				0	0			
	23	2	0				0	0			
	人文社会学部	学術交流協定	平成10年3月30日				13	2	0	1	0
							14	1	0	0	0
							15	1	3	1	0
				16	2	1	1	0			
				17	2	1	1	0			
				18	2	2	2	0			
				19	2	4	0	0			
				20	1	2	1	0			
				21	0	3	0	0			
				22	1	3	0	0			
				23	0	2	0	0			
	計				13	4	0	4	0		
					14	5	0	3	0		
					15	4	4	3	0		
				16	7	1	2	0			
				17	6	1	3	1			
				18	5	3	4	1			
				19	4	4	1	0			
				20	3	2	2	0			
				21	2	3	1	0			
				22	3	3	0	0			
				23	4	2	1	0			
南カリフォルニア大学	薬学部	学術交流協定	平成4年9月25日	13	3	2	0	0			
				14	7	2	1	1			
				15	11	2	0	0			
				16	12	2	1	0			
				17	7	2	1	0			
				18	7	0	0	0			
				19	3	2	1	0			
				20	5	0	1	0			
				21	6	2	1	0			
22	8	0	1	0							
23	9	0	1	0							
トリノ工科大学	芸術工学部・研究科	一般協定	平成13年1月26日	13	0	0	2	1			
				14	0	0	1	2			
				15	1	0	1	0			
				16	0	1	1	0			
				17	0	0	2	0			
				18	1	0	1	2			
				19	3	0	1	0			
				20	3	0	1	0			
				21	2	0	3	1			

締結相手校	学部等	協定	締結日	年度	学生		研究者		
					派遣	受入	派遣	受入	
				22	3	0	0	0	
				23	0	0	2	1	
シドニー大学	看護学部 薬学部 医学部	学術交流協定	平成14年3月14日	14	看	8	0	2	0
					薬	0	0	0	0
					医	0	0	0	0
					看	7	0	2	0
				15	薬	0	0	1	1
					医	0	0	0	0
					看	8	0	2	0
					薬	0	0	0	0
				16	医	0	0	0	0
					看	0	0	0	0
				17	薬	5	0	1	0
					医	0	0	0	0
					看	0	0	0	0
					薬	3	0	0	0
				19	医	0	0	0	0
					看	0	0	0	0
				20	薬	0	0	0	0
					医	0	0	0	0
					看	0	0	0	0
					薬	0	0	0	0
				21	医	0	0	1	0
					看	0	0	0	0
				22	薬	1	0	0	0
					医	0	0	0	0
	看	0	0	0	0				
	薬	1	0	0	0				
23	医	0	0	0	0				
ウィチタ州立大学	システム自然 科学研究科	学術交流協定	平成14年12月12日	14			1	0	
				15			1	0	
				16			1	1	
				17			0	0	
				18			1	0	
				19			0	0	
				20			1	0	
				21			1	0	
				22			0	0	
		23	0	0					
		学生交流協定	平成14年12月21日	14	2	0			
				15	3	0			
				16	2	1			
				17	0	0			
				18	2	0			
				19	0	0			
				20	3	0			
				21	3	0			
22	0			0					
23	0	0							
南京医科大学	医学研究科 薬学研究科	学術交流協定	平成14年11月13日	14	0	0	0	0	
				15	0	0	0	0	
				16	0	0	0	0	
				17	0	0	0	0	
				18	0	0	0	0	
				19	0	0	0	0	
				20	0	0	0	2	
				21	0	0	0	0	
22	0	0	0	0					
23	0	0	0	0					
ハルリム大学	全学	学術交流に関する覚書	平成18年11月16日	18	0	0	0	0	
				19	0	0	0	0	
				20	0	0	0	5	
		学生交流に関する協定	平成22年7月7日	21	0	2	0	0	
				22	0	4	3	0	
ページ大学	全学	学術交流協定	平成19年1月10日	23	4	2	4	1	
				18	0	0	0	0	
				19	0	0	0	0	
				20	0	0	0	0	

大学間交流協定の実績(年度別)

平成24年3月31日

締結相手校	学部等	協定	締結日	年度	学生		研究者	
					派遣	受入	派遣	受入
				22	0	0	1	0
				23	0	0	0	4
コロンボ大学	全学	学術交流協定	平成19年1月29日	18	0	0	0	0
				19	0	0	0	0
				20	0	0	0	0
				21	0	0	0	0
				22	0	0	0	0
				23	0	0	0	0
パリ13大学	全学	学術交流協定	平成19年5月15日	19	0	0	0	1
				20	0	0	0	1
				21	1	0	0	0
				22	1	0	0	0
				23	0	0	0	0
瀋陽医学院	全学	学術交流協定	平成20年12月16日	20	0	0	0	2
				21	0	0	0	0
				22	0	0	2	4
				23	0	0	2	0
ライプツィヒ応用科学大学	全学	学術交流協定	平成21年3月25日	21	0	1	0	1
				22	0	0	1	0
				23	0	0	0	0
浙江大学管理学院	全学	学術交流協定	平成21年5月4日	21	0	0	2	0
				22	0	0	0	0
				23	0	0	0	0
マレーシア国民大学	全学	学術交流協定	平成21年3月3日	21	0	0	1	0
				22	0	0	0	0
				23	0	0	1	0
ベトナム国立大学ホーチミン校	全学	学術交流協定	平成21年3月31日	21	0	0	2	0
				22	0	0	1	3
				23	0	0	0	0
セントエスティエンヌ大学アートデザイン学校	全学	学術交流協定	平成22年6月10日	22	0	0	0	0
		学生交流の覚書	平成22年12月21日	23	0	0	0	0
中央民族大学	全学	学術交流協定	平成22年6月22日	22	0	0	0	0
		学生交流の覚書		23	3	3	2	0
瀋陽薬科大学	全学	学術交流協定	平成22年8月30日	22	0	0	2	0
				23	0	1	2	0
パドヴァ大学	全学	学術交流協定	平成23年2月9日	22	0	0	1	0
		学生交流の覚書	平成23年3月31日	23	0	3	2	1
南ソウル大学	全学	学術交流協定	平成23年4月22日	23	16	17	1	2
シャルジャ大学	全学	学術交流協定	平成23年6月2日	23	0	0	0	0
ルートヴィクスハーフェン経済大学	全学	学術交流協定	平成23年12月12日	23	0	5	0	1
総計				13	7	2	6	1
				14	22	2	8	3
				15	26	6	8	1
				16	29	5	7	1
				17	13	3	6	1
				18	20	3	7	3
				19	13	6	3	1
				20	14	2	5	10
				21	14	8	12	2
				22	16	7	12	7
				23	37	33	19	10

協定締結大学数:22件

協定の件数:32件

~~「大学満足度調査」結果について~~

平成23年1月から4月にかけて、学生の皆さんの大学生活をより充実したものとするため、全学部の学生を対象に大学に対する満足度調査を行いました。

その結果は次のとおりです。

◆回答状況

学部／学年		調査対象者数							計	回答数	回答率
		2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小計	卒業生			
医 学 部	23年度	100	95	78	76	86		78	513	452	88.1%
	22年度	98	80	75	87	78	418	76	494	421	85.2%
	21年度	87	75	86	81	76	405	83	488	353	72.3%
薬 学 部	23年度	122	96	100	60	59	437	36	473	320	67.7%
	22年度	111	100	97	62	—	370	46	416	263	63.2%
	21年度	120	103	106	—	—	329	101	430	256	59.5%
経 済 学 部	23年度	242	252	228	—	—	722	243	965	785	81.3%
	22年度	237	250	226	—	—	713	209	922	459	49.8%
	21年度	241	246	196	—	—	683	218	901	650	72.1%
人文社会学部	23年度	161	175	181	—	—	517	196	713	529	74.2%
	22年度	176	163	175	—	—	514	196	710	572	80.6%
	21年度	166	172	178	—	—	516	187	703	532	75.7%
芸術工学部	23年度	85	86	83	—	—	254	84	338	240	71.0%
	22年度	83	82	81	—	—	246	88	334	188	56.3%
	21年度	82	83	82	—	—	247	85	332	167	50.3%
看護学部	23年度	79	85	78	—	—	242	85	327	277	84.7%
	22年度	85	80	85	—	—	250	77	327	298	91.1%
	21年度	82	88	76	—	—	246	81	327	281	85.9%
計	23年度	789	789	748	136	145	2,607	722	3,329	2,603	78.2%
	22年度	790	755	739	149	78	2,511	692	3,203	2,201	68.7%
	21年度	778	767	724	81	76	2,426	755	3,181	2,239	70.4%

POINT▶ 全体の回答率は78.2%。昨年度に比べ、9.5ポイント増。

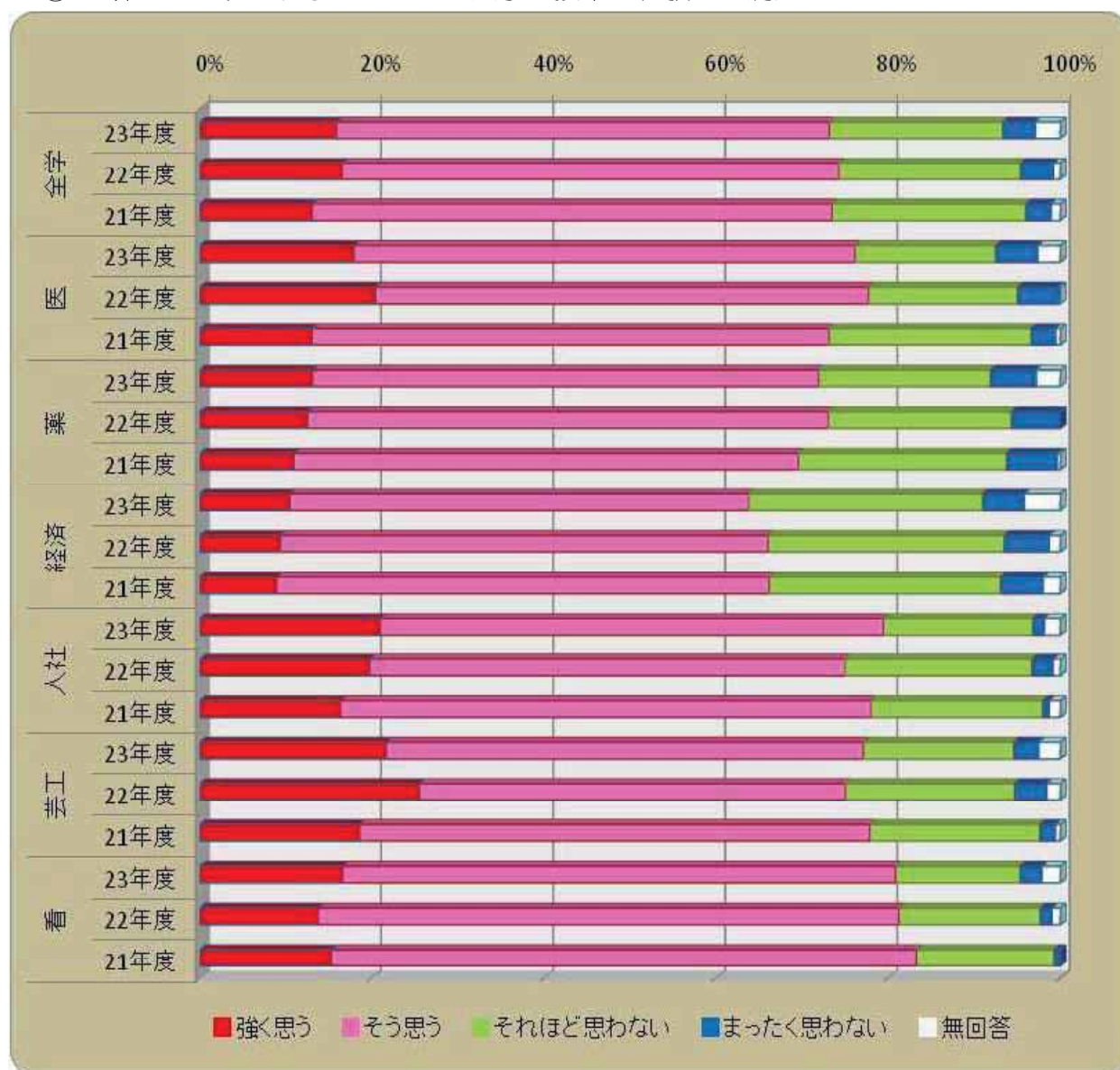
*医学部（88.1%）、看護学部（84.7%）、経済学部（81.3%）の3学部で8割を超えました。

*医学部、薬学部、経済学部、芸術工学部の4学部で、昨年度の回答率を上回り、中でも経済学部は昨年度より31.5ポイントの大幅増となりました。

◆調査結果概要◆

授業の全体的な印象について

① 全体として、これまでのところ大学で授業の経験には満足している



POINT▶ 全学では「強く思う」、「そう思う」を合わせて73.1%

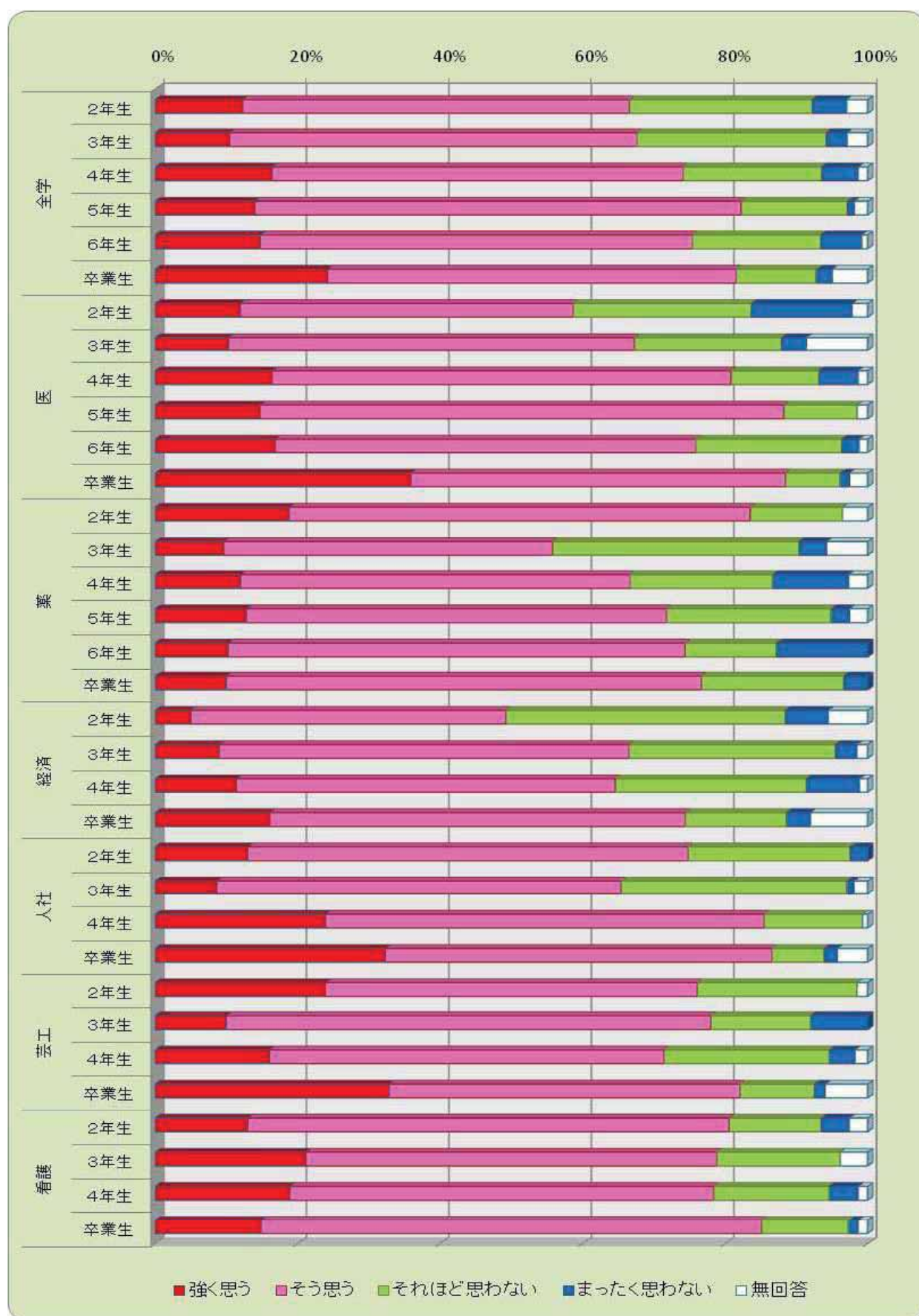
*「強く思う」「そう思う」と回答した学生の比率は、看護学部が一番高く80.9%。以下、人文社会学部79.4%、芸術工学部77.1%、医学部76.1%、薬学部71.9%、経済学部63.8%でした。

*昨年度に比べ、「強く思う」「そう思う」と回答した学生の比率が増加したのは、人文社会学部（4.4ポイント）および芸術工学部（2.1ポイント）、減少したのは経済学部（2.2ポイント）、医学部（1.6ポイント）、薬学部（1.1ポイント）、看護学部（0.3ポイント）でした。

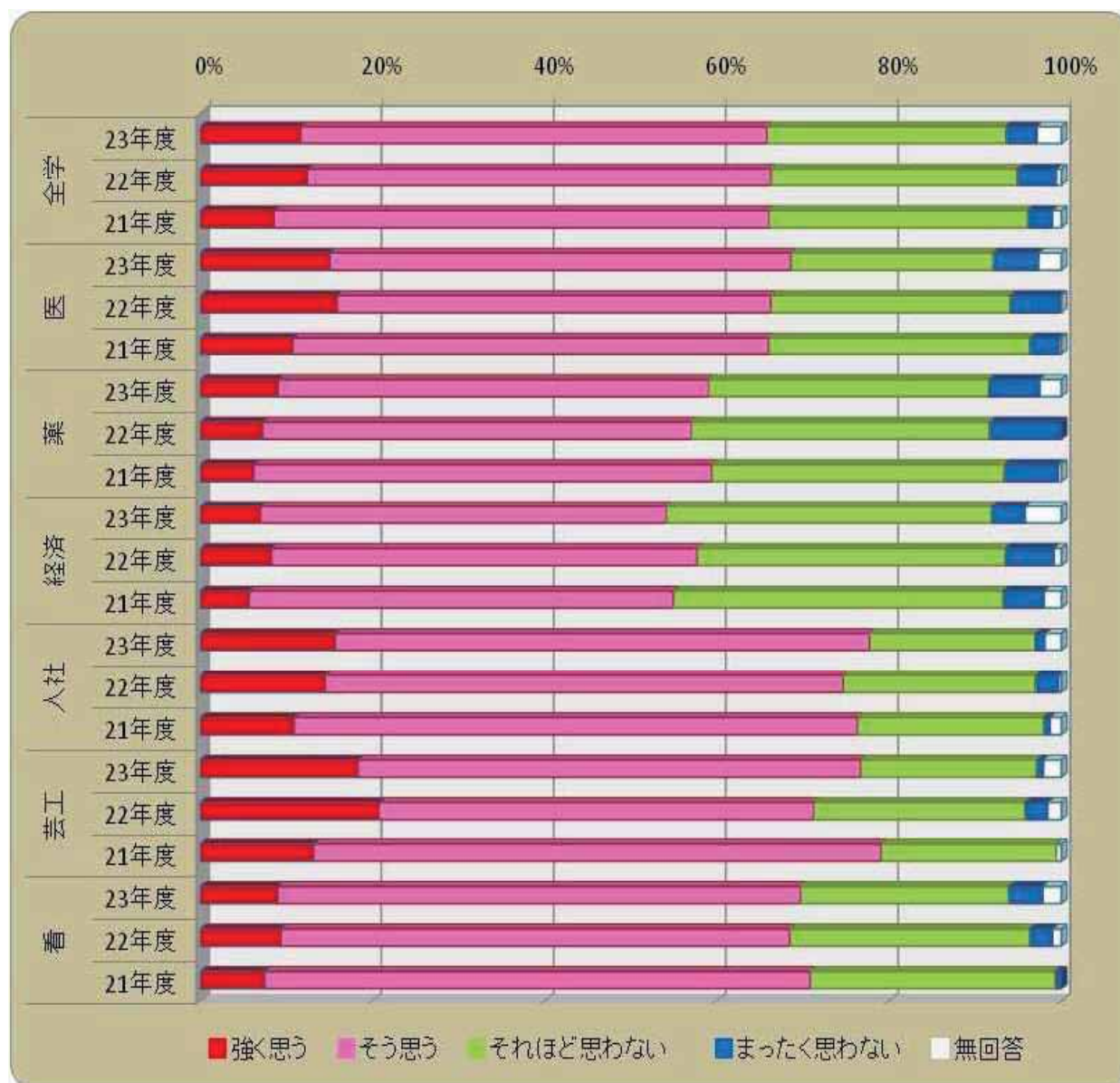
*学年別に見てみると「強く思う」「そう思う」と回答した学生の比率は、昨年度と同様に、概ね高学年の方が高い傾向にあります。

【全学部学年別】

① 全体として、これまでのところ大学で授業の経験には満足している

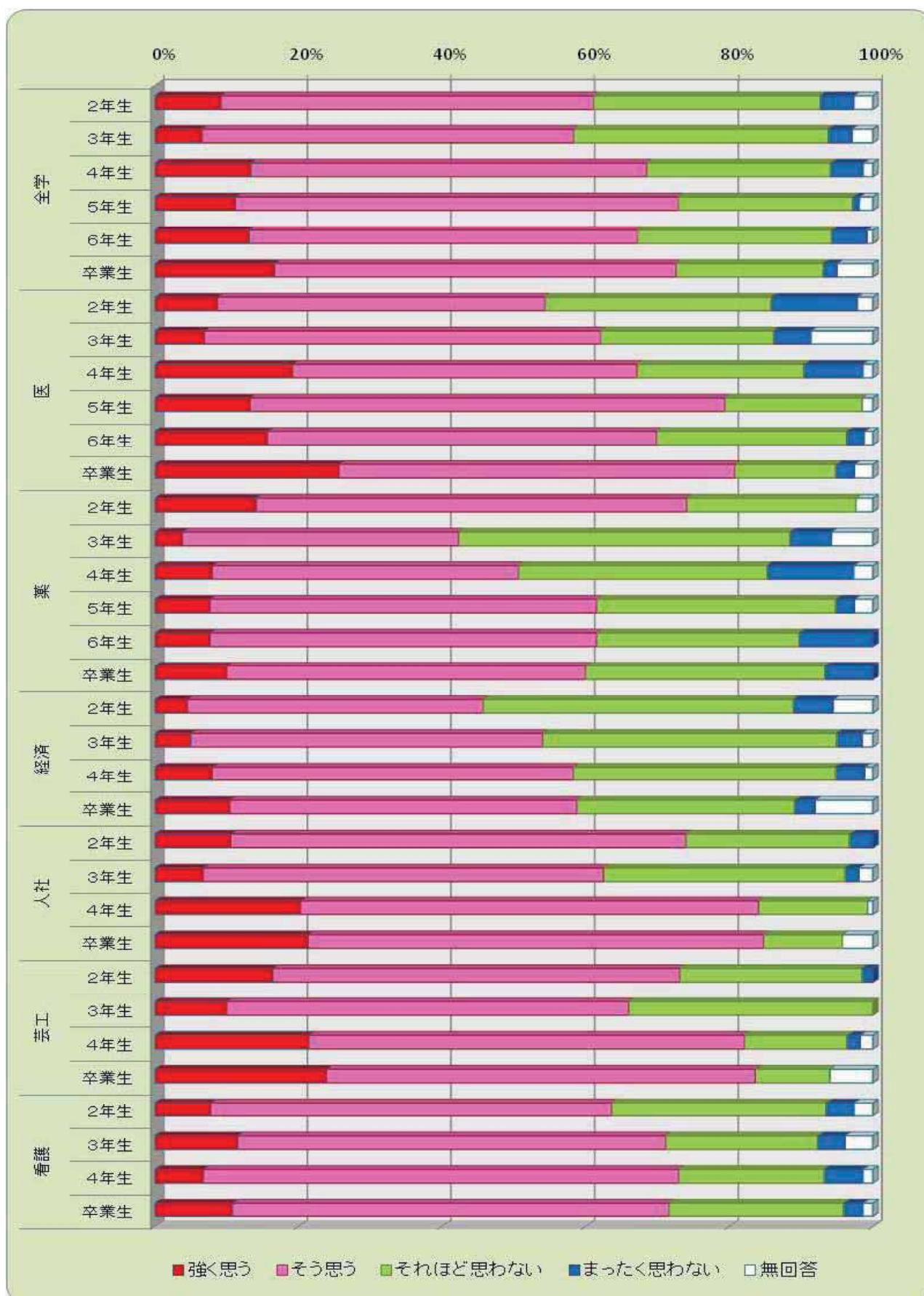


② 全体として、授業を楽しむことができた

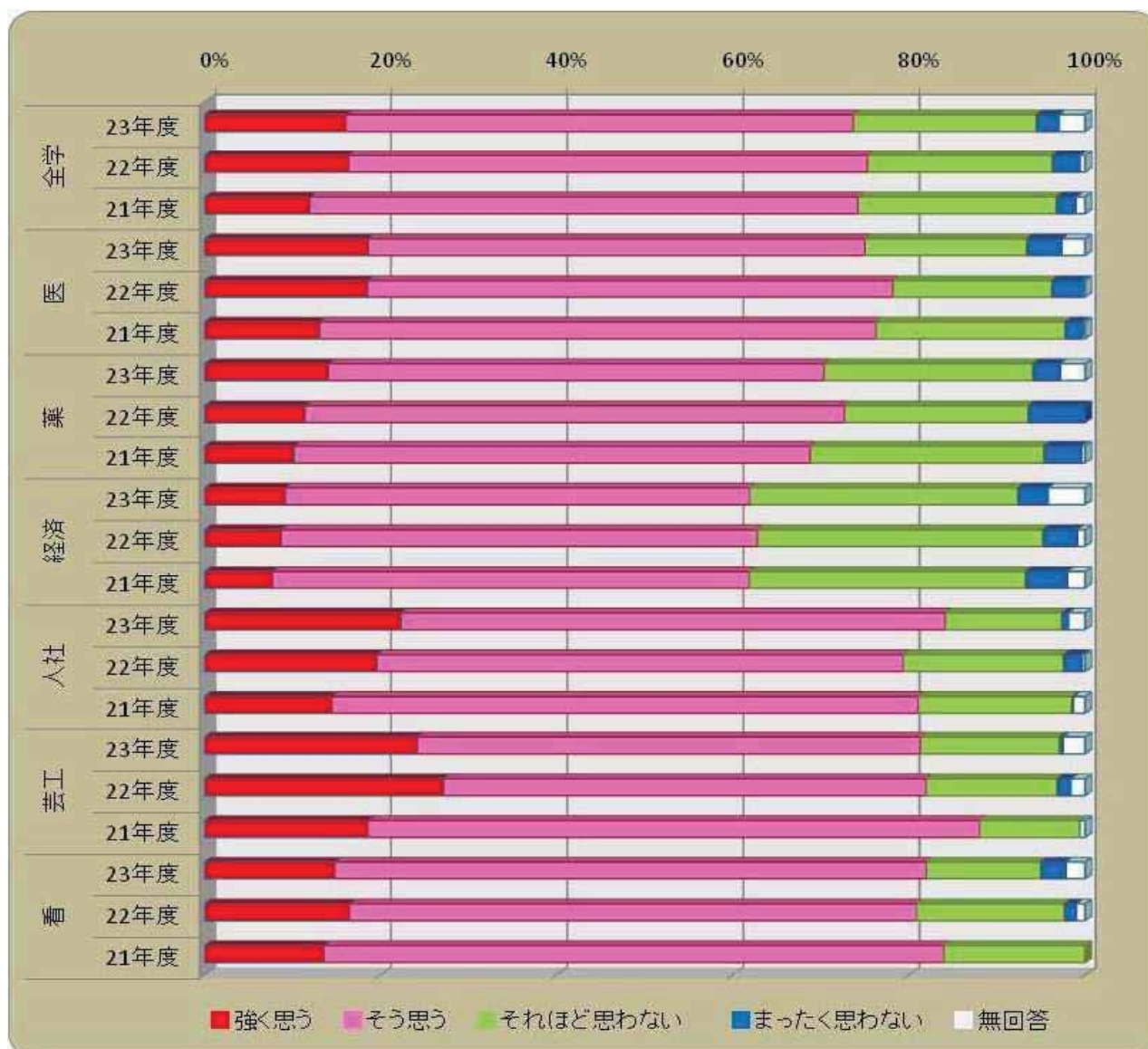


【全学部学年別】

② 全体として、授業を楽しむことができた

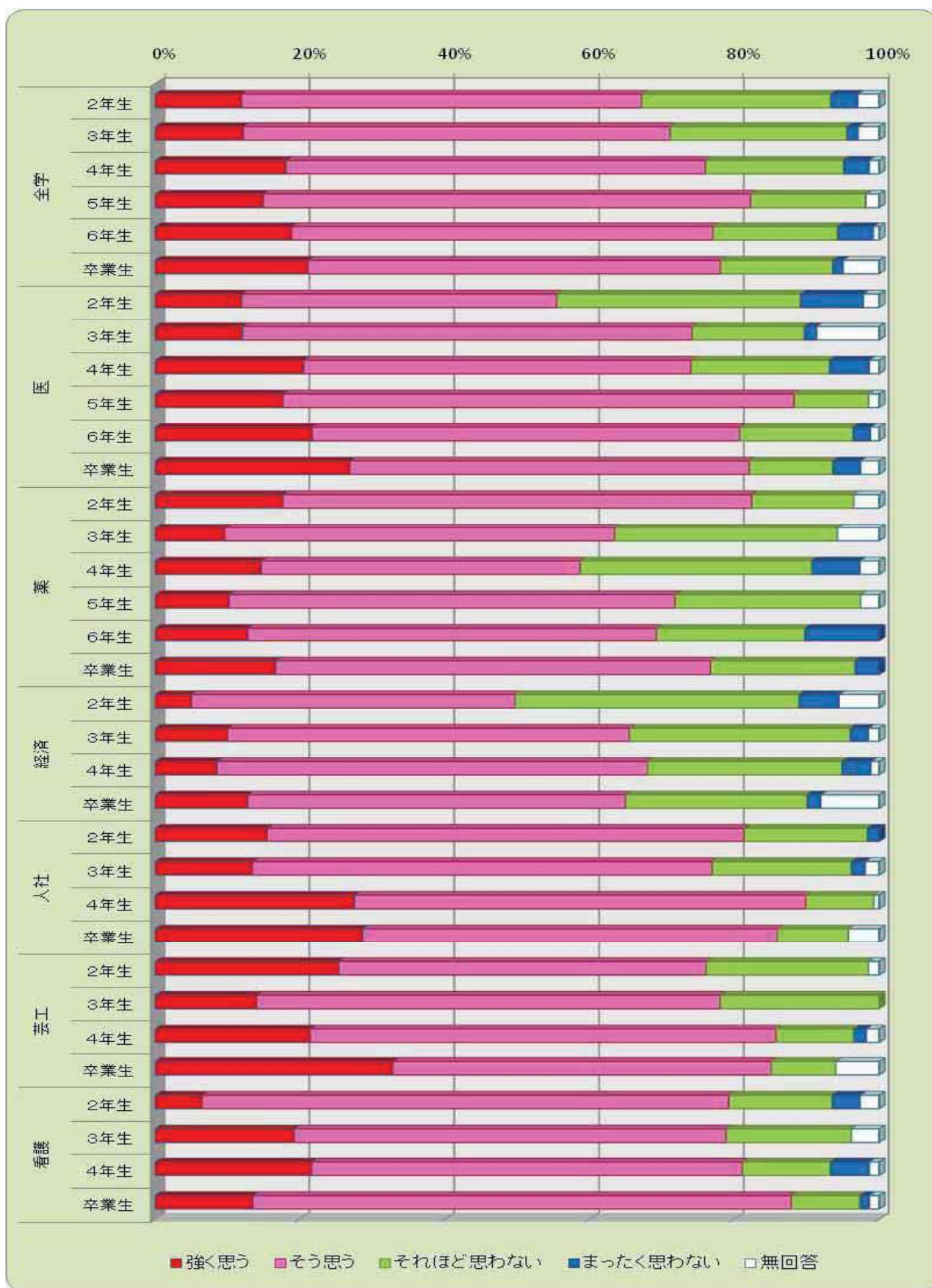


③ いろいろな授業から知的刺激をうけた



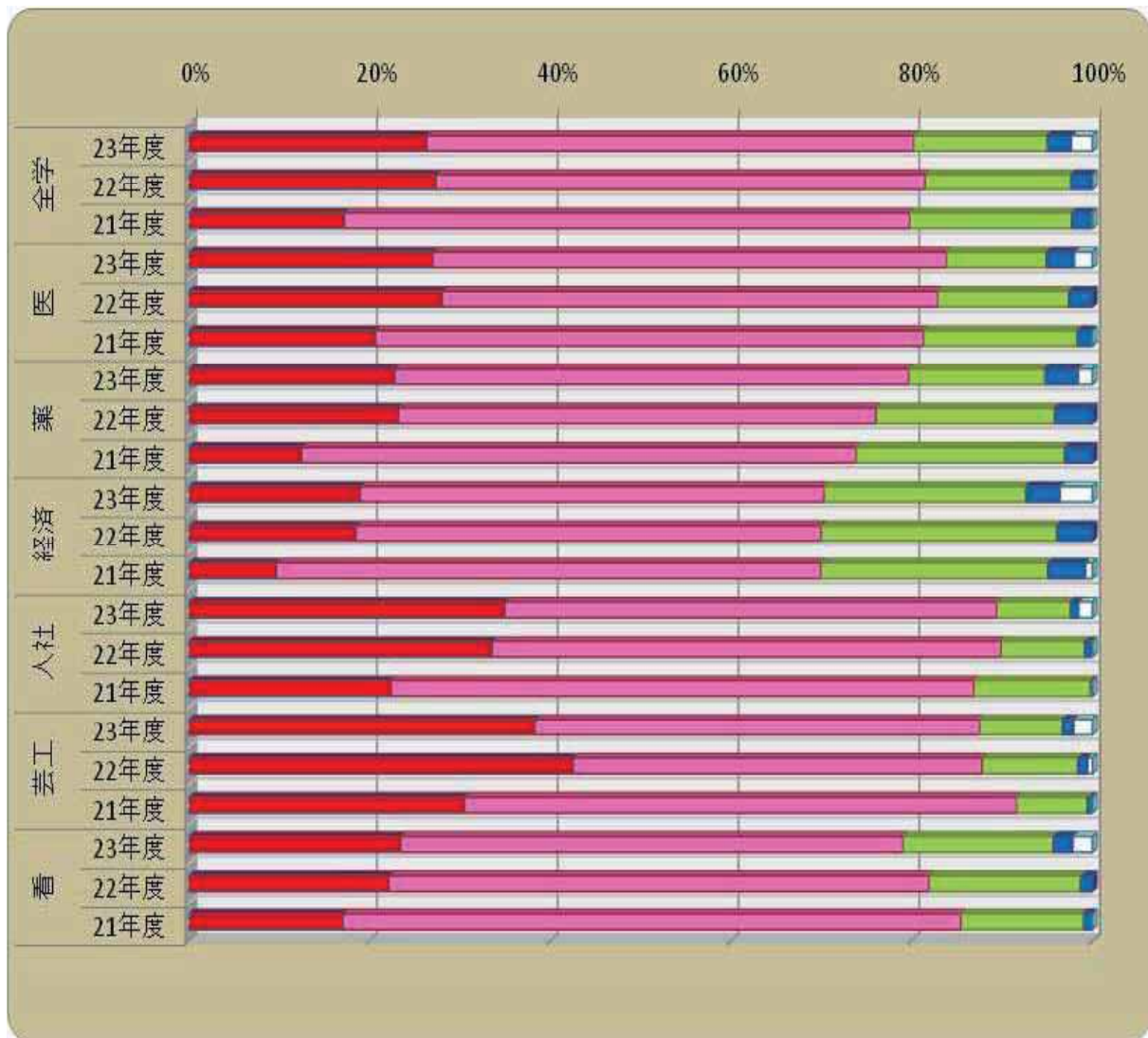
【全学部学年別】

③ いろいろな授業から知的刺激をうけた

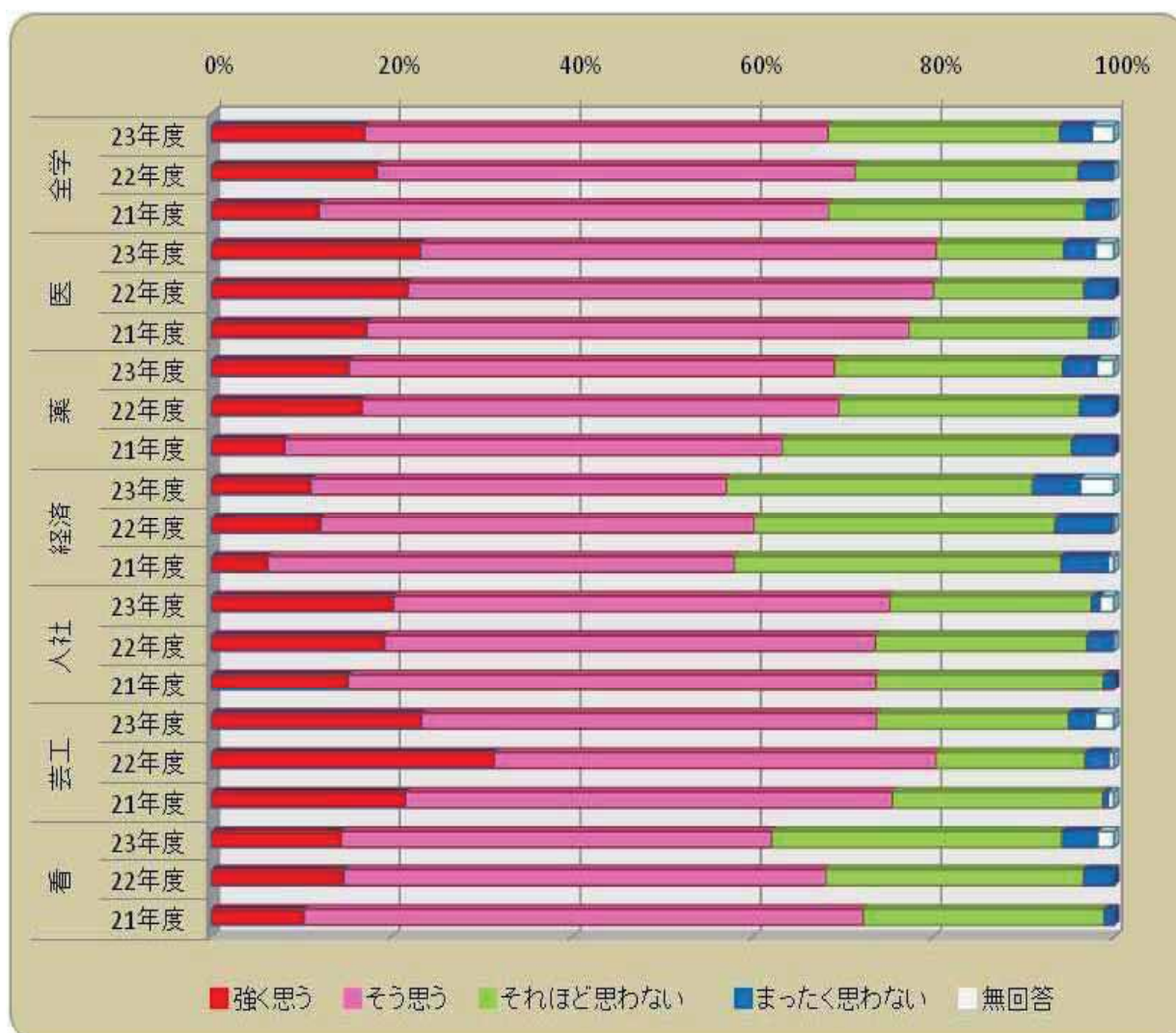


これまで受けてきた授業内容について

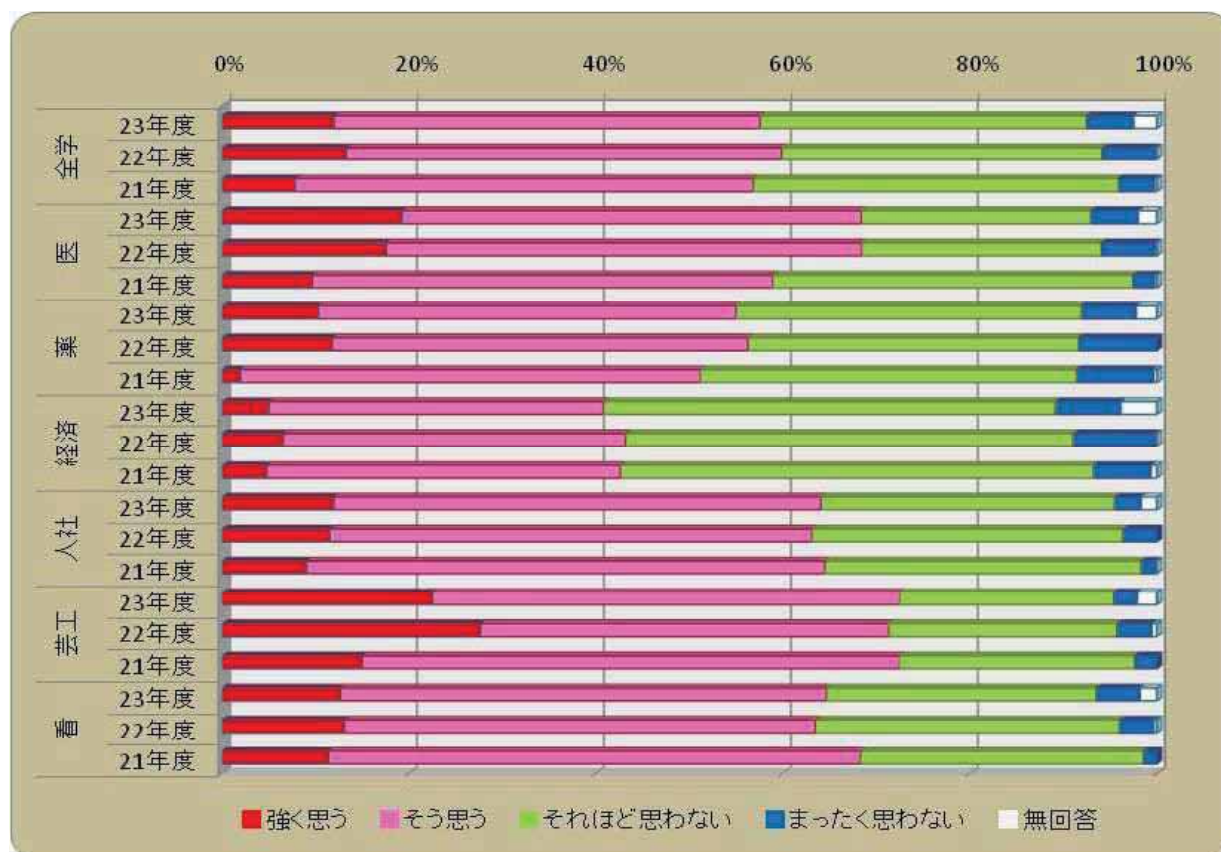
① 知的刺激を感じる授業に出会った



② 学問の面白さがわかってきた



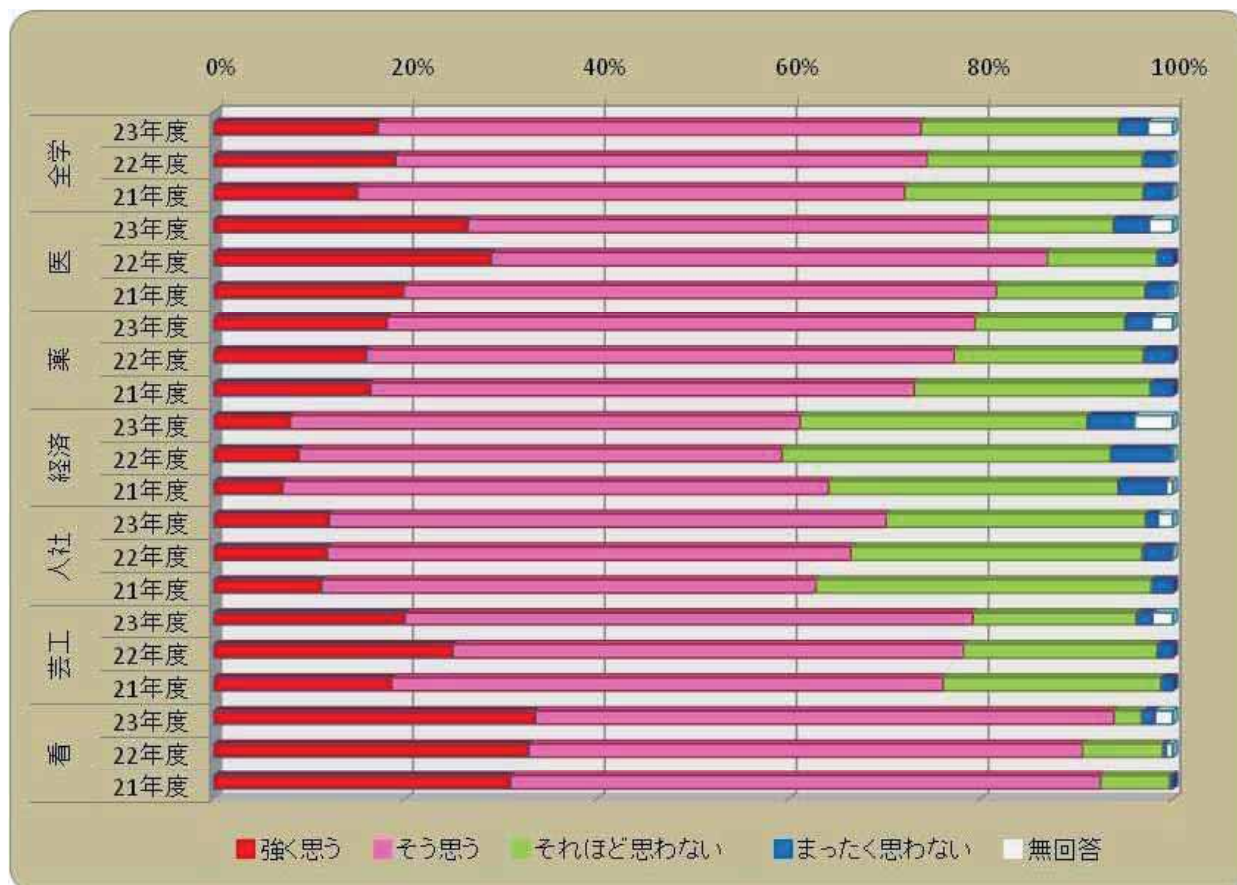
③ 授業は興味を引くものが多かった



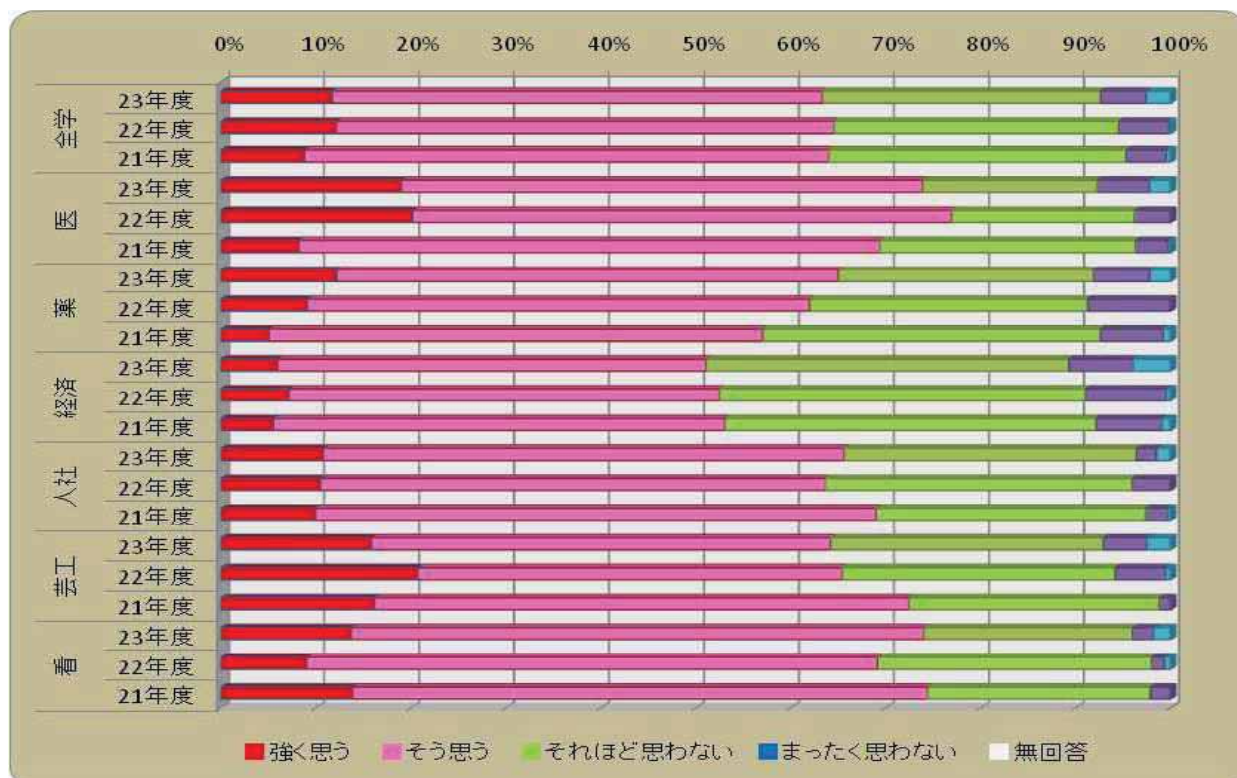
④ やりがいのある授業があって楽しい



⑤ 授業で学んだことは役に立つ

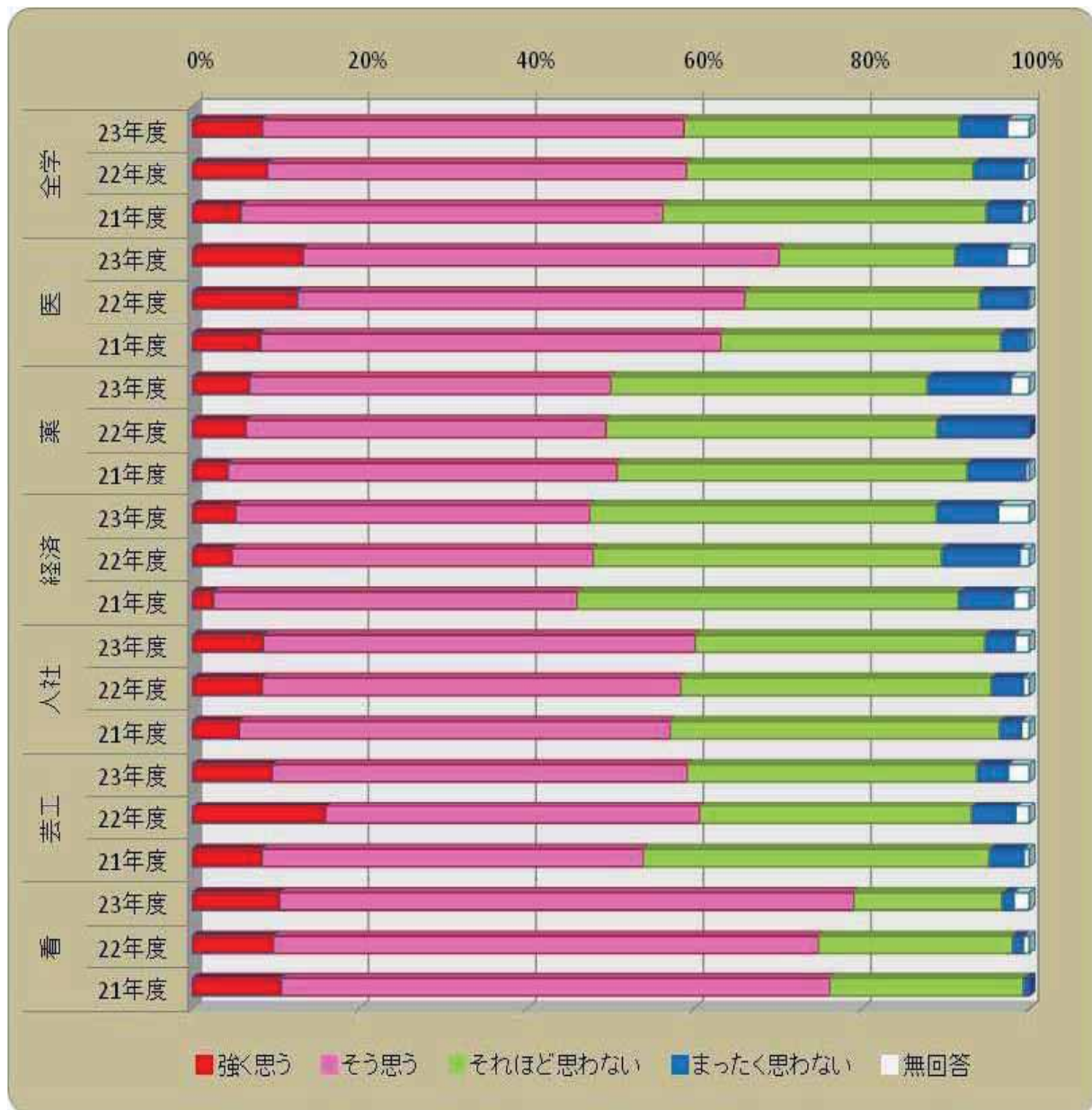


⑥ 大学での勉強には満足している



授業への教師の取り組みについて

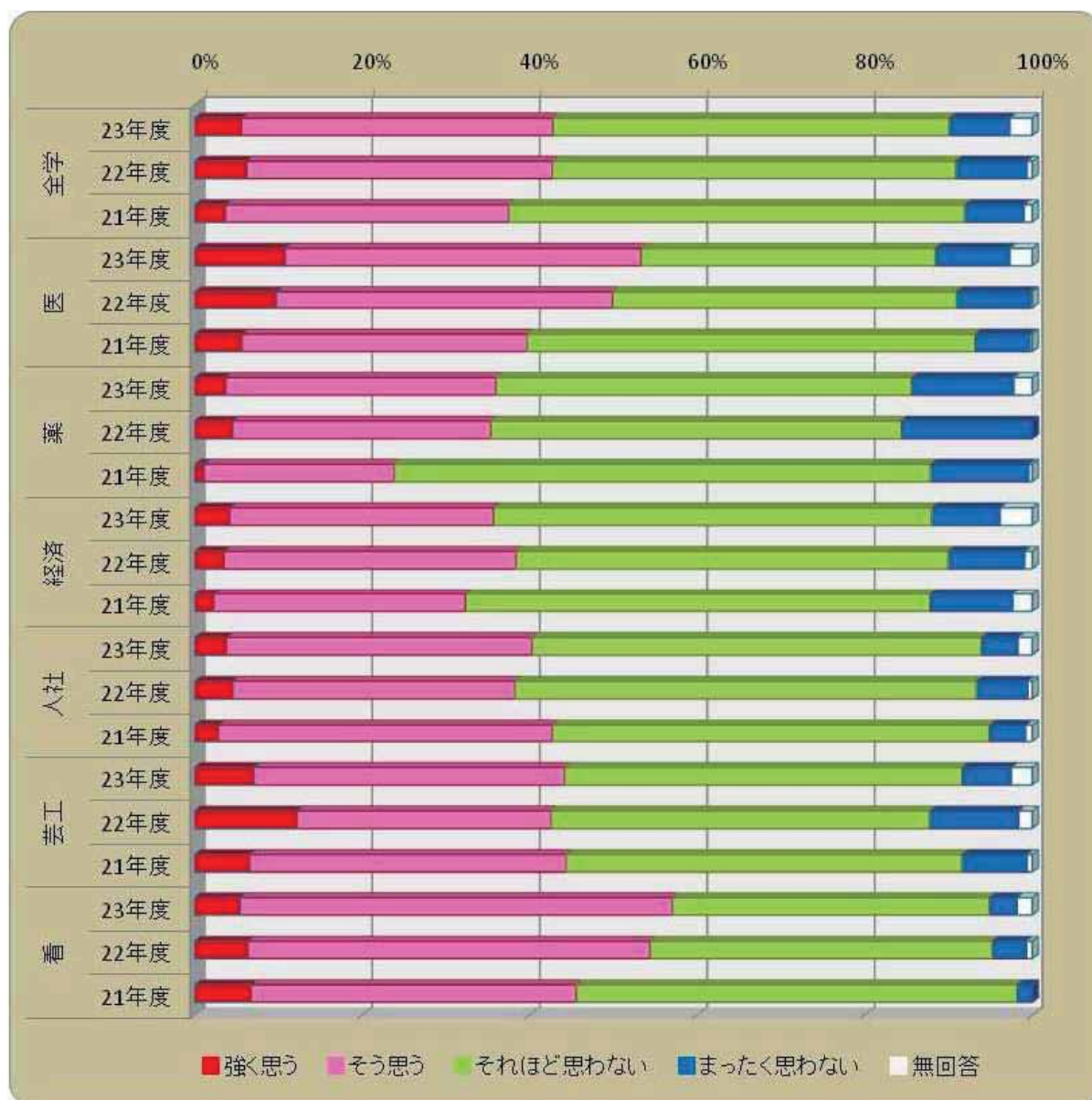
① 学生のことを考えて教えようとする先生が多い



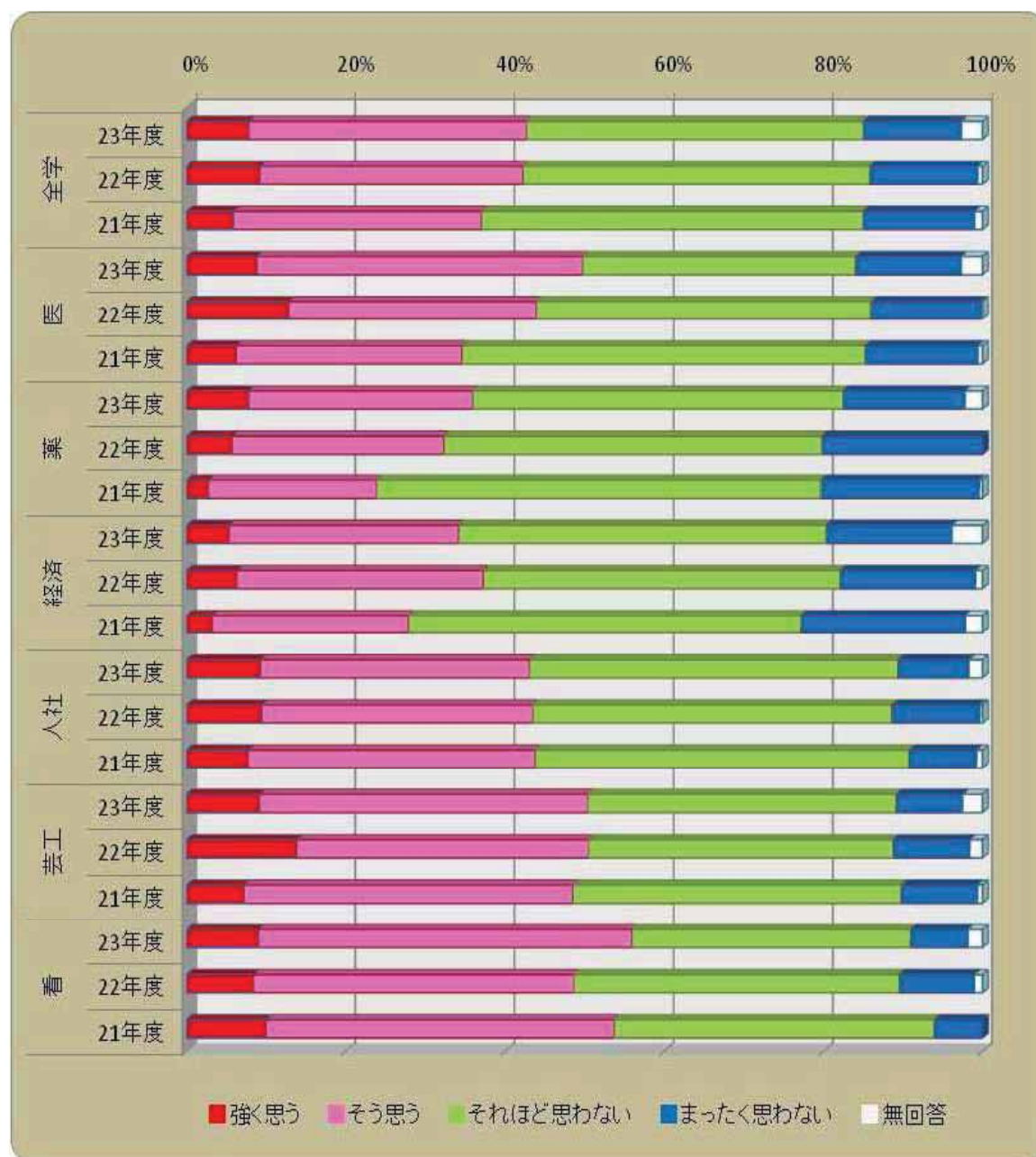
② 理解度を確認しながら授業を進める先生が多い



③ 教え方がうまい先生が多い



④ 自分の成長を気にしてくれる先生がいる



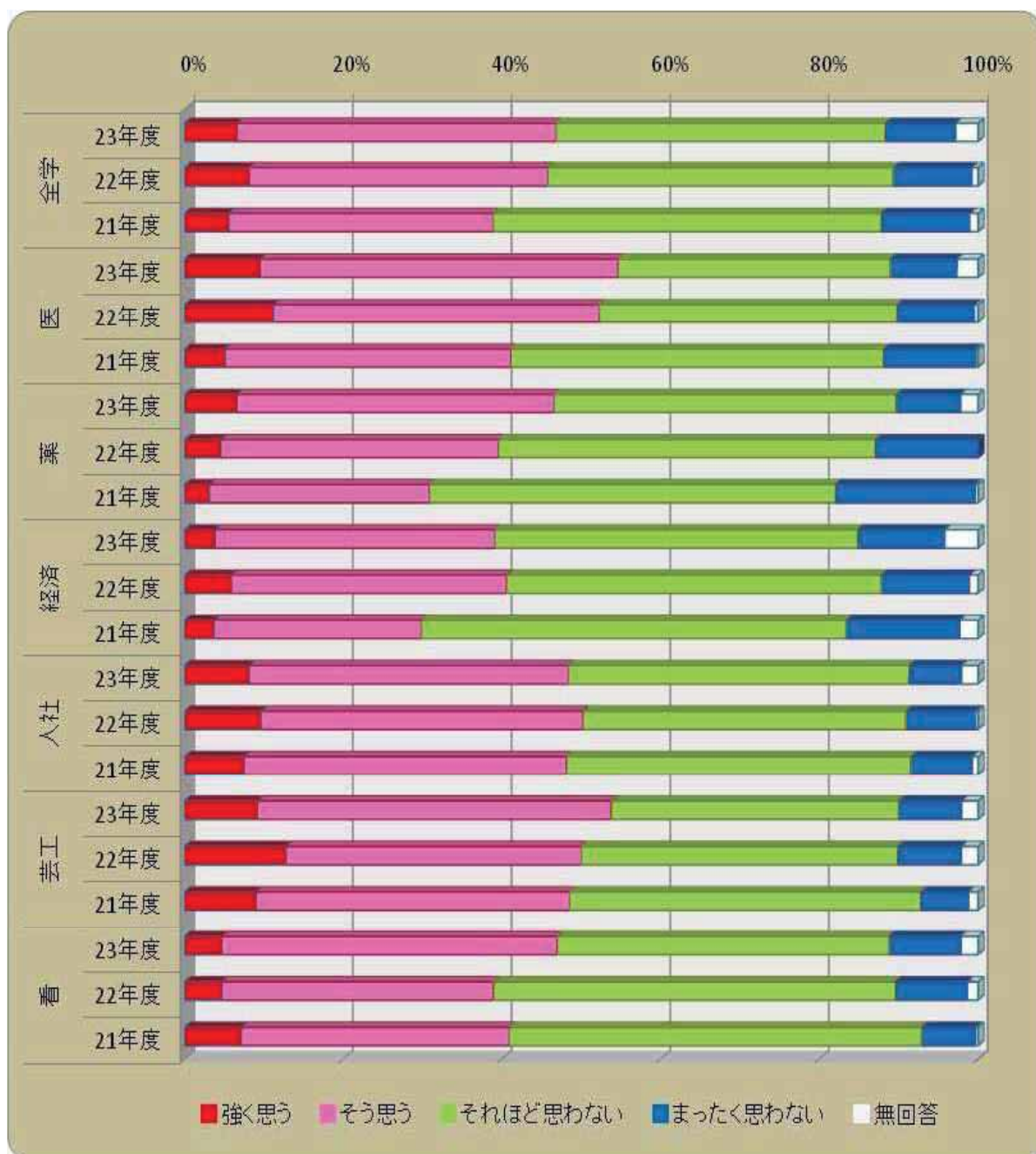
⑤ 相談をしやすい先生が多い



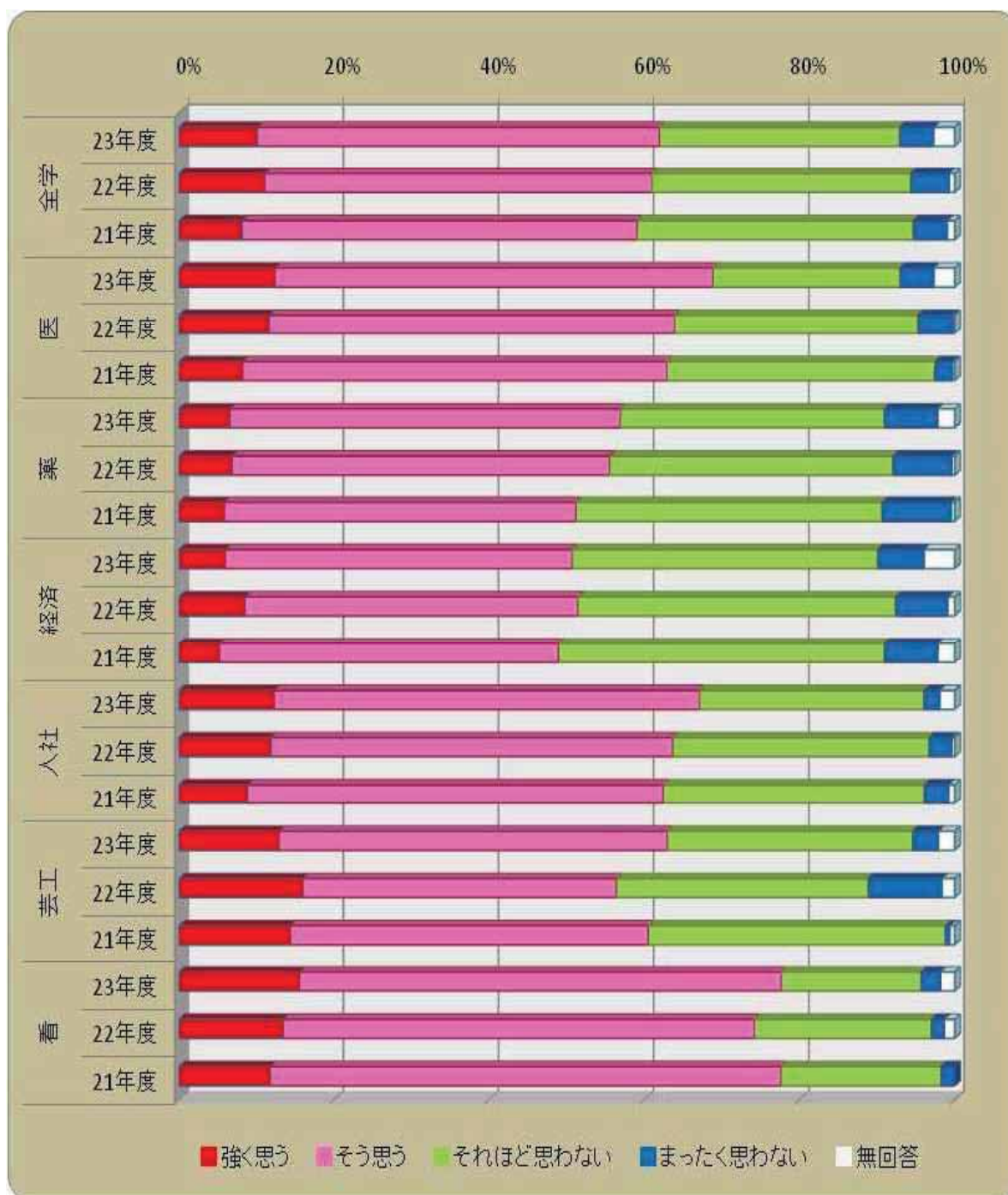
⑥ 授業の内容は全体的によい



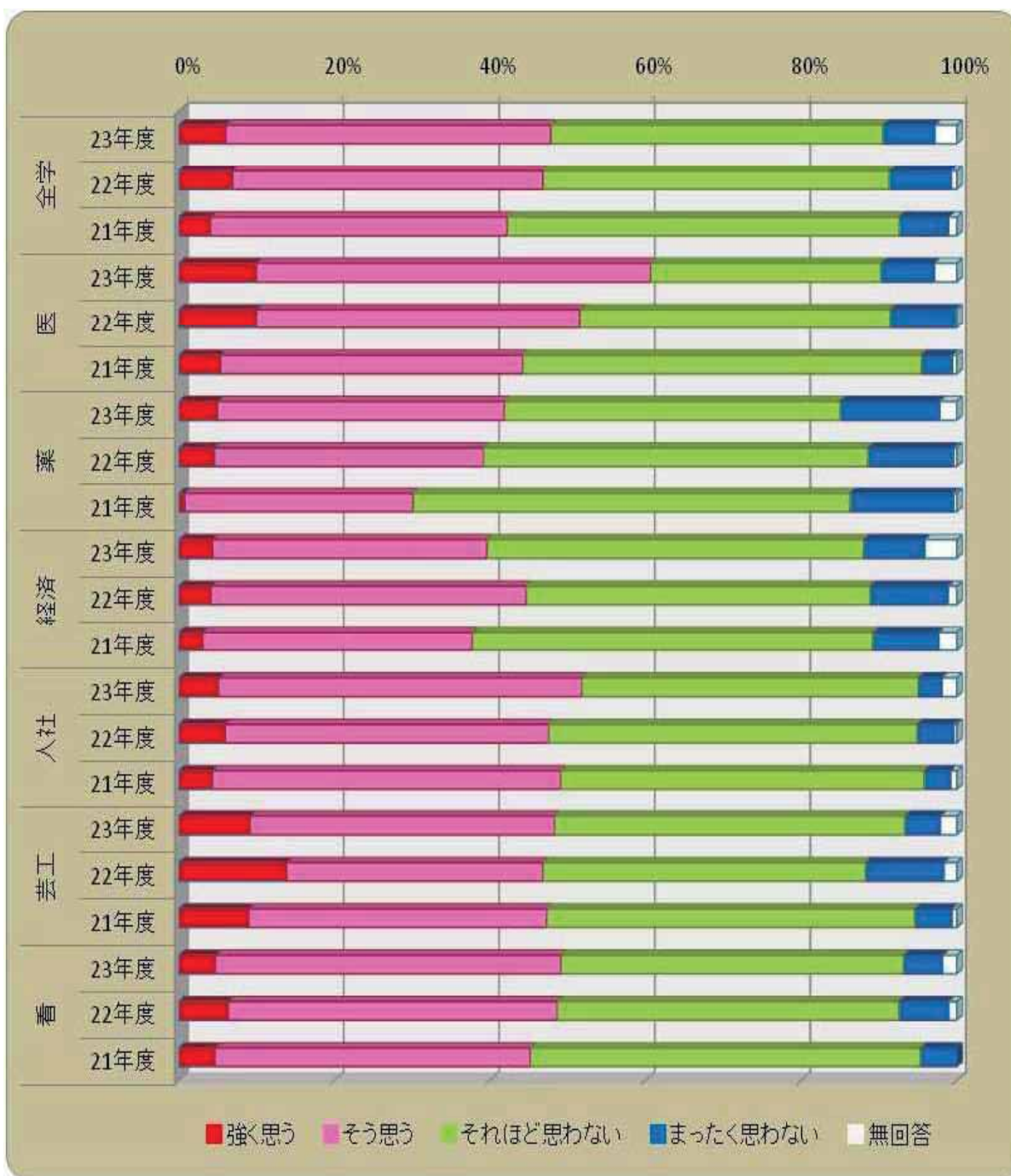
⑦ 議論の相手をしてくれる先生がいる



⑧ 授業に熱意をもった先生が多い



⑨ 授業を面白くしようとする先生が多い



平成 23 年 12 月 1 日

大学満足度調査結果について

教育支援センター長

大学満足度調査は、平成 19 年度以降全学生を対象に毎年実施しています。その結果は、教育改革やカリキュラム改革等に有効に利用されてきました。

しかし、調査結果の分析及び対策は学部毎に任されており、大学全体としての分析や評価が行われてきませんでした。この問題を解決するために、平成 23 年 4 月に発足した教育支援センターが中心となって全学的視点に立った分析や評価を行い、学部に対して報告や提言を行うことになりました。

従前、大学満足度調査結果は、調査年毎、学部毎、学年毎、設問項目毎に回答を集計し、相対度数による横棒グラフで表示してきました。

この方法では、経年変化や学部間の差等が明確でなく、全学的視点に立った分析や評価に適していないことから、各回答をポイントに換算し平均点をとる方法、すなわち、大学満足度調査版 GPA で表示することにしました。

各設問に対して用意されている回答は、「強くそう思う」、「そう思う」、「それほど思わない」、「まったく思わない」の 4 段階であり、調査開始当初にあった中間的な評価は廃止され、肯定的か否定的かに明確に分けるようになっております。この趣旨を活かして

強くそう思う = +3

そう思う = +1

それほど思わない = -1

まったく思わない = -3

とポイントをつけることとしました。したがって、評価点は -3～+3 の間の点数となり、次のような意味を持つことになります。

+3	全学生が完全肯定したことを意味し、現実にはあり得ないと思われる。
+1.2	+3 が 20%、+1 が 70%、-1 が 10%、-3 が 0% の場合が相当し、極めて肯定的意見が多いことを意味する。
+0.6	+3 が 20%、+1 が 50%、-1 が 20%、-3 が 10% の場合が相当し、かなり肯定的意見が多いことを意味する。
0	肯定的意見と否定的意見が拮抗することを意味する。
-0.6	+0.6 の逆であり、かなり否定的意見が多いことを意味する。
-1.2	+1.2 の逆であり、極めて否定的意見が多いことを意味する。
-3	全学生が完全否定したことを意味し、現実にはあり得ないと思われる。

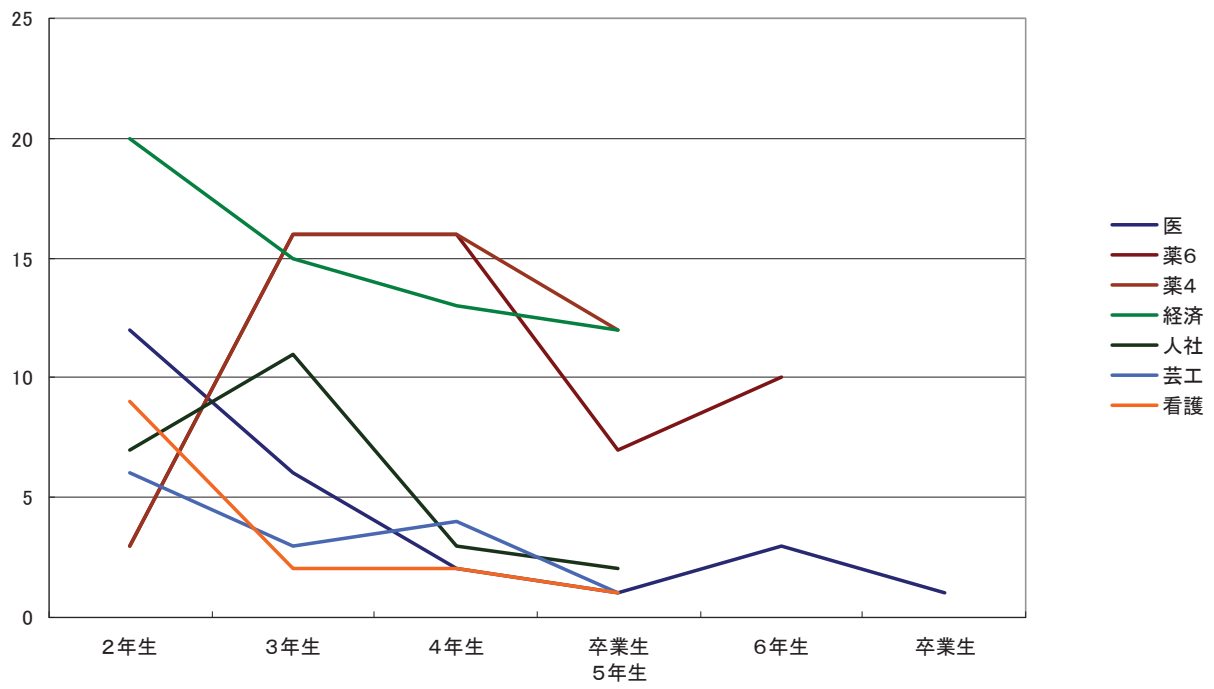
大学満足度調査結果全体に対するコメント

(1) 3ヶ年の経年変化を見たとき、若干の上下はあるものの、学部毎に値が安定的に推移しています。調査対象の学生が入れ替わっても調査結果の変化が少ないことは、学部毎の体質ないし体制の変化が少なく、学生による評価が固定していることを意味し、その調査結果は信用に足るものであると考えられます。

(2) 調査結果に対する対応

- ・評価点が+1.2 を超える（極めて満足度の高い）項目については、現時点では特に問題はないことになりますが、今後も高い評価を受け続けるようにすべきと思われます。(S)
- ・評価点が+0.6 を超える（かなり満足度の高い）項目については、緊急度は低いものの、さらに満足度を高めるべく努めるべきであろうと考えられます。(A)
- ・評価点が 0～0.6 である（不満足というほどではないが満足度が低い）項目については、満足度を高める努力が必要と考えられます。(B)
- ・評価点がマイナスである項目は、早急な対策が必要と考えられます。(C)
- ・評価点が-0.6 以下である項目は、特に緊急に対応すべきであると考えられます。(D)

学年別C及びDの項目数



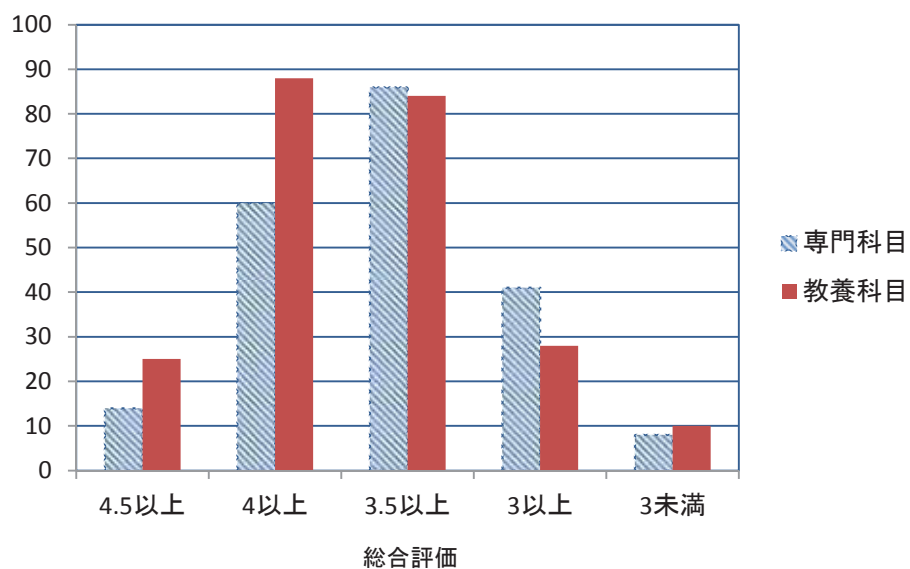
【年度計画21】

平成23年度 前期授業評価アンケート 問5(総合評価)の階層別科目数

総科目数 444

	4.5以上	4以上	3.5以上	3以上	3未満	合計
専門科目	14	60	86	41	8	209
教養科目	25	88	84	28	10	235

科目数



【年度計画21】

授業評価アンケート問5(総合評価)が3未満の科目数の推移 (H21年前期からH23年前期)

2012/1/13

数値は科目数

	H21年前期	H21年後期	H22年前期	H22年後期	H23年前期
総科目数	431	437	430	445	444[*] (458)
教養教育	6	7	11	5	10
医学部		2		2	(1) ^{**}
薬学部	3	3	5	1	1
経済学部	3	3	5	4	2
人文社会学部	4	3	2	4	3
芸術工学部	2	5	0	3	0
看護学部	1	2	0	2	2
全学合計^{***}	19	25	23	21	18

*医学部23年前期集計科目は通常後期で合算するため除外した講義数。
(458)は医学部前期集計科目を含めた数。

**医学部23年前期()の数字は後期で集計するため、参考の数値で、H23年前期の全学合計からは除外してあります。

***教養教育を含めた合計。

最先端・次世代研究開発支援プログラム

採択された研究課題の概要

1) テーマ 成体脳室下帯に内在する神経再生機構とその操作技術

1. 研究背景

胎児や新生児だけでなく、大人の脳においても新しい神経の細胞がつくられていることがわかってきた。脳は一度傷つくと治らないと考えられてきたが、動物を使った実験によって、以外に高い再生能力があることが明らかになった。

2. 研究の目標

脳の中で生まれた細胞がどのように脳の中を移動して目的地に到達し、傷ついた脳を再生するのかを明らかにする。次に、そのしくみを使って、病気や事故で失われた脳細胞を再生させることができるかどうかを調べる。

3. 研究の特色

現在、iPS細胞などを使って作った神経細胞を移植する再生医療に期待が集まっている。一方、この研究は脳がもともと持っている修復能力のしくみを詳しく調べ、それを利用して再生を誘導することを目指すものである。細胞を移植せずに脳の細胞を再生することができれば、より安全で治療効果の高い再生医療が可能になると期待できる。

4. 将来的に期待される効果や応用分野

脳こうそくなど現在根本的な治療方法が存在しない脳の病気が治るようになり、医療費の抑制や介護負担の軽減にもつながる。また、本研究によって再生医療の基盤技術が開発されれば、医薬品・医療機器・医療材料関連業界などにおける新たな産業・雇用の創出につながる。

2) テーマ 再生医療・癌治療への細胞老化の分子機構の利用ーエピジェネティクスからのアプローチ

1. 研究の背景

再生医療とは失われた組織や器官を、自己の細胞から再生して治療する革新的な医療である。しかし幹細胞（細胞を作る働きをもつ細胞）移植の際に残存する未分化細胞が容易に腫瘍を形成するため、再生医療の実現化は安全面において問題を抱えている。そこで腫瘍化防御機構として注目を浴びている細胞老化の分子機構を明らかにし、老化特性を腫瘍細胞に導入するという、独創的な考えを導き出した。

2. 研究の目標

ほとんど理解されていない細胞老化の分子機構を明らかにする。そしてその知見を利用して腫瘍細胞に細胞老化の性質を導入し、腫瘍化防止技術を開発する。最終的に臨床応用し、国民の健康社会の実現に寄与することを目指す。

3. 研究の特色

細胞の腫瘍化についての独自の研究成果に立脚したアプローチで独創性の高い研究成果を生み出す点と、世界的にトップレベルの研究グループとチームを組み、基礎から臨床応用まで幅広く取り組む点が本研究の特色である。

4. 将来的に期待される効果や応用分野

再生医療の実現化に加え得られた知見や確立した技術を、抗がん剤の開発、がんの診断マーカー、癌治療、アンチエイジングの開発など極めて重要な分野に応用できる。

設立記念シンポジウム

(開催趣旨)

平成23年秋、薬学研究科が保有する創薬にかかわる最先端の知的資源を有効に利用し、創薬シーズを見出す研究を遂行するとともに、創薬研究に携わる有能な人材を育成することを目的として創薬基盤科学研究所を設立し、それを記念して開催した。

- 1 主催：名古屋市立大学 大学院薬学研究科
- 2 日時：平成23年11月12日（土） 13時30分～17時30分
- 3 会場：名古屋市立大学 大学院薬学研究科 薬友会館 3F 水野ホール
- 4 対象、参加人数：教職員、学生、一般市民、民間企業研究者等 98名
- 5 テーマ、シンポジスト
 - (1)「日本のアカデミアにおける創薬オープンイノベーション」
長野 哲雄 東京大学 創薬オープンイノベーションセンター長
薬学系研究科長 教授
 - (2)「製薬企業からの提言：創薬イノベーションと人材の育成」
近藤 裕郷 塩野義製薬株式会社 執行役員 信頼性保証本部長
日本薬学会 医薬化学部会長
 - (3)「大学における創薬研究に望む：医薬品審査の立場から」
内海 英雄 (独) 医薬品医療機器総合機構 理事・審査センター長
 - (4)「大学における創薬研究：医療の立場から」
上田 龍三 名古屋市病院局長
名古屋市立大学 顧問 病院連携理事 名誉教授・特任教授

**平成23年度より新しく開始する
名古屋市立大学大学院薬学研究科
東海薬剤師生涯学習センター運営規程**

ねらい

三公立連携薬剤師生涯学習支援講座の3年間の実績を踏まえ、そこで培った経験や資材、三公立大学との連携そして本学の医学部、看護学部との有機的連携ならびに名古屋市立大学薬学部同窓会(薬友会)にも協賛いただき、全国で初めての公立大学の薬剤師生涯教育センターとして本格的な研修を継続発展させていくことは、名市大が東海地区の薬剤師教育の中心的役割を担い、将来の薬学部教育の中で先導的立場を確立するために大変重要である。また、薬剤師卒後教育の推進は、新しく設置される6年制薬学部の社会人大学院への大きな布石になるとともに、実務実習などの臨床実習の指導者として質の高い薬剤師を確保することにも有用である。

1)事業母体の組織体制

本事業の実施母体は名古屋市立大学大学院薬学研究科である。平成20年に設置した三公立大学による東海地区地域連携リカレント教育センターを継承して新たに設置する東海薬剤師生涯学習センター（以下、学習センター）が主として本事業を担当、実施する。本事業は本研究科の教育活動の一環と位置付け、本研究科が責任を持って運営にあたる。

2)学習・研修の種別

①三公立連携講座

三公立大学が分担して90分講義を1単位として年間9単位を目安に実施。講義は、WebによるTV会議システムを利用して、3会場での同時受講を可能とする。

他大学で行われる講義については、それぞれの大学が独立して運営管理にあたる。従って、名市大で行われる講義のみを学習センターは担当する。名市大での受講料は1年分を申込時に徴収する。

②実習コース

「三公立連携講座」で行ってきた実習を大学の実習施設を利用して実施。実習は1回180分で2単位とする。実習は、受講人数を設定し、実習毎に受講生を募集する。受講人数を超えた受講希望者があった場合は、三公立連携講座受講生を優先して、事務局での抽選にて決定する。受講料は実習毎に設定し、実習時に徴収する。実習コースは愛知県薬剤師会の支援を受けて実施する。

③演習コース

新しくSGDなどを中心とした演習コースを設置。講師の講義+演習を年間で定期的に行い、講義からだけでは得られない技能修得を目指す。演習コースも実習コース同様、1回180分2単位とする。受講人数を設定し、演習毎に受講生を募集する。受講人数を超えた場合は、三公立連携講座受講生を優先して、事務局での抽選にて決定する。受講料は演習毎に設定し、演習時に徴収する。演習コースは愛知県薬剤師会の支援を受けて実施する。

④薬友会 卒後講座

薬友会が行う卒後講座を学習センターの認定講座として90分1単位として認定する。

本講座は薬友会が募集・実施・経理等を行い、学習センター事務局は学術・事務支援と教育センターの広報に載せるなどの補助業務を行う。

23 年度名古屋市立大学東海薬剤師生涯学習センター講座の概要

講座コース：三公立連携薬剤師生涯学習支援講座

受講料：8,000 円

開催日、メイン会場、内容、参加人数

開催日	メイン会場	内容	参加
平成 23 年 6 月 1 日(水)	名市大	医薬品の安全性確保とレギュラトリー・サイエンス	44
6 月 15 日(水)	岐阜薬大	薬剤師を取り巻く状況と薬剤師への期待	37
7 月 13 日(水)	静岡県大	2 型糖尿病の治療戦略—DPP-4 阻害薬の有用性を 中心として	44
8 月 10 日(水)	名市大	エビデンスに基づいて向精神薬を使い分ける！ ～薬理学的視点から薬剤師ならではの判断を下す～	44
9 月 14 日(水)	岐阜薬大	高齢者の薬物療法	40
10 月 12 日(水)	静岡県大	ヘルシンキ宣言を理解して臨床研究推進・臨床試験 審査に役立てる	32
11 月 16 日(水)	名市大	フィジカルアセスメントの基本	33
12 月 14 日(水)	岐阜薬大	薬剤師さんに知ってもらいたい歯医者のお仕事	32
平成 24 年 1 月 11 日(水)	静岡県大	機能性食品の有効性と安全性評価	33

講座コース：名古屋市立大学薬学部卒後教育講座

受講料：5,000 円

開催日、内容、参加人数

開催日	内容	参加
平成 23 年 9 月 11 日(日)	歯科領域における金属アレルギーの診断と治療	197
9 月 11 日(日)	緩和医療の意義と役割	
10 月 16 日(日)	合剤は降圧治療を変えるか	204
10 月 16 日(日)	創薬を支える薬物送達システム —最適な薬物治療をめざした創剤研究—	
11 月 6 日(日)	女性泌尿器科の最新医療—尿失禁と骨盤臓器脱	182
11 月 6 日(日)	認知症の全て（治療薬の現在と未来）	

講座コース：実習コース「問診の技法」

（セルフメディケーション財団：愛知県薬剤師会生涯学習特別委員会 共催）

受講料：無料

開催日、内容、参加人数

開催日	内容	参加
平成 23 年 12 月 8 日(木)	よくある症状 その 1 頭痛	6
12 月 15 日(木)	よくある症状 その 2 胸痛 付録：携帯心電計で分かることの実習	4
平成 24 年 1 月 12 日(木)	よくある症状 その 3 発熱	6
1 月 19 日(木)	よくある症状 その 4 腹痛	6

23 年度愛知県薬剤師会生涯学習特別委員会企画講座

講座コース：薬剤師のための臨床心理学演習

(名古屋市立大学東海薬剤師生涯学習センター 協力)

受講料、定員：愛知県薬剤師会会員全 7 回 7,000 円、非会員 14,000 円 30 名

開催日、内容、参加人数

開催日	内容	参加
平成 23 年 8 月 20 日(土)	非言語コミュニケーション①	30
9 月 24 日(土)	非言語コミュニケーション②	27
10 月 1 日(土)	緊張・リラクセーション	25
11 月 15 日(土)	がん患者会からの話	22
平成 24 年 1 月 7 日(土)	ブリーフサイコセラピー	23
2 月 4 日(土)	インクルーシブセラピー	22
3 月 3 日(土)	演習のまとめ	21

講座コース：初心者パソコン/グミ製剤/無菌操作 実習

(名古屋市立大学東海薬剤師生涯学習センター 協力)

受講料、定員：愛知県薬剤師会会員 1 回 2,000 円、非会員 4,000 円 20 名

開催日、内容、参加人数

開催日	内容	参加
平成 23 年 7 月 31 日(日)	①初心者のためのパソコンを利用した E-ラーニング教室	8
8 月 8 日(日)	薬局でもできるグミ製剤 「飲みにくい薬を飲みやすくする工夫」	7
9 月 25 日(日)	②初心者のためのパソコンを利用した医薬品情報の活用	20
12 月 18 日(日)	在宅で必要な注射薬の手技を学ぶ 「あなたは正しい手洗いができますか」	17

【年度計画 27】

平成23年度
「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」申請内容

大学名	名古屋市立大学
設置者名	公立大学法人名古屋市立大学
プログラムの名称 (全角20文字以内)	チーム医療に貢献する薬局薬剤師の養成 副題：薬学部、医学部、看護学部、附属病院が連携して実施する 地域チーム医療に貢献する薬局薬剤師養成

1. プログラム全体の理念・概要・特色（新規性、独創性を含む）（400字以内）

本プログラムは、医学部、看護学部、附属病院の支援の下に、愛知県内で在勤の薬局薬剤師を対象として、チーム医療の担い手として貢献できる高い臨床能力を育成することを目的として実施する。

処方せん調剤や在宅療養指導、健康相談などを通じて地域医療に貢献することが求められながら、病院薬剤師と異なって必ずしも十分にチーム医療を担うための研修の機会がなかった薬局薬剤師に的を絞って、薬学部のみならず医学・看護学部、附属病院の人的資源や医療研修施設の設備を活用することにより、これまで医学・看護学部、附属病院で培ってきた医療研修プログラムを基礎にして、薬剤師の実践的な臨床能力の育成を図ろうとしている点に本プログラムの特色がある。本プログラムの実施は地域医療の充実につながるだけでなく、薬局実務実習指導薬剤師（以下 薬局指導薬剤師）のレベルアップを通じてこの地域における薬学教育の向上にも資するものである。

2. 本プログラムの必要性（400字以内）

現在、東海地域の多くの実務実習病院では、チーム医療に薬剤師がすでに参加し研修の機会も持たれている。しかしながら、薬局の薬剤師は薬物療法、在宅療法、プライマリ・ケアにおいてチーム医療を実施できる可能性が大きく、在宅医療での褥瘡ケアに積極的に参画している薬局薬剤師などが出てきているのにも関わらず、他職種と連携する医療知識や技能、コミュニケーション能力等を習得し研鑽する機会がほとんど与えられていない。

また、実務実習薬局の学習体制が不十分なため、実習生に対して薬局薬剤師の地域医療への対応をきちんと教育できる薬局は少なく、6年制薬学部の臨床教育において大きな課題となっている。大学が積極的に実務実習を依頼する薬局施設への研修をサポートして地域医療に貢献する高い臨床能力を持つ薬局指導薬剤師を育成することは、地域のチーム医療の推進に必要なだけでなく、6年制薬学部教育にも大きな必要性があると言える。

3. プログラムの実施体制等

(1) プログラムの実施内容・実施体制

＜プログラムの実施内容＞

①医療系学部連携による新しい薬局指導薬剤師研修プログラムの開発と実施

地域におけるチーム医療に貢献する薬局指導薬剤師を養成するための新しい研修プログラムを医学・看護学部、附属病院で行っている教育研修を活用して開発し、薬学部・医学部・看護学部・附属病院が連携して実施する。研修プログラムには下記の3つの領域を設定する。領域1は主に医学部、附属病院、領域2は主に看護学部の支援を仰ぎ、領域3は、医師、看護師など他医療職種とのグループ討論を通して連携を深めながら研修を行なう。研究発表能力の育成は薬学部教員のサポートにより進めていく。

領域1＜薬剤師が医療現場で活動する際に必要な知識・技能＞

在宅療養、薬局店頭で薬物療法のモニタリングや患者支援に活用できるフィジカルアセスメント、基本的医療用具、機器類の取り扱い、救急救命措置の基礎、褥瘡ケアなどの知識・技能の習得を目指す。フィジカルアセスメントについては実際の薬局店頭や在宅支援時に実際に活用してその有効性や問題点を考察する。

領域1の研修については、薬学部実習施設ならびに附属病院臨床シミュレーションセンター、医学部研修施設にて実施し、医学部、附属病院から派遣される教員が指導を担当する。実際の薬局店頭や在宅支援時の有効性や問題点の検証については、受講生の所属薬局や、NPO褥瘡ケアを考える会、愛知県薬剤師会等の支援を得て実施する。

領域2＜患者に接する際に必要な知識・技能・態度＞

在宅や店頭での健康相談に対応するための医療知識やコミュニケーション技術を基本に、患者の介護支援や精神的ケアを可能にする知識・技能・態度を習得する。

領域2の研修については、看護学部の教員を中心に、附属病院の医師、看護師が連携して指導を担当し、附属病院内研修施設、医学部医学教育センターにて実施する。

領域3＜症例等を科学的に分析し、学術的に発表する知識・技能＞

薬局指導薬剤師が薬物療法の症例を持ち寄り、薬学部、医学部、看護学部教員をチューターとして症例を検討する、あるいは学術論文をもとに薬物治療効果を吟味する等で、薬剤師自身が薬物療法の指針を積極的に考える訓練を行なう。さらに、検討した症例などをもとに臨床研究として学術的に発表するためのサポートを薬学部教員が行うことで、薬局指導薬剤師の臨床研究能力を育成する。

領域3については、医学部、看護学部、附属病院と連携し、名古屋市立大学東海薬剤師生涯学習センター（以下 学習センター）を主研修会場として実施する。

②先進的な薬剤師活動を行っている医療現場の見学と情報交換

チーム医療で薬剤師が積極的に活動を行っている病院施設、病院薬剤部と地域保険薬局が連携して患者情報を共有して薬物治療に効果をあげている施設、実際に病院と在宅患者、介護支援者と連携して効果を上げている薬局施設等への見学会を年1回～2回実施して、受講生の薬剤師業務の今後の方向性を考えモチベーションを向上させる機会とする。

附属病院、実務実習実施病院・薬局等から薬剤師の積極的な活動状況について情報を収

集し、愛知県薬剤師会や病院薬剤師会とも連携して、直接現場で活躍する薬剤師と薬局薬剤師が情報交換できるような機会を設ける。

③シンポジウムの開催

本研修プログラムの方向性を確認するため「**薬剤師業務と生涯研鑽の今後を考えるシンポジウム**」を本研修企画の1年目と3年目に実施する。講師は先進的な活動をしている現場薬剤師や大学教員等に依頼し、講師と参加した薬剤師とのパネルディスカッションも実施して受講生のモチベーションを向上させるとともに、広く愛知県内の薬局薬剤師に広報して参加を呼びかける。

＜プログラムの実施組織＞

研修コースの企画・実施組織：「**薬剤師臨床研修委員会**」

薬学部内に新しく「**薬剤師臨床研修委員会**」を設置して事業の実施にあたる。委員会は委員長と5名の学内委員（薬学部2名、医学部、看護学部、附属病院各1名）から成り、下記3つの小委員会を委員会内に設置する。各小委員会委員も、研修委員会委員を責任者として、薬学部、医学部、看護学部、附属病院から選出された委員で構成する。各小委員会で協議された内容は研修委員会において検討し決定する。

運営小委員会：研修の企画・実施計画等全般を協議する。

医療・情報等の安全管理もこの小委員会が担当する。

カリキュラム小委員会：本研修で実施する研修の具体的内容を協議する。

広報小委員会：薬局指導薬剤師への広報や各種団体との連携を担当する。

学内評価委員2名と学外評価委員3名の**評価委員**を別途置き、研修の評価を実施する。

本研修の事務的な業務を専属で行う事務職員を1名置いて対応する。

4. プログラムの実施計画

（1）本年度の実施計画

①9月～11月：

名古屋市立大学薬学部内に東海薬剤師生涯学習センターを母体に新しく「**薬剤師臨床研修委員会**」を設置し、運営小委員会、カリキュラム小委員会を開催して具体的な研修内容を協議する。

運営小委員会、カリキュラム小委員会からの提言を受け、**薬剤師臨床研修委員会**が実際の研修スケジュール、会場、講師などを決定する。愛知県薬剤師会を通して新しい研修を受講する薬局指導薬剤師の募集を開始する。

②12月～3月：

新しい研修コースの実施。初年度は

領域1 フィジカルアセスメント、病棟や在宅医療で使用する機器類の取り扱い、注射、点滴の実技、救急救命措置を中心とした実習コース4科目4回(1回4時間)実施。

領域2 患者や相談客との基本的なコミュニケーション技術をロールプレイなどで学ぶ研修を2回(1回4時間)実施。ロールプレイに臨床心理士や医師、看護師などの他職種にチ

ューターを依頼する。

領域3 薬剤師が医療現場で実際に遭遇した薬物療法の症例を取上げて、そこに医師、看護師など他職種スタッフが参加して、薬物療法についての検討を行なう定期的なワークショップを3回(12月～2月毎月1回5時間)実施する。薬学部医薬品安全評価学分野教員による疫学的研究論文考察ワークショップを1回(3月)実施。

病院と薬局が連携して患者の薬物療法を支えるシステムを構築している地域の医療施設見学会を実施し、実際の病院や薬局での業務を見学するとともに、その地域の薬剤師と情報交換をして、自分達の地域での薬剤師業務の可能性を考察する。

③3月：

研修委員会主催による「新しい薬剤師業務を支えるために：今、薬局薬剤師に何が求められ、何が可能か」と題したシンポジウムを実施する。このシンポジウムには先進的に医療現場で活躍している薬剤師、在宅医療で貢献している薬剤師、実務実習で進んだ指導を行なっている実務実習指導薬剤師を講師に招き、その業務について報告してもらうとともに、パネルディスカッションを行う。今後の薬剤師の方向性を確認し、さらにそれを支えるための研修についての提言を本シンポジウムから発信する。

期間が短いため、年間の研修プログラムは24年度完成を目指し、受講生もまず20名を先行募集して研修を開始。20名は次年度に未履修の科目を別枠で受講することも可能とする。

(2) 24、25年度の実施計画

24年度：

領域1 フィジカルアセスメント、医療機器取扱い、注射・点滴実技、救急救命措置は継続して実施。フィジカルアセスメントでは、血糖値やHbA1c、PT-INR測定器、パルスオキシメーターなどの測定機器を実際に薬局店頭で測定を実施し、患者や相談客などの反応や現場での課題などを考察する実習も加えて年6回の研修を実施する。

領域2 緩和ケア、認知症、心理カウンセリングの専門講師による講義や演習を加えて年6回の研修を実施する。

領域3 症例検討ワークショップの継続、プライマリ・ケア、在宅支援時の対応検討もワークショップに追加。実際の医療現場での臨床研究をサポートして学会・論文発表を進めるワークショップも開始して年10回のワークショップを実施する。先進的な薬剤師業務を行っている施設の見学会を実施。

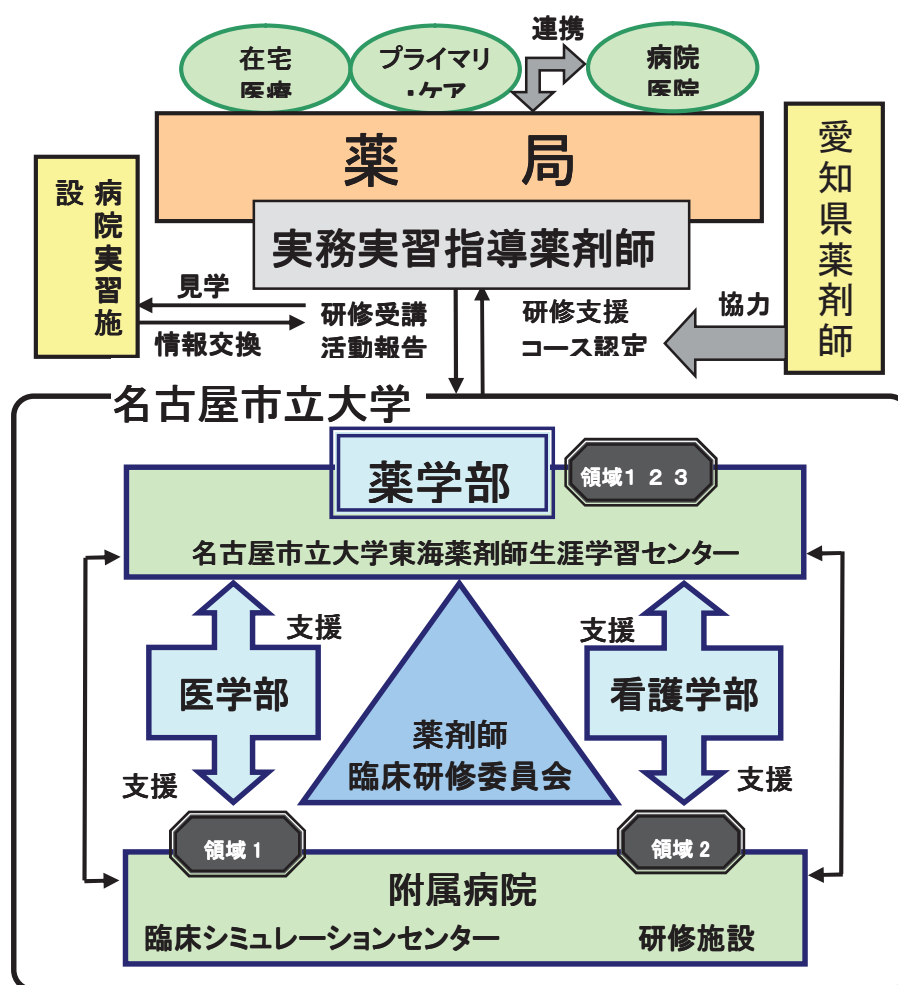
24年度に1年間の研修プログラムが完成し、年間40名の薬局薬剤師養成を行う。

25年度：

24年度の研修を継続実施。学習センターでサポートした臨床研究の学会・論文発表。3月に23年度に実施したシンポジウムの第2回を実施して、研修を受講した薬剤師、大学教員などを講師に今後の薬剤師生涯研鑽と新しい薬学部教育についての提言を行う。

(表 1) 研修<領域>の具体的内容 (年間研修プログラム)

	研修の内容 (科目)	主たる研修会場
領域 1 (5 科目 年 6 回)	①フィジカルアセスメント (聴診、血圧、血糖値、HbA1c、酸素飽和度等) ②在宅医療における基本的医療機器類の取扱い ③点滴や注射器具の使用方法和実技 ④救急救命措置 ⑤褥瘡ケアなど在宅薬物療法の実技	薬学部実習施設 附属病院臨床 シミュレーション センター
領域 2 (4 科目 年 6 回)	①医療コミュニケーションの基礎 ②高齢者、障害者支援のための介護技術 ③災害時などのストレスを軽減する看護技術 ④緩和ケアやうつ病など精神的支援の必要な患者ケア	附属病院研修施設 医学教育センター
領域 3 (年 10 ワーク ショップ)	①薬物療法の症例検討 ②学術論文による科学的検討 ③症候学に基づく患者分析 ④学会・論文などの学術発表準備	東海薬剤師生涯 学習センター



(図 1) 名古屋市立大学による薬局実務実習指導薬剤師研修プログラム

「チーム医療に貢献する薬局薬剤師の養成」事業 概要

この度 平成 23 年度からの 3 年間の予定で、文部科学省大学教育改革の支援事業のうち「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」として、本学が申請した＜チーム医療に貢献する薬局薬剤師の養成＞事業が採択されました。

この事業は、薬局薬剤師、特に実務実習の指導を行う薬剤師に特化して、社会のニーズに応えられる薬局薬剤師の新しい可能性を探る研修を年間計画で行うものです。

平成23年度「チーム医療に貢献する薬局薬剤師養成 研修」予定表

日程	時間	会場	内容
12月8日(木)	19:00～21:00	薬学部OSCE	問診の技法①頭痛
12月15日(木)			問診の技法②胸痛
12月18日(日)	13:00～17:00	薬学部模擬薬局	「無菌操作 在宅で必要な注射薬の手法を学ぶ」
1月7日(土)	15:00～17:30	薬学部模擬薬局	「薬剤師のための臨床心理学演習 1月」
1月12日(木)	19:00～21:00	薬学部OSCE	問診の技法③発熱
1月19日(木)			問診の技法④腹痛
1月22日(日)	13:00～17:00	薬学部模擬薬局	「学術論文の読み方と統計の考え方」
1月29日(日)	12:30～16:00	名城大学薬学部 ライフサイエンスホール	特別シンポジウム「6年制薬学部新時代に向けて」
2月4日(土)	15:00～17:30	薬学部模擬薬局	「薬剤師のための臨床心理学演習 2月」
2月5日(日)	13:00～17:00	薬学部模擬薬局	「薬局で利用できる臨床測定機器の使用法とその活用」
2月19日(日)	13:00～17:00	薬学部模擬薬局	「学術論文の読み方演習」
2月26日(日)	13:00～17:00	市大病院シミュレーションセンター	「薬剤師のためのフィジカルアセスメント 第1回」
3月3日(土)	15:00～17:30	薬学部模擬薬局	「薬剤師のための臨床心理学演習 3月」
3月10日(土)	13:00～17:00	市大病院シミュレーションセンター	「呼吸困難患者の観察と対応(SPO2計測とその活用)」
3月17日(土)	13:00～17:00	市大病院シミュレーションセンター	「薬剤師のためのフィジカルアセスメント 第2回」
2月～3月		岐阜県内の薬局連携を視察予定	地域医療見学会

各研修の解説

「問診の技法」

講師：薬学部教員

内容：薬学部教授で医師でもある藤井先生が企画・実施される演習。少人数で模擬患者の症候を問診し、SGDを行いながら病状や程度、薬物治療の方法を類推する実践的演習を行う。

「無菌操作 在宅で必要な注射薬の手法を学ぶ」

講師：薬学部教員 テルモ指導員

内容：無菌操作の基本をクリーンベンチを使用して実習する。点滴時に使用するポンプについても実物操作を実習する。

「薬剤師のための臨床心理演習」

講師：臨床心理士（薬剤師）

内容：7回シリーズの後半3回 臨床心理士を講師とした心理学の要素を取り入れたコミュニケーション能力開発演習

「学術論文の読み方と統計の考え方」

講師：薬学部教員

内容：臨床研究の論文をきちんと読解できる能力を身につけてもらうための講義と演習。初回は論文読解の基本と統計についての講義を実施。2回目は論文を実際に輪読し、演習を行う。

「特別シンポジウム」＜6年制薬学部新時代に向けて＞

関東、関西そして名古屋でフィジカルアセスメントなどを実際に活用した業務を行っている薬局薬剤師の事例を発表いただき、パネルディスカッションを予定。愛知県薬剤師会学術部会と共催。

「薬局で利用できる臨床検査測定器機の使用法とその活用」

講師：薬学部教員 機器メーカー指導員

内容：HbA1C、COL、HDL、TG、PT-INRなど自己採血で測定できる機器を実際に使用していただき、在宅、店頭相談などに活用する方法をSGDで考えていく。本研修に使用した機材は、薬局への貸し出しもOKです。

「薬剤師のためのフィジカルアセスメント」

講師：医学部教員 医学部生

内容：このアセスメントではBLS（1次救急救命）の指導者を目指す研修を受講。第1回では医学部のシミュレーターを使用した研修を追加。

第2回では医学部OSCEの説明とその実技についても実習する。

「呼吸困難患者の観察と対応（SPO2計測とその活用）」

講師：看護学部教員

内容：薬剤師にも役に立つ看護師の技術の第1回。SPO2計測とそのアセスメントから呼吸のケアについて実習する。

「地域医療見学会」

受講生が見学可能な日程を確認後、本年度は岐阜市とその周辺の薬薬連携と災害時に対応した施設の見学をマイクロバス半日のコースで予定。他地域の薬剤師、医療関係者との意見交換も行いたいと考えています。

経済研究科附属経済研究所 平成 23 年度プロジェクト研究

1) 名古屋市・東海地域の産業再構築とイノベーション

期間：平成 22 年度～平成 23 年度

概要：47 都道府県の民間資本ストックを、県民経済計算年報より推計し、名古屋市・東海三県と他都道府県との比較を行う。また政令指定都市に関しては、県民経済計算において GDP 統計が作成されていることから、名古屋市、東海三県との比較も合わせて行う。財務データを用いたミクロ分析では、名古屋企業の設備投資向け資金需要が、①民間資本ストック、②銀行競合度、③その他、の要因がどの程度の説明力を有するのかを検証する。

2) 都市における生態系サービスの評価：名古屋での指数策定に向けて

期間：平成 22 年度～平成 23 年度

概要：都市部での独自の環境指数策定の基礎資料となる情報の収集と分析を加え、提言を行うことを目的とする。

具体的には、欧米の都市で主流化している、種や個体数の増減などの動向と、科学と政策を単線的な論理で結び付ける DPSIR モデルを批判的に評価し、その限界を踏まえつつ、別のモデルを模索する。例えば、題材は水のサービスなどに特化し、住民の社会価値の把握と地図での分布サービスと満足度という観点からの指数の策定を視野に研究を行なう。

都市と生物多様性を考える上で、都市の生活は都市部以外の農村、山村、漁村などの地域社会とつながっている。食糧、エネルギー源は大きく都市部以外の場所や海外に頼っている。同時に、集中豪雨や洪水の制御、空気や水の浄化といった調整の機能は、外国から輸入できるわけではなく、街の周りに生態系があつてこそ成り立つものだ。「クーラーの要らない街」には、生態系が欠かせない。名古屋で、指数を検討していく上で、食糧や水の供給サービスだけではなく、調整・制御の機能と呼ばれる、気候や空気・水の浄化といった生態系の機能についての指数化への課題を明らかにする。

3) 東海地域の経済発展と環境問題

期間：2010 年度～2012 年度

概要：東海地域の経済発展との関連において環境問題の発生とその変遷そして解決を検討し、そこから環境政策に関するインプリケーションを導くことを目的とする。主たる対象を四日市周辺あるいは東海地域として、どのような問題が未だに解決されない問題が残っているのか、どのような問題が経済発展とともに解消されえたのか、等々を検討する。環境負荷を与える要因は経済発展とともに多岐に渡り、様々な種類の環境汚染物質とそれを排出する産業や商品がある。これらについて、検討を加えながら、環境問題と経済発展の関係を検討する。それによって得られたインプリケーションが他の地域、特に発展途上経済、に対してどの程度一般性をもつかも検討する。

平成 23 年度 プロジェクト研究の概要

1) 「名古屋の『観光まちづくり』に関する人文社会科学分野からの学際的研究」

代表者：山田明

平成 18 年度から継続する研究で、人文社会学部専門科目「名古屋と観光」と連動させながら、学生や市民に名古屋の観光まちづくりへの関心の喚起につとめている。平成 23 年度は、市博物館学芸員を交え、名古屋の近代化の足取りを確認、また東日本大震災を受け名古屋の防災減災のありかたも課題に加え、調査をおこなった。

2) 「文学と精神分析—フロイトの方法的有効性」

代表者：土屋勝彦

今年度からの新しいテーマである。フロイトの精神分析の方法意識が今なお文学研究において有効であるとすれば、どのような形式、方向において可能であるのかを、ゲーテ、ジャン・パウル、カフカ、イエリネク、グリム童話、現代における越境作家などを対象に追究している。

3) 「市博物館・地域と市立大学との連携による街づくり」

代表者：阪井芳貴

人文社会学部現代社会学科 2 年専門科目「社会調査実習」阪井班の活動（課題「博物館に若者を呼び込む方法」）を支援しながら、「はくぶつかんなつまつり」、「ワークショップ」、「九州国立博物館」との連携などを通して、新たな市大と市博物館の連携がもたらす桜山の街づくりを検討した。

4) 「18 才のハロー・ファミリー 次世代育成支援のための基礎的研究」

代表者：石川洋明

平成 22 年度から継続研究である。次世代育成支援のために、子ども・子育てに関する現状把握、次世代育成支援施策の検討、若い世代に対し発信すべきメッセージの検討などをおこなってきたが、平成 23 年度は自立調査および条例調査のデータ分析を中心に、研究の最終的なまとめをおこなっている。

平成 23 年度 講演会・シンポジウム「文化財を守る」
(人間文化研究所と名古屋市博物館との共催)

テーマ：「文化財を守る－東日本大震災の教訓から－」

日時：11 月 26 日（土）13:30～16:50

会場：名古屋市博物館講堂

参加人数：40 名（大学院生・博物館学芸員を含めると 50 名）

概要

(1) 講演会

①講演者 藤原徹 東北芸術工科大学教授

②講演の概要

藤原教授自身の被災体験を導入に、大震災によってもたらされた文化財や博物館等施設への被害の実態、その修復作業の現状について、スライドを用いながら、きわめて具体的に説明がなされた。

(2) シンポジウム

①パネリスト 藤原徹氏・瀬川貴文 名古屋市博物館学芸員
山田明 名古屋市立大学人間文化研究科教授
(司会：阪井人間文化研究所長)

②シンポジウムの概要

藤原氏の講演を受ける形で、東日本大震災の被災地での文化財レスキューに名古屋市から派遣された瀬川市博物館学芸員と、被災地での調査を数次にわたりおこなってきた山田明教授の報告があり、震災・津波への対応、特に、近い将来東海・東南海・南海地震が発生すると指摘されている名古屋市内の文化財をどのようにして守っていくかについて議論した。昨年の講演会・シンポジウムでは、市立大学と市博物館と地域の連携による新たなまちづくりを模索したが、その成果を踏まえつつ、市民の貴重な文化財を守るために大学と博物館が何をすべきかを、来聴者とともに考える機会になった。

名古屋市立大学 人間文化研究科

人間文化研究所・名古屋市博物館 共催

公開講演会・シンポジウム

文化財を守る

— 東日本大震災の教訓から —

市民の貴重な文化財を守るために大学と博物館が何をすべきかを、東日本大震災被災地において文化財の復興に携わっておられる東北芸術工科大学の藤原徹教授の基調講演と、藤原氏と名古屋市から文化財レスキューとして派遣された瀬川貴文市博学芸員を交えてのシンポジウムとで、来聴者とともに考えていきたい。

講演者..藤原徹東北芸術工科大学教授

シンポジウムパネリスト..藤原徹氏・瀬川貴文氏(名古屋市博物館学芸員)

山田明氏(名古屋市立大学教授)

日時：11月26日(土) 13:30～

会場：名古屋市博物館講堂

地下鉄桜通線「桜山」下車 4番出口から徒歩2分

入場無料

事前申込不要(先着200名様)

お問合せ先：人間文化研究所 052-872-3536
institute@hum.nagoya-cu.ac.jp

人間

地域

共生

2012年3月 7

人間文化研究所年報

特集

博物館と大学Ⅱ—災害から文化財を守る—

▶ 基調講演

「文化財を守る—東日本大震災の教訓から—」

▶ シンポジウム

「文化財を守る—東海大震災に備えるには—」



名古屋市立大学人間文化研究所

Institute for Studies in Humanities and Cultures, Nagoya City University

人間文化研究所年報

第7号

目次

01

特集 博物館と大学Ⅱ―災害から文化財を守る―

基調講演

「文化財を守る―東日本大震災の教訓から―」……藤原 徹

シンポジウム

「文化財を守る―東海大震災に備えるには―」

……藤原 徹・瀬川貴文・山田 明・阪井芳貴

大学キャンパス内の古墳……瀬川貴文

絵葉書からポストカードへ……井上義博

東北大震災に関連して、書評、二冊……吉村公夫

37

書評

土屋勝彦 編

『名古屋市立大学人間文化研究叢書 反響する文学』……小林かおり

天谷祐子 著

『私はなぜ私なのか 自我体験の発達心理学』……鋤柄増根

上田敏文 編

『なぜからはじめる保育原理』……古賀弘之

浜本篤史 編著

『御母衣ダムと荘白川地方の50年』……赤嶺 淳

赤嶺 淳 編

『グローバル社会を歩く① フジラを食べていたころ

―聞き書き 高度経済成長期の食とくらし』……戸田百合子

自著を語る

赤嶺 淳・森山奈美 編

『グローバル社会を歩く② 島に生きる

―聞き書き 能登島大橋架橋のまえとあと』……赤嶺 淳

吉田一彦 編

『変貌する聖徳太子

日本人は聖徳太子をどのように信仰してきたか』……吉田一彦

訳書を語る

伊藤恭彦 他 訳

『国際正義とは何か―グローバル化とナショナリズムとしての責任』……伊藤恭彦

51

プロジェクト研究・研究会・ワークショップ・講演会報告

市博物館と地域と市立大学との

連携による街づくり……阪井芳貴

名古屋と観光まちづくりに関する

人文社会科学分野からの学際的研究……山田 明

フロイトと独文学……土屋勝彦

名古屋市立大学憲法・教育法判例研究会……菅原 真

トランスナショナル研究会……菅原 真

ドイツ現代文化研究会……土屋勝彦

東中欧・バルカン地域における

インターカルチュラル圏の形成と変容……山本明代

名古屋市若者向け自殺対策事業講演会……中川敦子

宮川繁氏講演会「すべての人に教育を」……小林かおり

ディオニッス・カプサスキス氏講演会……小林かおり

銃規制運動に賭ける青春

コリン・ゴダード、

映画『三人のために生きる』のメッセージ……平田雅己

上野千鶴子氏講演会「不惑のフェミニズム」……重原厚子

72

人間文化研究所の活動報告

サイエンスカフェ

マンデーサロン

トークキングカフェ……重原厚子

80

人間文化研究所年間活動

表紙写真「ワークショップでござる」のカラフルな道輪たち。

前方後円墳を模した台に飾られている。

プロジェクト研究

「市博物館と地域と市立大学との連携による街づくり」

名古屋市立大学大学院人間文化研究科 阪井芳貴(さかい・よしき)

一・構成

阪井芳貴（人間文化研究所長）を研究代表者とし、同研究所員（安藤究、谷口幸代）、ならびに吉田一彦（人間文化研究科教授）、水野みか子（芸術工学研究科）の五名。

二・活動内容

名古屋市博物館との連携プログラムの一環として、一・ナイトミュージアム、二・ワークショップでござる、三・公開講演会・シンポジウムを共催。なお、ワークショップは九州国立博物館との共催でもあった。

二〇一一年度名古屋市立大学特別奨励研究費プロジェクトにも採用。

（一）ナイトミュージアム

日時：二〇一一年八月六日（土）、七日（日）午後五時半～九時半

会場：名古屋市博物館

名古屋市博物館、瑞穂通商店街

振興組合、博物館地域連合子ども会、株式会社名古屋グランパスエイト、名古屋市瑞穂図書館が共催する「はくぶつかんまつり」の企画「ナイトミュージアム」に

参加。研究代表者が指導する人文社会学部専門科目「社会調査実習」を履修する学生九名を中心に、延べ約一〇〇名の学生ボランティアが、市博物館の学芸員の助言を受けながら企画、準備段階から当日の運営まで関わった。

昨年好評だった千本のロウソクの光で地上に天の川を演出する企画の他、「夜の博物館体験」では照明を落とした常設展への来館者の案内、常設展示室の竪穴住居の復元模型で貫頭衣姿の弥生人に扮した寸劇、「源氏物語図屏風」に見る恋愛事情の解説などをおこなった。二日間を通じ延べ千三百人が来館した。

この活動は『中日新聞』二〇一一年九月一三日東なごや版で取り上げられた。

（二）ワークショップでござる

日時：二〇一一年十一月二〇日（日）午前一〇時～午後三時半

会場：名古屋市博物館

名古屋市博物館、九州国立博物館との共催。両博物館との連携プログラム。「はくぶつかんまつり」後に発足した名古屋市博物館サポーターのメンバーである本学学生と九州国立博物館の学生ボランティアとの共同ワークショップ。子どもから大人まで地域の人々に博物館で文化や歴史を楽しんでもらい、博物館という空間を身近に感じてもらうことをめざした。「ワークショップでござる」は、名古屋市博物館で開催中だった特別展「狂言でござる」にちなんだ名称。

参加者は全体で約二四五名（絞り染め約四五名、はにわに色づけ約七〇名、ぶらばんづくり約一三〇名）で、年齢層は幼児から高齢者まで幅広かった。

この活動においては、準備段階から名古屋市博物館と九州国立博物館と綿密な連携をはかった。市民と共生する博物館をテーマとする九州国立博物館での打合わせでは（二〇一一年八月二七日、二八日）、同館を実際に学生が見学し、職員から運営方法などのインストラクションを受け、そのノウハウを吸収した（詳細は後述）。

①絞り染め―名古屋の伝統工芸有松絞りの技法を学生が学び、参加者に伝授。オリジナルのハンカチを製作した。

②はにわに色づけ―紙粘土で製作した埴輪の模型に絵の具で彩色し、オリジナルの古墳に飾る。四種類の模型（馬、水鳥、しゃちほこ、踊る人）を用意した（本誌表紙参照）。

③ぶらばんづくり―プラスチック製の板に描かれた絵に彩色し、オリジナルのストラップを製作。絵のモチーフは約十種類用意。狂言面「武悪」は名古屋市博物館の展覧会「狂言でござる」から、「はらのむし」シリーズは九州国立博物館の収蔵品から、というように両博物館にちなんだモチーフ。

(三)講演会・シンポジウム

日時：二〇一一年一月二六日

(土)午後一時半～五時

会場：名古屋市博物館講堂

名古屋市博物館との共催。

藤原徹東北芸術工科大学教授の講演会「文化財を守る―東日本大震災の教訓から―」、シンポジウム「文化財を守る―東海大震災に備えるには―」(パネリスト 藤原教授、瀬川貴文名古屋市博物館学芸員、山田明本学人間文化研究科教授)を開催。

三・研究成果

本研究プロジェクトは、二〇〇九年度から始まった名古屋市立大学と名古屋市博物館との連携事業における学生を主体とした活動を研究として位置付け、今後の名古屋市立大学の地域連携に寄与すべく立ち上げたものであった。特別研究奨励費および後援会からの助成も受けられたので、先述の活動を充実させることができた。その結果、博物館来場者に市立大学と市博物館との連携を認知させ、特に「はくぶつかんまつまつり」のナイトミュージアムは夏の風物詩として定着させることができた。一方で、博物館を大学生

に身近な存在として認識させるための方法の追究においては、イベントに参加するボランティア学生は着実に増やせたが、来場者としての増加にはなおいっそうの学生の行動に関する調査・研究が必要であることが明らかになった。

へ付記

八月二七日と二八日におこなった九州国立博物館見学・打ち合わせと福岡市内博物館・美術館視察について報告する。

八月二七日午後一時半に、「社会調査実習」メンバー八名と研究協力者一名および阪井が、九州国立博物館を訪問。まず特別展「よみがえる国宝」展と常設展示、ならびに館内無料体験コーナー「あじつば」を二時間かけて見学。ワークショップの実際について、交流課職員からレクチャーを受けた。その後、館長室に移動し、三輪嘉六館長に全員でご挨拶。約一五分の懇談の後、交流科職員およびボランティア学生部のメンバーと、一月二〇日に合同で開催するワークショップについてのミーティングをおこなった。ここで、ワークショップの具体的なメニューを、現物を見ながら検討、九博と市大・市博との役割分担な

どを確認した。

ミーティング後、三輪館長の案内で、九博のバックヤード、耐震・免震構造を見学した。これは、一月二六日の講演会・シンポジウム「文化財を守る」について阪井が館長に助言を求めたのに対し、特別にはからってくださいたものであった。

その後、太宰府天満宮に参詣、夜は交流科職員・ボランティア学生部のメンバーと親睦会を持った。このミーティング・親睦会で、九博のボランティア組織とその運営方法を直接学び、大いに刺激となり、今後の市大と市博との連携

に向け参考となった。翌日は、二、三人ずつのグループに分かれ、九博再訪あるいは福岡市立博物館・福岡アジア美術館・福岡市美術館・鴻臚館跡展示館・福岡タワー・太宰府遺跡などを見学した。この機会に、福岡・太宰府の遺跡や博物館・美術館を活かしたまちづくりの実際を体感できたのも大きな収穫であった。



プロジェクト研究

「名古屋と観光まちづくりに関する人文社会科学分野からの学際的研究」報告

名古屋大学大学院人間文化研究科 山田 明 (やまだ・あきら)

二〇〇七年三月には「名古屋の歴史・文化・まちづくりと観光」を

刊行し、講義テキストとして活用

した。また、本プロジェクトの研究

代表者が名古屋市観光戦略研究

会座長を務め、先に紹介した観光

戦略プロジェクトの策定に参与した。

総合科目「名古屋と観光」は、講

義開始から六年が経過する。講義

は観光戦略プロジェクトが提起する

「歴史観光」と「都市観光」とい

う二つの観光が軸になって展開さ

れている。

この共同研究プロジェクト報告

では、二〇一一年度の講義の概要

を紹介したい。一五回の講義は下

記のとおりである。

私たちは二〇〇六年に「名古屋

と観光」共同研究プロジェクトを

立ち上げた。当初のねらいは、総

合科目「名古屋と観光」の講義を

準備するために調査研究をすす

め、名古屋のまちづくりと観光に

ついて問題意識を共有することに

あった。共同研究プロジェクト

は本学特別奨励研究に採択され、

る名古屋の観光

名古屋博物館・井上義博学芸員

八．名古屋の伝統 阪井芳貴

九． 〃 〃

一〇．映像から名古屋を考える 山田 明

一一．観光からみた名古屋 須田 寛

一二．まちづくりにつながる「新

しい観光」 須田 寛

一三．名古屋の観光まちづくり 山田 明

一四． 〃 〃

一五．フリーディスカッション

今年度の特徴としては、名古屋

博物館の井上義博学芸員によ

る「明治・大正・昭和 絵葉書に

みる名古屋の観光」をテーマにし

た特別講義が行われたことであ

る。阪井研究所長を中心に古屋

市博物館との連携事業が推進され

ているが、その成果を講義に生か

すことができた。井上学芸員は

「名古屋絵はがき物語」（風媒社、

二〇〇九年）の著者であり、名古

屋の歴史・民俗に造詣が深い。明

治の時代からの多数の絵葉書によ

り、名古屋のまちづくりと観光を

ビジュアルで紹介した講義は好評

であった。

それとJR東海相談役の須田寛先生の講義についても述べておきたい。講義開始から六年連続の講義であるが、毎回聞いていても示唆を富むことが多く、今回も受講生から大好評であった。熱田神宮をはじめとした名古屋の歴史から始まって、今回はリニア中央新幹線まで、いつもながら多岐にわたる話題満載である。最終回の「フリーディスカッション」で配布した資料に、読売新聞二〇一一年四月二二日付に掲載された須田先生の発言を紹介しておいた。東日本大震災で観光どころでないとの質問に対して、須田先生は次のように答えている。「観光は、派手で大騒ぎするだけのものという考えは誤りだ。観光は『地域の優れたものを心をこめて見る』ことで、人々の交流を促進する文化活動だ。」

須田先生が毎回の講義で強調される「観光のこころ」を胸にして、名古屋の観光の調査研究と講義を今後もすすめていきたい。

プロジェクト研究

「フロイトと独文学」

名古屋市立大学大学院人間文化研究科 土屋勝彦 (つちや・まさひこ)

研究構成員

土屋勝彦、鈴木國文(名古屋大学医学部教授、精神病理学)、中川佳英(富山県立大学教授)、山口庸子(名古屋大学准教授)、亀井一(大阪教育大学准教授)、河津邦喜(東海地区諸大学非常勤講師、フランス現代思想)、須藤勲、山尾涼、福岡麻子、鶴田涼子(以上、すべて東海地区諸大学非常勤講師)

研究概要

メンバーの半数以上はすでに「ドイツ現代文化研究会」において下記の題目にて報告し、本誌前号の研究会報告でその概要を紹介した。(『人間文化研究所年報』六号参照)

山尾 涼

「フロイト『ある幻想の未来』について」

須藤 勲

「カフカの『訴訟』における「書かれたもの」と「書くこと」

鶴田涼子

「小説の起源としての〈家族小説〉とメルヒェン—フロイトの論考 Der Familienroman der Neurotiker (1909年)を手がかりとして」

福岡麻子

「イエリネクにおける過去の問題の仕方—フロイトの「隠蔽記憶」に照らして」

中川佳英氏

「ベンヤミン「親和力論」(1925)とフロイト」

したがって今回は、右記以外のメンバーによる報告概要を紹介する。

鈴木國文

「フロイト著作の三つの側面とラカン」

①フロイトの年代別の思考の傾向 ②メタサイコロジ ③神経症理論 ④文化論の位置づけ ⑤フロイト理論のその後の伝わり方

という構成での報告は、フロイト研究会の導入に相応しく明快かつ啓発的なものであった。フロイトの活動時期を神経学者としての初期、精神分析医としての中期、メタサイコロジストとしての後期に分け、第一次世界大戦勃発時期に当たる一九一三年以降メタサイコロジ(ナルシズム、欲動、無意識、快感原則、自我をテーマとする)に取り組んでから、文化論を書き始めていくというフロイトの問題意識の形成過程が明快に提示された。一九一三年の『トーテムとタブー』が文化論を読むうえで前提となる重要著作となっている。また、最後に紹介されたフロイト理論、つまり外的対象を自我理想にしていく「惚れ込み」過程によって生ずる自我同一性形成の問題は、宗教団体やクラブのような集団「妄想」形成原理としての心的機制をうまく説明できているように思われる。

河津邦喜

「カフカ論におけるジル・ドゥルーズのフロイト批判—日本における文学研究とフロイト」

まず広範囲の観点からフロイトの日本における受容を跡付けその意味を探る。フロイトが戦後日本に与えた影響として、西洋人と日本人との精神的相違を説明する図式を提供し、文学研究において柄谷行人、浅田彰、蓮見重彦たちが明治以後の日本文学に対して「エディプス期に母なる自然を喪失し父なる超越的法の前に挫折する」というある種のトラウマ体験によってこそ個人は主体化する」というフロイト理論を援用した。フロイトの『性欲論』は、「人間は本能が壊れており、幼児期において『多形倒錯』しており、社会化により異性愛への囲い込まれるだけで、無意識の領域に残り続け、ふいに表出する」という理論を考えさせ、現代思想や文学芸術に影響を与えた。ドゥルーズは多形倒錯や祝祭的革命によるアナキーな状態は、暗黒ではなく、分子レベルの多様な秩序が交替し続ける状態だとする。フロイトが戦後の日本思想や芸術研究に大きな影響を与えたのは、既存の社会文化へのラディカルな批判になりえたとい

う背景がある。その例をニーチェやフロイトから着想を得た吉本隆明の評論活動に見いだせる。しかし二〇〇〇年代以降そうした「ラディカルな批判」が可能であった時代から、新しい制度を設計する英米系の「政策提言の時代」に入り、ポストモダンの思想家たちも英米系の政治哲学に関心が向かっていく。仲正昌樹や大澤真幸などの「変異」もその文脈で見ることもできる。いずれにせよフロイト思想の影響力はこうしたポストモダン時代に終わったのではない。

か。しかしデリダやフーコーの思想が社会変革につながらなかったとしても、ドゥルーズのマイナー文学論や『アンチ・オイディプス論』の多様体論が、ネグリとハートの『マルティチュード』の社会的政策的な提言につながった。日本のフロイト理論援用に欠けていたのは、このドゥルーズ的なラディカルズムと一九九〇年以降の社会状況の変化と和解させるための理論的営為ではなかったか。アメリカでは、すでに心理療法や心理学でもオカルト学と見なされているほど退潮したフロイト理論であるが、それはジョン・ロールズやドゥウォーキンらの現実路線に重要性を見出したからであり、日本でも

危機感からアメリカの政治哲学に向かっていた。

以下詳細は省略するが、議論として、ドゥルーズのいうモル的なレベルと分子的なレベルの差異について、分子的多様体について、領域化と再領域化について、マゾヒズムの社会的止揚とは、など種々の質疑応答がなされた。

亀井 一

『フロイトの「機知論」』（テクストは、『フロイト著作集』第四巻（人文書院）二二三七—四二二頁「機知—その無意識との関係」）

フロイトの「機知論」は、当時彼自ら集めたユダヤ・ジョーク集などをもとに、機知の方法、機知の諸傾向、快感のメカニズムと機知の心因、機知の動因、社会的過程としての機知、機知と夢および無意識との関係、機知および滑稽なものとの諸種という、大きな括りで分析されている一九〇五年の論文であるが、関係する邦訳文献は、サラ・コフマンの「人はなぜ笑うのか？フロイトと機知」（人文書院、一九九八年）くらいしかない。具体的な機知の例を読むだけでも面白いが、最後の結論として提示

論文を書いている。

神田和恵（福井大学非常勤講師）

フロイト「ドストエフスキーと父親殺し」について

本報告では、フロイトがドストエフスキーの人格を詩人、神経症患者、道徳家、罪人という四つの側面から検討し、とりわけ神経症患者としてのドストエフスキーを心因性の癲癇症だと推定し、父親への憎悪と愛情のアンビヴァレントなもの（両義的）が合わさって父親への同一視が起こるとする。その場合、父親殺しの願望から罰としての去勢不安、願望放棄という方向や、無意識のうちに願望残存から罪悪感という方向が正常であるのに対して、雌雄両性の性格の場合には、去勢不安から母親への同一視、父親の愛を受ける代償としての去勢が見られ、それを病的とし、ドストエフスキーをこの例だと推論している。そして自我と超自我（罪意識）の関係や、父親殺しのモチーフを持つソフォクレス『エディプス王』、シェイクスピア『ハムレット』、ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』に触れ、犯人と自己との同一視や自己愛を論じ、ドストエフスキーの賭博癖が罪悪感の

代理、自己懲罰の方法であるとし、その例としてツヴァイク『ある婦人の生活からの24時間』を挙げ、幼年時代の自慰衝動の表れだと解釈する。その後の議論としては、家父長制を前提とするエディプスコンプレックスと母性的社会（歴史的には存在しなかったとされる）あるいは母性原理の関係はどうか、一神教と多神教の関係、父殺しの日本文学における例はどうか、等々様々な疑問が出され活発に意見交換した。

山口庸子

フロイトの『無気味なるもの』について

heimlich（慣れ親しんだ、密やかな）と unheimlich（無気味な）の語源的探求に始まり、事例研究としてのホフマンの『砂男』と『悪魔の霊液』の分析に進み、「抑圧されたもの」を「無気味なもの」とらしめる他の用件、体験と文学の区別という項目に分けて、フロイトの当該論文が詳細に紹介された。さらにキットラーの『我らの自我の幻想と文学心理学』の紹介のあと、独自にホフマン『砂男』の作品解釈に進むという構成であり、明確な論理構成と問題意識に

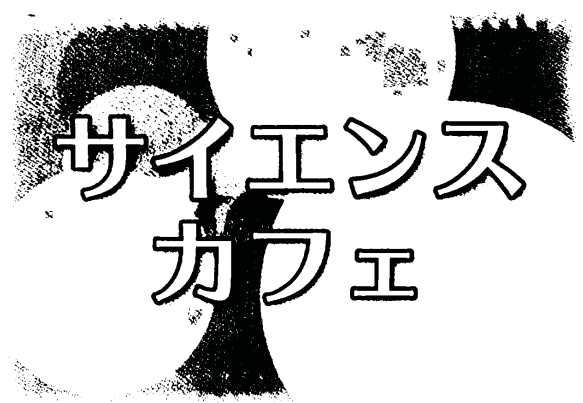
よって啓発され様々な議論を呼び起こした有益な報告であった。

付言すれば、人文書院発行の『フロイト著作集』第三巻には、文化・芸術論が載せられているが、独文学との関連で最もよく取り上げられるのがE.T.A. ホフマンの『砂男』を論じた本論文「無気味なるもの」である。この unheimlich という概念が heimlich という概念の反意語であるばかりでなく、語源的には後者の概念に含まれる両義性をもつ概念であることを指摘し、「無気味なるもの」が実は抑圧された「親しみなれたもの」から由来することを実証している。そこからさらに、『砂男』論に進み、主人公ナターニエルの幼年時の恐ろしい「砂男」体験や、父親の死、弁護士コッペリウス、自動人形オリンピアとの関係、とくにそのドッペルゲンガー（分身）的な諸要素が分析され、恐怖が実は自己抑圧したものから由来することをフロイトは実証している。

以上、各報告概要を述べたが、『フロイトと独文学』を中心としながらも、ラカンへの影響や日本の思想におけるフロイト受容の問題、機知論、ロシア文学など、主題は拡大している。これらの報告

をまとめた論集の出版に関しては、いくつかの出版社と交渉中である。場合によっては、日本学術振興会の研究成果公開促進費に応募することを検討している。





第四十回以降、丸善名古屋栄店から名古屋市立大学桜山キャンパス内のカフェ「サクラサイドテラス」に会場を移して、毎月第三日曜日に開催しています。

第三十九回 二〇一〇年九月十九日
テーマ

「青年の自立と家庭・地域の教育力」

講師 久保田健市 准教授

バブル期以後、日本の教育は問題解決能力・コミュニケーション能力に代表される新しい能力観を反映した改革圧力と、若者の凶悪化論に対応する形での公共心の育成を求める圧力にさらされている。そして、両者はともに地域や家庭での教育をよりいっそう重視する点で共通している。本講座は筆者が参加した本研究科の研究グループと名古屋子ども青年局青少年自立支援室との共同調査で得たデータから、家庭・地域での教育的関わりと上記の教育的課題との関係を分析した結果を中心に展開された。結果として、厳しいしつけよりも、親が子の相談にのるなどの関わりの方が公共心の高さと関係があること、わずかではあるがコミュニケーション能力の

高さが学歴階層や収入階層と関係があることなどがわかった。おおむね講座は好評であったが、参加者が少なく、「もつと多くの人が受講すればいいのに。もったいない」との感想を頂けたのはありがたかった。

久保田健市（人間文化研究所准教授）

第四十回 二〇一一年四月一七日
テーマ 「台湾と博覧会」

講師 山田 敦 教授

八重桜満開の中、やまだあつし先生の「台湾と博覧会」を受講しました。日本統治下時代に催された台湾の博覧会は時代の象徴でもあり、経済発展の模索と共に国民を啓発し、内外の日本人に統治成果を宣伝する施策であったことを知りました。

一九〇〇年代に開始された台湾の博覧会は、一九三五年の「始政40周年記念博覧会」が最後の最大規模となり、その様子を当時の新聞と鳥瞰図を用いて解説してくださいました。本国と植民地を結び付ける絆にもなっていた博覧会でしたが、博覧会会場では四十年間の統治による経済効果が強調され、また台湾教化がいかにして行われてきたかが示されていたよう

です。

面白く感じたことのひとつは、博覧会会場が公会堂や幹線道路を封鎖して作られ、水族館やコドモノクニなどを含む既存公園もそのまま会場として利用されたことでした。予定時間いっぱい質疑応答はかなり専門的な領域でなされ、改めて学問の奥深さに気付きました。また講座企画をなさっている先生方の姿勢から、サイエンスカフェは講師の先生、受講生、参加者全員で学び合う教育の現場であり大学の姿を見る思いがして心も広がりました。なお、会場であるサクラサイドテラスのお菓子は美味、コーヒーのお代わりもできて嬉しく感じました。

浅野才子（市民）

第四十一回 同年五月一五日
テーマ

「沖縄の日本復帰の日になんで――復帰39年の意義――」

講師 阪井芳貴 教授

五月十五日、「沖縄日本復帰の日」、その当日に受講する阪井先生の講義はとても有意義なものでした。まず、復帰を考える前に沖縄近現代史を知ることということで、沖縄が四つの時代を経てきた

こと、それは常に外部からの力によって支配される歴史であったことが説明されました。そして「沖縄」と「日本」双方から見た互いの関係や、今沖縄が抱えている問題などをわかりやすく説明していただきました。

先生ご自身が基地の近くに住んでいた経験もあり、沖縄とは「戦争の見える島」である、とおっしゃった言葉は非常に重く心に残っています。私たちは、癒しの島・美しい楽園というイメージを沖縄に求めています。それはほんの一面で、実際には基地問題や環境問題が深刻であることは、昨今の報道で少しは理解しているつもりでした。しかし、「生活圏に基地があるということは、住民の日常生活と「戦争」が隣り合わせであること」という現実を示されたとき、自分の認識不足を強く感じました。そしてこの現実を多くの人々が認識し、沖縄だけの問題ではなく日本国民全体の問題として考えなくてはならないと改めて感じました。また、「日本復帰に際しての沖縄県知事のことば」の中で、沖縄県人の悲願であった復帰が決まったことへの感激の言葉が述べられている反面、「必ずしも願望が入れられたとは言えない」



斉藤なつ江（市民）

「これからもお厳しさが続き新しい困難に直面するかもしれない」という複雑な思いが述べられており、手放しでは喜べない当時の人々の感情を知りました。そしてそれが三十九年経った今でもほとんど解決されずに残っていることを考えると、とても申し訳ない気持ちになりました。

沖縄に対する無関心、無理解を無くすにはどうしたらよいかなかなか答えは出ませんが、自分のできる範囲で真実を知り、それを誰かに伝えられるようにこれからも勉強したいと思います。

第四十二回 同年六月一九日 テーマ

「according to plan」
according to the planの違い

—英語表現の奥深さを探る—

講師 日本 満 教授

サイエンスカフェに通い始めて三年が経ちました。毎回分野の異なる講義を、興味深く聴かせていただいています。今回は現在通っている「市民学びの会」の英字新聞を読むクラスで、毎月悩まされている「英語と日本語の根本的な違い」に迫るものとして、期待してまいりました。

冠詞によって意味が変わる名詞の個性を少しでも理解できれば儲けものと思っていました。異なる七つの名詞形がなぜそうなるのかについて今後も悩むことになりそうです。

今回「名詞的名詞」と「動詞的名詞」の分類について、日本先生の懇切丁寧なご指導をいただいたことは、私にとって大きな収穫でした。

英語を習い始めてからすでに六十年以上が経ちますが、改めて「表現の奥深さ」を実感した二時間でした。

北村 彬（「市民学びの会」会員）

第四十三回 同年七月一日 テーマ

「日本の古代寺院と韓国の寺院」

講師 吉田一彦 教授

吉田一彦先生による「日本の古代寺院と韓国の寺院」と題したサイエンスカフェは、想定していたよりもずっと専門的な研究成果の報告であり、まるで学会のようなアカデミックな内容であった。しかし、明るく明快な小気味よい口調で、論理的な説明を鮮やかに語る先生の姿を目の当たりにして、学問の本質的な愉しさを感じることもできた。

仏教は、一世紀頃中国に伝えられ、四・五世紀に朝鮮半島へ、そして六世紀に百済から日本へと伝来した。考古学上、日本最古の寺院と目される飛鳥寺を筆頭に、古代寺院の伽藍配置・塔の形状・基壇・礎石・心礎・勾欄・瓦・舍利容器などを朝鮮半島のものと比較検討して、六・七世紀の日本の仏教に百済・新羅からの強い影響関係があったことをすっきりと説き明かした。

また、仏教受容当時の実態を考えていくことで、これまで私たちが常識のように覚えてきた歴史が全てではなく、まだ解明されていない問題やもう一度考え直さな

ればならない問題があることを提示した。例えば、『日本書紀』の記述で、仏教伝来が百済の国から蘇我氏へ行われたと読み取れることをどう理解すべきか。日本史の教科書で「四天王寺式伽藍配置」と記憶してきた、門・塔・金堂・講堂が南北に直列に配される伽藍配置が、実は新羅の四天王寺の双塔式伽藍配置と異なるもので、まぎらわしい名称である、等々。興味深い指摘が何度もなされ、あっという間に時間が過ぎてしまった。真実の姿を知りたいという根源的な欲求が、ますます強くなるサイエンスカフェであった。

柴田憲良（人間文化研究科博士前期課程院生）

第四十四回 同年九月一八日

テーマ

「東日本大震災と防災・減災まちづくり」

講師 山田 明 教授

東日本大震災という衝撃から半年。次第に、日常会話の中から「震災」という単語が減ってきたこの時期に、実際に現地訪問を重ねている山田教授による講演が行われた。

今回の内容は主に、被災地の現状報告から始まり、阪神大震災と

の比較やフクシマの原発の問題、これに関連した従来の国策の影響についても言及されていた。小泉政権下で大規模に行われた市町村合併によって、周辺部化した地域の復興が遅れていること。菅前政権における原発対応が批判されたが、そもそもフクシマの問題の端緒となったのは自民党政権の時代であり、それを批判しなかったマスコミも問題だったのではないかなど。いずれにおいても、「被災」者がじつは国策による「被害」者でもありうる、という点に関しては特に考えさせられた。

現在、次なる国策として、被災地復興を叫びながらも、国民への説明責任も果たされないままTPPが前進しようとしている。第一次産業の支え手でもあり、かつ、『職』が大きな課題となっている東日本の被災地に対して、どのような影響をもたらすことになるのだろうか。国全体への影響とともに、議論を重ねる必要性を感じるところだ。

当時は、津波の映像を画面を通じて見るだけでPTSDになってしまふ、と懸念されたほどの今回の大震災とは言え、日数の経過とともに人々の記憶も関心も薄れていく。このような現状の中で、被



災地の復興のためにも、この衝撃をいかにして風化させずに次世代へと繋いでいくのか。また、十数年以上前から東海地震の危険性を叫ばれている私たちの地域においては、この衝撃から何を学び何を活かすべきなのか。まちづくりのあり方にとどまらず、一般市民の意識や議論における減災への取組みも検討される必要性を感じた。

天野知亜紀（人間文化研究科博士前期課程院生）

第四十五回 同年十一月二〇日

テーマ

「社会福祉をめぐる動き（ここ40年あまりの日本の動き）
— 同時代を生きてきて —」

講師 吉村公夫 教授

人口減少、少子高齢化と言われる現代、社会福祉への関心や重要性はますます高まっているのではないだろうか。

この度のサイエンスカフェでは、先生が研究に携わってこられた、一九七〇年以降の四〇年間にスポットを当て、社会福祉分野の法整備の歴史や制度の変遷をたどりました。いくつかの転換点を概観する中で、こうした現代、そして近い将来の日本の社会福祉を考える、有意義な時間を過ごすことができました。

特に印象深かったのは、一九八六年に国際社会福祉会議が東京で開催された時のエピソードです。会議参加者が特別養護老人ホームを視察した際、「寝たきり」の現状に驚いたとのこと。海外では、高齢者は亡くなる前まで「生活」する時代、目の光景は病院同然でした。以降、「寝かせきり」と表現したそうですが、日本におけるソーシャルワーカーの資格創設につながり、これを機に少し前進し

たと言えます。また、社会福祉制度・政策は、諸外国の動向や、その時々々の政治に大きく影響を受けているということも、実感しました。

そして、「法令や制度の整備がすべてではない」ということを、改めて考えた機会でもありました。法令をいかに運用していくのか、現場（利用者、市民）の小さな声をいかに国へ届け、国全体での改善へ結び付けていくのか、行政が常に背負う課題であり、果たしていくべき役割だと思っています。

講話の最後には、先生から、今、農作物や工業製品等への関税で話題となっているTPPについて、医療も議論の対象になり得るとのお話をいただきました。規制緩和により、公的医療保険制度は崩壊しかねません。社会福祉が政治のツール等になることなく、より必要性の高い方々が、より質の高いサービスを受けられるものであって欲しい、そう願ったひと時でした。

松永亜紀（人文社会学部卒業生）



第四十六回 同年二月一八日
テーマ

「日本型父母教育論を構想する
―子育て支援研究の発展方向を
模索して―」

講師 丹羽 孝 特任教授

「父母教育論」という聞き慣れない言葉に惹かれ参加した。

丹羽先生は現在、研究活動のひとつとして、韓国の保育者養成課程で必須科目となっている「父母教育論」の「日本型」を構想されており、今回は、その序説として、日本で父母向けに出版されている様々な雑誌や一般書の分析から、日本の「父母教育」の現状を講義された。

日本の父母向けの出版物は「賢い子を育てる」ための「テクニク論」や「早期教育論」が多く、それらに対する研究者による評価が不十分であるとの分析であった。

今回の講義を聞き、保育所や幼稚園が「親が親になる」ための役割をよりよいものにし、親と子の相互理解をよりよいものにするために「日本型父母教育論」を確立が必要であるということを、私自身「子育て支援」を研究するものとして、また、子どもを保育所に預ける親として、強く認識するこ

とができた。

膨大な資料・文献を集め、韓国の「父母教育論」の教科書を3冊も翻訳して下さった丹羽先生に感謝致します。

下方丈司（人間文化研究所博士前期課程院生）

マンデー サロン

二〇一〇年二月二〇日
テーマ

「開発事業の記憶と地域活性化」
御母衣ダム質問用紙調査の単純
集計データ（速報値）報告」
講師 浜本篤史 准教授

浜本研究室学生

今回のマンデーサロンは、浜本篤史先生の担当回ということで、私たち学生二名も報告に参加させていただきました。報告内容は、二〇一〇年一月～十二月に岐阜県高山市荘川町、白川村の住民の方を対象で実施した「御母衣ダムの社会的影響と地域活性化」という質問紙調査の集計速報です。これは今年、建設五〇年を迎えた御

母衣ダムについて、地元の地域社会にはどのような影響があったのか、またこれからの地域活性化に対して住民の方はどんな思いを持っていらっしゃるのか等を目的として、春から行ってきた調査の一環で実施したものです。

質疑応答の時間には、人社の先生方や調査でお世話になっている関係者の方々から、調査データの分析方法や今後の研究方法に対して貴重なご指摘をたくさんいただきました。研究室の中での活動ではみえなかった視点や発想を得ることができ、非常に有意義な時間になりました。

早水 緑（人文社会学部生）

二〇一一年二月二一日
テーマ

「『死の商品化』とジェンダー
—「生命保険」と家族・ライフ
コース変動—」
講師 安藤 究 准教授

「死の商品化」と聞いて何を想像するだろうか？今回のマンデーサロンは、安藤究先生の、人の死にかかわる商品「生命保険」と家族・ライフコースをテーマにした研究報告であった。

日本における生命保険の特徴の一つは、戦後の高度経済成長期、

家族の稼ぎ手の中心が成人男性となり、その稼ぎ手を失った場合のリスク回避のため「終身保険」と主力商品が変わったことである。もう一つは、販売エージェンツの女性化である。日本の保険外交員に女性が多いのは、雇用の安易性という理由だけではなく、女性に優位性があるのではないかと、この安藤先生の仮説である。なかでも各家庭を定期的に訪問する女性外交員が地域のネットワークカー的な役割を果たしていたのではないかという視点は興味深い。死にかかわる商品を扱うエージェンツがいかにして個々のクライアントと信頼を築き、地域コミュニティのかけ橋となり得たのか。今後も研究は続くそう。さらなる成果を心待ちにしている。

伊藤静香（人間文化研究科博士前期課程生）

同年三月一四日
テーマ

「『ジェンダーの視点から考える
民法の婚姻規定
—世間の「常識」と憲法理念—」
講師 菅原 真 准教授

本日のテーマは「ジェンダーの視点から考える民法の婚姻規定—世間の「常識」と憲法理念—」であった。講師の菅原先生の話と、参加

者の意見表明があった。

先生から参加学生に対する「あなたにとって最も大切なものは？」の質問から始まる。統計数理研究所「日本人の国民性調査」アンケートでは、この問いかけに対して圧倒的に多いのは「家族」であることが判明。ところがその家族の中での女性の位置は、過去および現在においてどのようなものであったか、またあるか。第二次世界大戦が終わるまで、「家」維持を目的とする旧民法下、女性は「三従」を強いられてきた。女性の一生は、まず親に、次いで夫に、老いては子に従うことが求められた。戦後、日本国憲法が制定され、二四条によって不完全ながらも男女平等が実現した。それに伴う民法改正（一九四七年）によって両性の平等と理念とする法体制ができた。

しかし、現在も多くの課題が生じている。その主なものは、①女性の再婚禁止期間があること、②夫婦別姓を望むカップルがいても法律上はそれができないこと、③婚外子の相続分に差があることである。以上につき、説明があり、その後参加者からいくつかの意見表明（質問を含む）があった。主な意見表明（質問）を以下に記す。

(1)「男女平等」についての批判があるときが、法律家としてどう考えるか。

(2)子どもは社会で育てるべきだと考えている。婚姻外の子についての差別があるが、それがなくなると家族関係の維持に問題が生じるというが、どう考えるべきか。

(3)憲法二四条における「個人の尊厳と両性の平等」と二三条の「すべて国民は、個人として尊重される」との関係は。

参加した私の感想―参加者全員がこの問題に深く関心を持っていたことがわかった。問題が多岐にわたっているため、後の質疑応答の時間が不足したように思われる。

水野 清(人間文化研究科研究員)

同年五月一六日

テーマ

「ソーシャルワーカーは誰／何を支援する専門家なのか？」

―「倫理的に危険な商売」の仲間入りを果たした医療観察法下におけるソーシャルワーカーの役割―

講師 樋澤吉彦 准教授

「ソーシャルワーカー」のタイトルに興味を持ち、久しぶりに参加したマンデーサロンだった。本

講演は、医療観察法の成立による、ソーシャルワーカー(SW)、特にPSW(精神保健福祉士)の役割に関しての問題提起であったといえよう。「簡単にいえば、『余計なお世話』と『余計でないお世話』の境界はどこにひかれるのか?ということである。」とレジユメの一節にある。精神保健福祉分野における介入の問題を学ばせていただくよい機会となった。樋澤先生は結論の一つとして「PSWが本法における強制処遇に内包する「社会防衛」の意味と「生活支援」

の意味の両義性を消極的に肯定していること」を挙げられていた。個人的な体験であるが、保護観察所からキャリア支援を依頼されている私にとって、この「社会防衛」と「生活支援」という言葉はたいへん示唆的であったことを付記しておきたい。保護観察中の少年の面談に際しては、同僚から「社会防衛」上のリスクを再三指摘され、他の利用者と同様の「生活支援」を行うことの困難さを実感した次第である。

重原厚子(人間文化研究所特別研究員)

同年六月二〇日

テーマ

「保育における「スタイル」を

考える…保育者は乳児にどうかかわるか?」

講師 上田敏丈 准教授

発表内容は、保育者それぞれが持つ雰囲気という漠然としたものを客観的に表すことができないか、という視点から、保育者の子どもとのかかわり方の特性をティーチング・スタイルとして分類し、そのスタイルの違いが保育の援助にどのように影響するのかについて、実際の保育の観察を通して明らかにしていこうとするものであった。

ティーチング・スタイルは①活動に対し褒めたりうなずいたりして対応する「反応的」スタイル、②活動を指示したりすることが多いが対応は一貫、平等である「指導的」スタイル、③積極的にはかわらず、待ち、見守る「応答的」スタイル、④情報を提供し、教えていく「教授的」スタイルの4つに分類され、「指導的」「応答的」スタイルの保育者が保育活動中の観察(片づけの場面、製作活動の場面、いざこざ場面)を通して、保育援助の違いについて考察している。その結果、保育者の子どもとのかかわり方について「指導的な関わりはよくない」「応答的に関わらなければならない」という

ようなステレオタイプの考えではなく、いろいろなタイプの保育者がいて、それぞれの特性を活かした保育援助を考えていくことが必要であるという結論であった。

フロアから、親のしつけ意識は文化によって異なっていると思うがどのように影響するか、また、幼児教育以降への継続性の問題はどうかなどの質問があり、活発な討論がなされた。保育の現場での豊富な観察を通したこのような実践的な研究は、人文社会学部の保育士・幼稚園教諭を目指す学生が保育者像を構築する上で、あるいは大学院生が教育に関する研究を進めていく上で大いに参考になるであろう、と期待を抱かせてくれた。

野中壽子(人間文化研究科教授)

同年七月一日

テーマ

「響き合う文学的想像力

―人間文化研究叢書第一巻『反響する文学』刊行を記念して―

講師 土屋勝彦 教授・田中敬子 教授・山本明代 准教授

授・谷口幸代 准教授

人間文化研究叢書第一巻として刊行された『反響する文学』の主題は、「越境文学」としての(世

界文学」です。世界文学とは従来、一義的には「国民文学」を指すものだったが、移民などに見られる「移動する人」の視点、つまり、自らの属する、あるいは、属することを強いられた社会の歴史や文化を相対化する視点を無視しては、現代の「世界文学」を捉えきれないのではないか。『反響する文学』はこうした観点から、「国民文学」を異化するものとして「世界文学」を位置づけ、その最も顕著な例として、移民・移住の経験や複数言語の使用に特徴づけられる、「越境作家」たちの文学の諸相を示すものです。

サロンでの議論は、同書の内容と同じく示唆に満ちたものでした。特に、一つの土地にとどまり一つの言語で書く書き手の作品は「世界文学」となりえない



のか、「越境作家」といえども国民としての意識を持たないわけではないのではないかと、といった問いを巡り、刺激的なやり取りが交わされました。その中で示されたのが、文学の本質としての「越境性」という視点です。何らかの帰属意識を持ちつつも、他者性や異質なものを自らに取り込むことによって、それまでの意識を更新してゆくことが「越境」なのであり、それは地理的移動の経験や使用言語によってのみ実現されるのではない——このような補助線をもって、今度は一言語の書き手や「国民文学」の代表選手たちの作品を読み直すとき、どのような風景が見えてくるのだろうか、楽しみに思うサロンでした。

福岡麻子(名古屋市立大学非常勤講師)

同年一〇月一七日

テーマ

『百科全書』よ、お前もコピペか?! —フランス『百科全書』の典拠をめぐる新研究—

講師 寺田元一 教授

まずは寺田先生、二時間にも及ぶ貴重なお話しお疲れさまでございました。十八世紀フランス『百科全書』については、院生だった時期に寺田先生のゼミで学びはし

ましたが、十分にその全体像・概念がつかめないままでした。十八世紀フランスにおける『百科全書』の出版がいかなる意味を持ち、また今日現代においても研究対象として多くの研究者がそれになぜ携わっているのか、『百科全書』自体についてかなり理解する事ができました。

特に、マンデーサロンのタイトルにある「お前もコピペか?!」にはサロン出席前までは、百科事典のたぐいの書においては、一般に使われている「コピペ」の意味とは全く同一ではないが、専門書ではない故、他の専門テキストや専門家からの知識の引用・導入は当然ではないかと思っておりましたので不思議な感覚でした。

しかしサロン当日資料の中にある、「4・むすびにかえて」で紹介されているディドロ執筆による全書項目「折衷主義」——偏見、伝統、古さ、普遍的合意、権威、つまりひとくちに言って、多くの精神をおさえこんでいるあらゆるものを踏みにじることによって、自分自身で考えることや、もっとも明白な一般原理に立ち帰ってそれを検討し、議論することや、自分の体験と理性の証言のもとづくもの以外は認めないことなどを敢行

する——とか「混合主義」——折衷主義者は誰も味方せず、諸見解をこの上なく厳密な討議に付し、それ自身で明証的な概念に還元できると思われるような命題しか体系から取り入れない——などは私が今取り組んでいる十七世紀後半から十八世紀の、後に理神論者と称される人々例えばジョン・トランド、アンソニー・コリンズなどが、ローマカトリック教に反論して唱える反カトリック教理主義との文脈に多くが重なり驚いているのと同時に、両者に共通する人間理性を重視した近代合理主義の立場に立った知識の普及・啓蒙活動に大きな役割を果たしたことを実感できたことです。そして今まで多くの人が携わり現在においても続く『百科全書』研究活動というものが、いかに多くのエネルギーを必要とし、奥深いものが想像でき感銘いたしました。

寺田先生の典拠の新発見もかかる活動の結果だといふことが理解できました。最後に『百科



『全書』の出版は、当時の社会環境、諸書籍保全、印刷技術などを考えると、いかに大偉業であったかが、再確認できたことです。

服部篤睦（人間文化研究科研究員）

同年一月二日、一月二二日
テーマ

「東日本大震災から学ぶ 被災地を訪ねて 写真&トーク」

講師 本学ボランティア学生・

院生・修了生ほか

一月二二日と一月二二日の両日、東日本大震災をテーマに恒例のマンデーサロンを開催した。二〇一一年三月一日に東日本を襲った大震災は、東北地方を中心に甚大な被害をもたらした。大震災から八か月ないし九か月を経過した時期に、被災地を訪ねた人に現地報告をしてもらう、「東日本大震災から学ぶ」という企画である。当初は報告者が集まるか不安であったが、二日間では報告時間が足りないほどで、院生・学生をはじめ多くの参加者があり盛況であった。

八人の報告を詳しく紹介することはできないので、とくに印象に残ったことを記す。報告者の大半はボランティアに参加して活動し

てきた学生・院生・修了生などである。報告された主な被災地は岩手県の大槌町・陸前高田市・宮古市、宮城県の石巻市・山元町である。報告はいずれも生々しい写真により、被災地の厳しい現実や現地での活動を紹介するものであった。企業ボランティアに参加した学部三年生は、被災地を「実際に自分の目で見たい」とボランティアに申し込んだ。主催者が活動に「満足しましたか」と述べたことに疑問を感じた。ボランティアは自己満足のために行うのではないと、ボランティアのあり方に問題を投げかける。それとボランティア仲間をつうじて「何かしたい」という人の思いの強さを実感したという。

ボランティア活動の多くは、がれきの処理や側溝の清掃など「力仕事」だが、大学院を修了したNPO職員は被災者の話を聞く活動に参加した。話し相手になることにより、被災者に寄り添うことの大切さを強調し、「ともかく来てほしい」という現地の声を伝える。このほか、福島原発周辺の現実を写真でリアルに紹介した報告、ゼミや寺院でのボランティア報告なども印象に残った。

全国社会福祉協議会（全社協）

のまとめによると、大震災から約十か月で震災ボランティアは、ピーク時の十分の一まで減少している（朝日新聞二〇一二年一月一三日付）。



全社協は「がれき撤去や泥出しなど人数を要する作業が減ったため」とみている。ボランティアだけでなく、東北の被災地を訪ねることも大切だ。宮城復興支援センター事務局長の船田究さんも読売新聞二〇一二年一月五日付で次のように述べている。そもそも、被災地では力仕事のボランティアの需要は減っている。結果として、外から訪れる人たちが減り、被災地への思いが風化し始めないかが心配だ。「来て」「見て」「買って」「泊まって」もらうのは、風化を防ぎ、復興を後押ししてもらうためでもある。

これからも多くの学生・院生が被災地を訪れ、「東日本大震災から学ぶ」をテーマにした企画を継続していきたい。

山田 明（人間文化研究科教授）

トーキング カフェ

名古屋大学大学院
人間文化研究所 特別研究員
(しげはら・あつこ)
重原厚子

修士論文の中間発表ではいつも冷や汗をかき、書きたいことと書いていることとの隔たりに、自己嫌悪していたのは私だけだろうか。書きたいことをわかりやすく説明することは、現実の「誰か」に実際の説明をすることから始まるのでは？と思ったのがこのトーキングカフェの発端である。

四年目となった今年は、修士一年から常連のMさんが二年となり、研究発表も密度の高いものとなった。Mさんが研究する『熟議』論を留学生や在学中の院生に対して噛み砕いて説明してくれることで、議論も熱を帯びる。彼自身からも、他分野を研究する人に説明することと、新しい視点を学ぶことができたとのコメントをもらった。

同じ時、同じ場所で学ぶ人たちの縁を活かしたいと願いながら、月に一回人間文化研究所に通っている。

「建築遺産の保存：研究と応用」企画展・国際シンポジウム

イタリアのトリノ工科大学、パドヴァ大学、ミラノ工科大学から3名の外国人講師、日本からは文化庁、株式会社文化財構造計画（元公益財団法人文化財建造物保存技術協会）の方々を講師として招聘し、「地震リスクから歴史的建造物を守るための最新技術」、「歴史的建造物を活用したまちづくり」に関する講演を実施。

本企画は、本研究科教授が、イタリア政府の助成金や独立行政法人日本学術振興会の科学研究費補助金を得て、パドヴァ大学、トリノ工科大学と共同で行っているイタリアのラクイラでの被災地調査や歴史的建造物保全技術の開発に関する共同研究を契機として実施したもの。

【企画展】

会 期 平成23年11月23日（水）～11月27日（日）
平成23年12月5日（月）～12月16日（金）
9:00～17:00 ※11月23日（水）は14:00～17:00

場 所 名古屋市立大学芸術工学部（名古屋市立大学北千種キャンパス）
芸術工学棟 1階 西ギャラリー

【国際シンポジウム】

日 時 平成23年11月27日（日）13:30～17:00

場 所 名古屋市立大学芸術工学部（名古屋市立大学北千種キャンパス）
芸術工学棟 1階 M101教室

参加者 約40名 本学学生、教員、市職員等

アンケート結果（アンケート回収数 8）

性別	男性：5 女性3
年齢	20代：2 30代：2 50代：3 60代：1
職業	公務員：5 教員：1 学生：2
住まい	名古屋市内：6 名古屋市外：2
情報入手媒体	ポスター：1 家族・知人紹介：4 大学HP：1 その他：2
参加動機	自分の仕事に役立つ：3 テーマに興味：5
感想	大変よかった：2 よかった：6

添付資料：案内チラシ

国際シンポジウム

PRESERVATION of ARCHITECTURAL HERITAGE: RESEARCH and APPLICATION

建築遺産の保存：研究と応用

2011 年 11 月 27 日(日)
13:30 ~ 17:00

名古屋市立大学北千種キャンパス
芸術工学棟 M101 教室

参加費 無料

〒464-0083 名古屋市千種区北千種 2-1-10 問合せ先：TEL: 052-721-1225(芸術工学部事務室)

<http://www.nagoya-cu.ac.jp/sda/1015.htm>

建築遺産の保存：研究と応用

2009年4月6日に発生したイタリアのラクイラ地震、その後のインドネシア、ハイチ、チリ、ニュージーランド地震、トルコ地震、そして2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震にみられるように、世界各地で大規模地震が発生し、文化遺産である建築遺産が被害を受け、その修復・補強が急務になるとともに、地震によるリスクから建築遺産を保護する必要性が高まっている。

イタリアー日本の研究者交流・共同研究に関するイタリア政府の助成プログラムであるエグゼクティブ・プログラム(EP)の「文化遺産に適用する技術」分野において、名古屋市立大学とパドヴァ大学の『歴史的組積造建造物の動的挙動の特性評価』に関する共同研究が2010年に採択され、地震リスクから歴史的な建築文化遺産を保全するために様々な研究分野の展開ー現場実験や実験室実験と解析ーが実施されている。

『日本におけるイタリア2011』において、その成果である建築遺産の調査・診断・補強・保存技術に関する企画展を開催するとともに、建築遺産の保存のあり方、調査・診断・補強・保存技術、有効活用の事例報告と、建築遺産を活かしたまちづくりのあり方について幅広い意見交換と討論を行う。

内容

1. 主催者挨拶 戸菊 創 学長(名古屋市立大学)
2. 主旨説明 青木 孝義(名古屋市立大学)
3. 主題解説
 - 1) 「イタリアの建築と都市デザイナー新旧」
マリアグラツィア・フォッリ(ミラノ工科大学)
 - 2) 「建築遺産の保存：研究と応用」
マリアローザ・ヴァッルツィ(パドヴァ大学)
 - 3) 「建築遺産の保存例」
ーシンドーネ礼拝堂とトリノ国立映画博物館
パオロ・ナポリ(トリノ工科大学)
 - 4) 「日本の文化財建造物の保存修理と耐震対策」
西岡 聡(文化庁)
 - 5) 「日本の文化財建造物の構造診断と構造補強」
富永 善啓(株式会社文化財構造計画・
元公益財団法人文化財建造物保存技術協会)
4. 討論
5. まとめ



<主催>名古屋市立大学大学院芸術工学研究科附属環境デザイン研究所
<後援>名古屋市、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団



名古屋市立大学



パドヴァ大学



イタリア外務省



日本における
イタリア 2011

Institute of
Artificial
Environment
Design

芸術工学研究科附属
環境デザイン研究所

「3.11 東日本大震災への追悼展覧会 失われた街」

「3.11 東日本大震災への追悼シンポジウム 生と命の街へ」

本研究科教員はじめ全国13大学の建築系研究室が参加し、14か所の被災地を調査、震災以前の街を模型として復元し、展示する展示会を開催。また、震災を再認識するとともに今後の名古屋市をはじめとする我が国の街にどのようなヴィジョンが必要とされるのかを考えるきっかけとなるよう、名古屋市関係者や建築・都市に関わる学識者との意見交換のシンポジウムを開催した。

【展覧会】

会 期 平成24年3月17日（土）～4月7日（土）

平日のみ開催（ただし3/17、4/7は開催）

10:00～17:00

場 所 名古屋市立大学芸術工学部（名古屋市立大学北千種キャンパス）

芸術工学棟 1階 アトリウム

展覧会見学者数（記帳者のみ、3/28現在） 約140名

【シンポジウム】

日 時 平成24年3月20日（火）14:00～17:30

場 所 名古屋市立大学芸術工学部（名古屋市立大学北千種キャンパス）

大講義室

参加者 約150名 一般市民、本学学生、教職員等

アンケート結果（アンケート回収数 55）

性別	男性：33 女性21 不明：1
年齢	10代：4 20代：34 30代：4 40代：8 50代：2 60代：2 不明：1
情報入手媒体 （複数回答可）	新聞：0 ポスター：14 家族・知人紹介：28 大学HP：5 その他：10
感想	大変よかった：35 よかった：14 ふつう：2 よくなかった：0 不明：4

添付資料：案内チラシ

3.11 東日本大震災への追悼展覧会

失われた街

～ LOST HOMES: The Requiem for 3.11 ～ 3.11 のための鎮魂の復元模型 14 展

2012年3月17日(土) - 4月7日(土)

平日のみ開催(ただし、3月17日、20日および4月7日は開催)

開催時間

10:00～17:00 (入場無料)

会場

名古屋市立大学北千種キャンパス
芸術工学棟 1F アトリウム

<http://www.nagoya-cu.ac.jp/sda/>

3.11 東日本大震災への追悼シンポジウム

生と命の街へ ～Towards a City Envisioning Life, its Meaning and / or Security～

開催日: 2012年3月20日(火・祝)

開場 13:30 / 開演 14:00 / 終演 17:30 (夜会 18:00～19:00)

会場: 名古屋市立大学北千種キャンパス大講義室

定員: 250名 ※事前申込制

申込期間: 2012年3月1日(木)～3月16日(木)必着。※ただし、定員に達し次第、締切とさせていただきます。

申込方法: 下記申込先宛に、Eメール、FAXのいずれかの方法でお申込ください。※お申込の際は、「住所」「氏名」「電話番号」を必ずご記入のうえ、表題に「[生と命の街へ]シンポジウム申込」と明記ください。※お申込いただいた方には、登録番号を記した返信をお送りしますので、当日に必ずお持ちください。

申込先: 名古屋市立大学芸術工学部事務局シンポジウム担当

FAX / 052-721-3110 Eメール / LOSTHOMES@sda.nagoya-cu.ac.jp

主催: 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 環境デザイン研究所 企画: 久野紀光 (建築家・名古屋市立大学准教授)
協賛: 総合資格学院(株)中部支店 後援: 名古屋市 / 中日新聞社 / (社)日本建築学会東海支部 / (社)日本建築家協会東海支部 / ArchiAid
協力: TOTOギャラリー・間 / 「失われた街」模型復元プロジェクト実行委員会 / 日本スペースイメージング株式会社

総合資格学院
Archi-Aid



失われた街

～ LOST HOMES: The Requiem for 3.11 ～
3.11 のための鎮魂の復元模型 14 展

2012年3月17日(土) - 4月7日(土)

東日本大震災発生から1年を経て、被災地ではさまざまな復興への取り組みが歩みを始めているものの、その道のりは長く険しいことは想像に難くありません。例えば、二度と凄惨な悲劇に見舞われることの無いように「命」の安全確保のため街を海から遠のけようという策と、豊かな恵みを生業にした「生きがい」としての海のそばに住みたいという、「生」と「命」のジレンマがあります。

本展覧会では、14地区の被災地の「在りし日の姿」を縮尺1/500の模型によって復元し展示するとともに、被災地で復興に従事している方々を招き、名古屋市の関係者や建築・都市に関わる学術識者との意見交換のシンポジウムを開催して、今後の名古屋市をはじめとするわが国の街に、どのような「生」と「命」へのヴィジョンが必要とされるのかを考える場としたいと思います。

展覧会・プログラム

A-失われた街:

3.11東日本大震災のための鎮魂の復元模型14

TOTOギャラリー・間にて2011年11月に開催された「311 失われた街」展へ出品された14の被災地を1/500の白い模型で再現した復元展示。美しい精巧な白模型とすることで、一瞬にして失われた日常風景がみるものの記憶の風景と重なり合う。模型はすべて学生のボランティアによって制作された。

対象地域(14都市) 野田(岩手県九戸郡野田村)/田老(岩手県宮古市)/釜石(岩手県釜石市)/大船渡(岩手県大船渡市)/陸前高田(岩手県陸前高田市)/鹿折(宮城県気仙沼市)/弁天町(宮城県気仙沼市)/志津川(宮城県南三陸町)/女川(宮城県牡鹿郡女川町)/牡鹿半島(宮城県石巻市)/石巻(宮城県石巻市)/荒浜(宮城県仙台市若林区)/相馬港(福島県相馬市)/浪江(福島県双葉郡浪江町)

B-失われた街

ギャラリー・リーディング(DVD上映)

「失われた街」プロジェクトの過程で行われた住民ワークショップから生まれ、開催された朗読会。学生が制作した白い模型を囲んだ住民たちの溢れる記憶を、ひとつひとつの思い出を紡いでいくように、静かな朗読が行われた。本展ではその様子をDVDにて上映する。

映像監督: 蔵岡登志美
録音: 鈴木はるか 演出: 高尾隆
出演: 古賀彩香、保倉りえ、高尾隆
即興演奏: Kevin McHugh
制作: 砂川史織
企画協力: 高宮知数
企画: 梶橋修、「失われた街」模型復元プロジェクト実行委員会



C-SFC design/built 3.11

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)で建築を学ぶ学生が主体となって、宮城県南三陸町歌津に建設している仮設コミュニティセンター。「セルフビルド」「再建築性」「地産地消」「風呂コミュニティ」をキーワードに汎用構造用合板をプレカットしたベニアパネルのみで構築可能なシステムを考案。地元一般住民のみで建設可能な構法とした。本展ではその模型を展示する。

監修: 小林博人(建築家・慶應義塾大学 准教授)、
平岡善浩(宮城大学 教授)
制作: 慶應義塾大学政策メディア研究科
同環境情報学部 学生

シンポジウム・プログラム

第1部 | イントロダクション: 14:00-14:50

内藤 廣 / 建築家・東京大学名誉教授、戸町 創 / 名古屋市立大学理事長・学長、
久野 紀光 / 建築家・名古屋市立大学准教授

第2部 | 想定の内と外: 14:50-15:50

坂下 透 / 釜石市 釜石トリアスロン協会理事、山内宏泰 / 気仙沼市 リアス・アーク美術館 学芸員
学芸係長、工藤雅教 / 気仙沼市 公益社団法人CIVIC Force プログラムコーディネーター、
難波伸治 / 名古屋市 名古屋市消防局防災部防災室主幹

第3部 | 復興への働きかけ: 15:50-16:20

梶橋 修 / 建築家・神戸大学准教授、小林博人 / 建築家・都市デザイナー・慶應義塾大学准教授

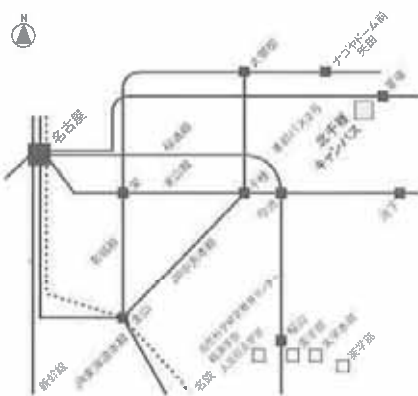
第4部 | 生と命の街へ: 16:30-17:30

内藤 廣(モデレーター)、坂下 透、山内宏泰、工藤雅教、難波伸治、梶橋 修、小林博人、久野紀光

夜 会 | 若者に課せられた宿題: 18:00-19:00

内藤 廣(モデレーター)、久野紀光(モデレーター)、
神戸大学梶橋研究室、名古屋工業大学北川研究室、名古屋市立大学久野研究室

会場案内図



愛知県名古屋市千種区北千種 2-1-10

(名古屋市営バス基幹2 基幹下車徒歩1分)

※お車での御来場はかたく御遠慮ください。

なごや看護生涯学習セミナー

- 1 主催：名古屋市立大学看護学部
- 2 会場：名古屋市立大学看護学部内
- 3 学習セミナー(2 講座)の概要

① セミナーのテーマ

看護研究いろはの「い」

「研究テーマの絞り込みと文献の探し方・読み方を習得し、研究計画書を作成するまでの過程について理解を深める」

② 対象、定員

看護研究に取り組もうとしている看護職者、定員 30 名

③ 開催日、内容、参加人数

開催日	内容	参加人数
平成 23 年 9 月 16 日(金)	1)看護研究とは 2)研究計画書の構成と書き方	35 名
9 月 3 日(金)	1)文献検索・文献検討の方法 2)文献クリティークの方法	34 名
10 月 14 日(金)	1)文献クリティークの実際(演習) 2)まとめ	28 名

① セミナーのテーマ

看護研究いろはの「ろ」

「主に量的データを収集する調査でのデータの取り扱いと、基本的な統計学について振り返る」

② 対象、定員

看護研究として量的な調査をスタートしようと準備中の方、統計学が少し苦手と思っている方、定員 30 名

③ 開催日、内容、参加人数

開催日	内容	参加人数
平成 23 年 10 月 26 日(水)	1. 情報を有効なものとするために～調査集団を考える	34 名
11 月 2 日(水)	2. 基本的な統計量の考え方を振り返る	34 名
11 月 9 日(水)	3. 調査を実施するプロセスについて	31 名
11 月 16 日(水)	4. SPSS で基本集計をしてみよう	29 名

【年度計画 31】

看護研究サポートプロジェクト

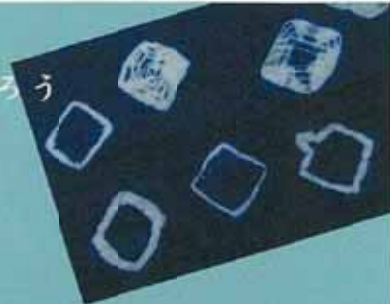
目的 この地域の看護職者と本学看護学部教員との連携を進めることを目的として、看護職者が個人またはグループで行う看護研究に対して看護学部の教員がそのプロセスを支援し、研究成果を発表できるように指導するもの

対象 主になごや看護生涯学習セミナー「看護研究いろはの『い』」の受講者
研究支援の具体的テーマ

- ① 医療事故と看護師の経験について
- ② リヴィングウィルについて（地域の啓蒙活動による変化）
- ③ 新患外来患者の診療における看護師の問診について
- ④ 看護師のカウンセリング技術向上に向けての取り組みについて（認知行動療法や認知行動療法で用いるコミュニケーション技術の活用）
- ⑤ 患者の身体の下に敷いていたバスタオルについて（使用していない現在との比較）
- ⑥ 頸部放射線治療を受ける患者の口腔粘膜障害に対するケア介入について
- ⑦ ウォーキングカンファレンスについて
- ⑧ 当院における医師と看護師のタイムアウトに対する意識についての比較検討について
- ⑨ 終末期にある患者を持つ家族の思いの明確化について（22 年度より継続）

名古屋市博物館で名古屋市立大学の学生が
九州国立博物館ボランティアと共同でワークショップをします。

絞 伝統の絞り染めで
はんかちをつくろう



1時間ごとに実施
10時～ 11時～ 12時～ 13時～ 14時～
※各回先着12名 開始15分前より受付開始

※参加自由

はにわ に色づけ



オリジナルはにわを作って
古墳に飾ろう

名古屋市博物館と
九州国立博物館にちなんだ
※参加自由
ストラップをつくろう

ぷらばん づくり



問い合わせ先
名古屋市立大学 阪井研究室
電話 052-872-5181

開催場所
名古屋市博物館
〒467-0806 瑞穂区瑞穂通1-27-1
電話 052-853-2655 fax 052-853-3636
www.museum.city.nagoya.jp
地下鉄桜通線『桜山』下車 4番出口から徒歩5分

くわしくはウェブへ! <http://ameblo.jp/meishihakusapo/> (名古屋市博物館サポーターブログ)

名古屋市博物館 × 名古屋市立大学 × 九州国立博物館

ワークショップでいざる

二〇一一年十一月二十日(日)

午前10時～午後三時半

参加無料
予約不要



【年度計画 37】

千種生涯学習センターとの共催講座

講座名	【名古屋市立大学芸術工学部共催講座】 講座名：人にやさしいデザイン
曜日・時間帯	月曜日・13:30～15:30
期間または開催日	① 平成23年10月17日（月） ② 平成23年10月31日（月） ③ 平成23年11月7日（月） ④ 平成23年11月14日（月）
対象・定員	一般・30名
教材費等	なし
初回の持ち物	なし
講座のあらまし （講座の案内文）	環境デザイン研究所は、環境と人間の関係を研究することや、環境デザインに関わる地域貢献・人材育成などを推進すること目的としています。研究所共催の講座として、生活を豊かで快適にするための人にやさしいデザインについて、これまでの歴史やひとの感覚・知覚の特性などを織り交ぜ、実例を通して分かりやすく解説します。
プログラム内容 （タイトル・講師名など）	①「環境・景観・サインデザインについて」准教授 森旬子 ②「ユーザー中心主義のデザイン動向について」准教授 大坪牧人 ③「建築都市のユニバーサルデザイン(UD)」教授 志田弘二 ④「快適に暮らすための光環境・音環境・熱環境」准教授 原田昌幸
会場	名古屋市立大学北千種キャンパス 環境デザイン研究所 (名古屋市千種区北千種2丁目1番10号)

【実施結果】

受講者数

27名 男16名、女11名

アンケート回収

19名 男11名、女8名

講座の回数について

適切 5名、おおむね適切 8名、もっと多いほうがいい 6名

講座の内容について

よかった 9名、まあまあよかった9名、やや不満1名

受講者自身の達成度について

達成できた 2名、ほぼ達成できた12名、あまり達成できなかった 4名、無回答1名

【年度計画38】

各研究所のシンポジウム、ワークショップの内容と参加者数一覧

所属	実施したイベント	テーマ	概要	日数	延べ参加者数	参加者数	開催日時
経済研究所	第16回公開シンポジウム	「地域の環境をどのようにして守るのか」 ～四日市公害を手掛かりとして～	さまざまな立場から環境問題に対して地域住民の生活をどのように守ることができるのかを議論した。	1	95	95	平成23年11月18日(金) 14:30～16:30
人間文化研究所	シンポジウム	「文化財を守る-東日本大震災の教訓から」	大学と名古屋博物館の連携による市内の文化財の保護について議論し、研究発展の契機を得た。	1	40	40	平成23年11月26日(土) 13:30～16:30
	ワークショップ	「ワークショップでござる」 名古屋博物館×名古屋市立大学×九州国立博物館	発達した学生ボランティア組織を持つ九州国立博物館と連携することで、そのノウハウを学び、更に博物館を盛り上げていくための大きな機会を得た。	1	245	245	平成23年11月20日(日) 10:00～15:30
	企画展&国際シンポジウム	「建築遺産の保存:研究と応用」	シンポジウムは、イタリアから3名、日本からは文化庁および元公益財団法人文化財建造物保存技術協会から各1名の講師を招聘し、奈良国立博物館、名古屋市、他大学教員・学生、本学関係者等約40名の参加者により実施した。企画展は、日本におけるイタリア2011の一環として行い、名古屋と東京大学において展示を行った。	1	40	40	平成23年11月27日(日)13:30～ 17:00
	国際ワークショップ	「歴史的町並みを活かしたまちづくり-橋朝を対象として」	イタリアから4名の教員、1名の大学院生、1名の研究員およびバドゥア大学から受け入れている3名の留学生と本学研究生・学生約30名により実施。今後、名古屋市と連携した「まちづくり」研究への発展の契機を得ることができた。	-	39	39	11月14日(月)15時～16時30分 11月24日(木)9時～18時 11月26日(土)9時30分～12時
環境デザイン研究所	生涯生涯学習センター 連携講座	「人にやさしいデザイン」	4人の教員による連続講座を実施し、「環境・景観・サインデザインについて」などをテーマに、研究成果を市民に発信した。	4	108	27	平成23年10月17日(月)、31日 (月)、11月7日(月)、14日(月) 13:30～15:30
	展覧会	3.11東日本大震災への追悼展覧会 『失われた街～LOST HOMES: The Requiem for 3.11～ 3.11のための鎮魂の復元模型14展』	名古屋関係者や建築・都市に係る学術識者との意見交換を行い、今後の名古屋市をはじめとするわが国の街に、どのような「生」と「命」へのヴィジョンが必要とされるのかを考察した。	1	150	150	平成24年3月20日(火)14:00～ 17:30
	ポスター展示	「DNA・バーコードによる環境モニタリング」	名古屋市内の池の生物調査に協力し、DNA・バーコードの解析を行った結果の一部を、名城公園にてポスター展示した。	5	-	-	平成23年8月3日～7日
生物多様性研究センター	ブース出展	「DNA・バーコードと生物多様性」	環境デーなごやにて、ブース出展し、一般参加者に研究成果を発表した。	1	200	200	平成23年9月18日(日)

【年度計画38】

平成23年度市民公開講座等一覧(平成24年3月31日現在)

内 容	学部・研究科	講 座 名	定 員	応募者数	日数	延べ受講者数	受講者数	開 催 日	開 催 場 所
統一テーマ: “今”を学び豊かに生きよう! 市民公開講座	医学研究科	《第1講座》アレルギー疾患の最新線を学び快適な生活を! (4講演)	180	125	1	91	91	平成23年11月27日(日) 13:00~17:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室A
	薬学研究科	《第2講座》病気の診断・治療に貢献する科学(3講演)	100	47	1	34	34	平成23年10月15日(土) 10:00~15:00	田辺通キャンパス 薬学部薬友会館3階 水野ホール
	経済学研究科	《第3講座》地域経済と技術イノベーション(2講演)	100	67	1	41	41	平成23年11月12日(土) 15:00~17:00	滝子キャンパス 3号館 101教室
		《第4講座》自分らしく生きる-個人と社会の観点から-							
	人間文化研究科	《第4A講座》「自分らしく生きる」とは?-生涯発達心理学の視点から-	80	37	1	25	25	平成23年10月15日(土) 10:00~11:30	滝子キャンパス 1号館 203教室
		《第4B講座》「現代日本社会における女性と外国人に政治参画!」 第1回「政治参画とジェンダー-政治分野における男女共同参画状況とポジティブ・アクション導入をめぐって-」	80	13	1	13	13	平成23年10月29日(土) 13:30~15:00	滝子キャンパス 1号館 203教室
		《第4B講座》「現代日本社会における女性と外国人に政治参画!」 第2回「政治参画と国籍-国政選挙および地方選挙における外国人参政権の導入をめぐって-」	80	17	1	14	14	平成23年11月5日(土) 13:30~15:00	滝子キャンパス 1号館 203教室
		《第5講座》生命から学び、生命へアプローチする(2講演)	60	16	1	13	13	平成23年10月15日(土) 13:00~15:30	北千種キャンパス 芸術工学科M101教室
	看護学部	《第6講座》血管について考える	100	99	1	63	63	平成23年10月29日(土) 14:00~15:30	桜山キャンパス 看護学部棟 308講義室
	システム自然科学研究科	《第7講座》福祉に活かす画像処理技術	40	23	1	12	12	平成23年11月26日(土) 14:00~15:30	滝子キャンパス 4号館 大講義室
健康科学講座 オープンカレッジ	特別編	《特別編》90分で分かる放射能の基礎知識	800	220	1	195	195	平成24年3月18日(日) 13:00~14:35	名古屋市政書センター
	1学部+6研究科+特別編	のべ9講座	1620	664	10	501	501		
	医学研究科	第1期: 炎症と再生	80	96	8	606	93	平成23年6月10日~7月29日 毎週金曜日 18:30~20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室A
		第2期: 名市大発の新医療へ向けて(モデルを用いた挑戦)	80	36	8	224	33	平成23年9月9日~11月4日 9/23を除く毎週金曜日 18:30~20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室A
		第3期: DNA多型-個人識別から臨床応用まで	80	58	8	329	54	平成23年11月18日(金)~平成24年1月20日 (金) 毎週金曜日 18:30~20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室A
	人間文化研究科	反響する文学~文学・文化における越境の諸相を考えよう!	80	30	4	65	65	平成23年11月5日(土)12日(土)26日(土)・12月3日(土) 13:30~15:00	滝子キャンパス 1号館 201教室
		社会人向けビジネスIT講座(全2回)							
	経済学研究科	第1回: データ分析再入門~プロ野球データを使って	15	11	1	11	11	平成23年10月8日(土) 10:30~15:00	滝子キャンパス 3号館 3階データ分析室
		第2回: 楽しいソーシャルメディア(その2)~Facebookを使ってみよう~	15	12	1	12	12	平成23年12月3日(土) 10:30~15:00	

内 容	学部・研究科	講 座 名	定 員	応募者数	日数	延べ受講者数	受講者数	開 催 日	開 催 場 所
サイエンス・カフェ なごや看護生涯学習セミナー	人間文化研究科	Human & Socialサイエンス・カフェ	30	当日受付 もあり	9	169	169	平成23年4月17日(日)～平成24年3月18日(日) 月1回(8・10・11月を除く)日曜日 15:00～17:00	サクラサイトテラス
	システム自然科学研究科	サイエンスカフェ イン 名古屋	30～40	351	11	335	335	平成23年4月15日(金)～平成24年3月16日(金) 月1回(2月を除く)金曜日 1800～2000	ナディアパーク階 7thcafe(セブンスカフェ)
		<番外編>親子実験教室「液晶で遊ぶ、液晶を学ぶ」	各日40	320	6	319	319	平成23年7月23日(土)10:00～24日(日)10:00～、14:00～ 31日(日)10:00～ 8月20日(土)・27日(土)10:00～、14:00～ 9月23日(金祝)17:00～	滝子キャンパス 4号館 9/23のみナディアパーク階 7thcafe(セブンスカフェ)
		公開講演会・災害看護 ～東日本大震災の現場からの学び～	300	305	1	260	260	平成23年12月5日(月)18:30～20:30	名古屋国立大学附属病院ホール (棟棟 中央診療棟3階)
	看護学部	1.看護研究いろいろの「い」	30	37	3	97	35	平成23年9月16日(金)・30日(金)・10月14日(金) 18:30～20:30	桜山キャンパス 看護学部棟内
		2.看護研究いろいろの「ろ」データの取り扱い	30	42	4	128	34	平成23年10月26日(水)・11月2日(水)・9日(水)・16日(水) 18:30～20:30	
		(科目No.11-101)これだけは知っておきたい 日常治療の使い方	40	49	15	481	48	平成23年5月31日～9月13日 毎週火曜日 18:30～20:00	
		(科目No.11-102)災害・急性期医療に対応するスキルをみがく	40	42	15	362	41	平成23年6月1日～9月14日 毎週水曜日 18:30～20:00	
医療・保健 学びなおし講座	医学研究科	(科目No.11-103)高齢社会における神経疾患 Up to date	40	27	15	282	26	平成23年6月2日～9月15日 毎週木曜日 18:30～20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室B
		(科目No.11-201)診療に役立つ検査を学ぶ ～基礎から応用編～	40	59	15	624	56	平成23年10月4日～平成24年1月24日 毎週火曜日18:30～20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室A
		(科目No.11-202)感染症再考 よくみる感染症 ～知っておきたい感染症	40	49	15	417	45	平成23年9月28日～平成24年1月25日 毎週水曜日18:30～20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室A
		(科目No.11-203)Birth Tour 2011 -安全なお産を目指して-	40	32	15	303	29	平成23年9月29日～平成24年1月26日 毎週木曜日18:30～20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室B及び臨床シミュレーションセンター
	薬学研究科	東海薬剤師生涯学習センター講座	100	56	9	339	55	平成23年6月1日、6月15日、7月13日、8月10日、9月14日、10月12日、11月16日、12月14日、平成24年1月11日 水曜日 20:00～21:30	田辺通キャンパス 薬学部薬友会館3階 水野ホール
	薬学研究科	「歯科領域における金属アレルギーの診断と治療」ほか	各日230	252	3	583	252	平成23年9月11日(日)、10月16日(日)、11月6日(日) 9:30～11:00、11:20～12:50	田辺通キャンパス 図書館講義室
	経済学部	前期:「マクロ経済学」	30	86	30	743	30	平成23年4月12日～7月22日 毎週火・金曜日 9:00～10:30	滝子キャンパス 3号館 201教室
		後期:「社会保障論Ⅱ」	30	57	15	416	32	平成23年9月28日～平成24年1月25日 毎週水曜日10:40～12:10	滝子キャンパス 3号館 201教室
		前期:「政治学」	10	98	15	142	10	平成23年4月11日～7月25日 毎週月曜日 13:00～14:30	滝子キャンパス 2号館 404教室
授業公開	人文社会学部	後期:「教育史」	30	32	15	311	31	平成23年9月30日～平成24年1月20日 毎週金曜日 13:00～14:30	滝子キャンパス 1号館 301教室
		後期:「総合科目・名古屋と観光」	20	33	15	231	20	平成23年9月30日～平成24年1月20日 毎週金曜日 13:00～14:30	滝子キャンパス 1号館 201教室
		前期:「サウンドデザイン論」	10	19	15	98	9	平成23年4月15日～7月29日 毎週金曜日 9:00～10:30	北千種キャンパス 管理棟 A305教室
	芸術工学部	後期:「ユニバーサルデザイン」	10	15	15	110	8	平成23年9月29日～平成24年2月2日 毎週木曜日 9:00～10:30	北千種キャンパス芸術工学棟M101教室

内 容	学部・研究科	講 座 名	定 員	応募者数	日数	延べ受講者数	受講者数	開 催 日	開 催 場 所
公開シンポジウム等	薬学研究科	名古屋市立大学－国立医薬品食品衛生研究所 連携大学院発足 名古屋市立大学 大学院薬学研究科 医薬品質保証学分野・医薬品安全性評価学分野 発足公開シンポジウム	-	当日受付	1	50	50	平成23年7月16日(土) 13:30～16:35	田辺通キャンパス 新研究棟2階 会議室
		薬学研究科 創薬基盤科学研究所 設立記念シンポジウム	-	当日受付	1	98	98	平成23年11月12日(土) 13:30～17:30	田辺通キャンパス 薬学部薬友会館3階 水野ホール
	学術課	2011国際森林年 名古屋市立大学市民シンポジウム	150	当日受付	1	83	83	平成23年7月28日(土) 10:00～12:00	名古屋市立大学附属病院ホール (病棟・中央診療棟3階)
	経済学研究科・附属経済 研究所	第16回 公開シンポジウム「地域の環境をどのようにして守るのかー四日市公害を 手掛かりとしてー」	150	91	1	95	95	平成23年11月18日(金) 14:30～16:30	滝子キャンパス 3号館 101教室
	人間文化研究所・名古屋 市博物館共催	公開講演会・シンポジウム「文化財を守るー東日本大震災の教訓からー」	200	当日受付	1	40	40	平成23年11月26日(土) 13:30～16:30	名古屋市博物館 講堂
	十六銀行連携	東海経済活性化フォーラム「産業集積の再活性化は可能か」～「木曽川地域の新 たな試みを題材として」～	50	68	1	58	58	平成24年3月1日(木) 14:00～16:20	じゅうろくプラザ 5階小会議室2
	芸術工学研究科	3.11 東日本大震災への追悼展覧会『失われた街～LOST HOMES: The Requiem for 3.11～3.11のための鎮魂の復元模型14 展	250	事前受付 当日受付	1	150	150	平成24年3月20日(火)14:00～17:30	北千種キャンパス 図書館2階大講義室
		建築遺産の保存・研究と応用	-	当日受付	1	40	40	平成23年11月27日(日) 13:30～17:00	北千種キャンパス 芸術工学棟 1階 M101教室
		環境教育を考える～COP100の経験をESDに活かす～	400	157	1	145	145	平成24年3月24日(土) 13:00～15:20	東建ホール・丸の内
ワークショップ	社会学部・名古屋市博物館	名古屋市博物館×名古屋市立大学×九州国立博物館「ワークショップでござる」	なし	当日受付	1	245	245	平成23年11月20日(日) 10:00～15:30	名古屋市博物館 展示説明室
	薬学研究科	春の薬草園の市民公開	各日100	227	2	173	173	平成23年5月13日(金)・14日(土)10:00～12:00	田辺通キャンパス 薬草園
生涯学習推進センター共催 大学連携講座	薬学研究科	秋の薬草園の市民公開	各日75	234	2	181	181	平成23年10月14日(金)・15日(土)10:30～12:30	
		少年犯罪と教育(全2回)	58	38	2	16	16	平成23年11月19日(土)・12月3日(土)10:30 ～12:00	名古屋市女性会館
	芸術工学研究科	人にやさしいデザイン(全4回)	30	28	4	108	27	平成23年10月17日(月)・31日(月)・11月7日 (月)・14日(月)13:30～15:30	北千種キャンパス 環境デザイン研究所
	人間文化研究科	フェミニズムとベージック・インカム～家事労働問題の観点から～(全2回)	20	28	2	15	15	平成23年10月21日(金)・28日(金)18:00～19:30	名古屋市女性会館
							9,995	4,029	

【年度計画 39】

経済学研究科附属経済研究所 第16回 公開シンポジウム

題名：地域の環境をどのようにして守るのかー四日市公害を手掛かりとしてー

日時：平成23年11月18日（金） 14：30～16：30

会場：滝子(山の畑)キャンパス3号館 101教室

主催：大学院経済学研究科・附属経済研究所

共催：中日新聞社

後援：名古屋商工会議所、(社)中部経済連合会、中部経済同友会、(社)中部産業連盟、(財)中部生産性本部、愛知中小企業家同友会、名古屋市

受講者数：95名

講演者：司会 飯尾 歩（中日新聞論説委員）

パネリスト 飯尾 歩（中日新聞論説委員）
早川 正美（公益財団法人国際環境技術移転センター専務理事
兼事務局長）
浅井 慎次（名古屋市環境局地域環境対策部長）
朝日 幸代（三重大学人文学部 教授）

基調報告 焼田 党（名古屋市立大学大学院経済学研究科教授）

概要：1960年代、四日市地域における硫黄酸化物の排出問題は、住民活動や行政あるいはそれに後押しされる形での企業側の対応によって、急速に収束しました。

本シンポジウムでは、地域環境問題に取り組んできた研究機関や行政担当者、地域環境問題に関する日本での経験を途上国に伝えてきた教育者、経済学者等、さまざまな立場から、環境問題に対して地域住民の生活をどのように守ることができるのかを議論しました。

平成23年度 審議会等委員就任状況一覧(名古屋市)【平成24年3月31日現在】

	研究科	専門分野	教員名	職名	審議会名称	位置づけ	役職	任用期間
1	医学研究科	精神・認知・行動医学	明智 龍男	教授	名古屋市自殺対策連絡協議会	類する機関	会長	平成22年4月1日～平成24年3月31日
2	医学研究科	新生児・小児医学	伊藤 哲哉	准教授	名古屋市小児慢性特定疾患協議委員会	その他	委員	平成22年4月1日～平成24年3月31日
3	医学研究科	新生児・小児医学	伊藤 哲哉	准教授	名古屋市予防接種調査会	類する機関	委員	平成23年10月1日～平成25年9月30日
4	医学研究科	新生児・小児医学	伊藤 康彦	助教	名古屋市小児慢性特定疾患協議委員会	その他	委員	平成22年4月1日～平成24年3月31日
5	医学研究科	神経内科学	小鹿 幸生	教授	名古屋市認知症疾患医療連携協議会	類する機関	委員	平成23年4月1日～平成24年3月31日
6	医学研究科	神経内科学	小鹿 幸生	教授	粒子線がん治療医療連携専門家会議	その他	委員	平成20年2月15日～(期間限定せず)
7	医学研究科	環境保健学	上島 通浩	教授	名古屋市環境審議会	附属機関	委員	平成22年8月1日～平成24年7月31日
8	医学研究科	環境保健学	上島 通浩	教授	名古屋市衛生研究所調査研究協議会	その他	委員	平成23年5月17日～平成25年3月31日
9	医学研究科	環境保健学	上島 通浩	教授	名古屋市食の安全・安心推進会議	類する機関	副会長	平成22年8月26日～平成24年3月31日
10	医学研究科	環境保健学	上島 通浩	教授	名古屋市土壌及び地下水汚染対策検討委員会	類する機関	委員	平成21年5月1日 ～(期間限定せず)
11	医学研究科	機能解剖学	黒野 智恵子	助教	名古屋市男女平等参画推進会議	附属機関	委員	平成22年7月1日～平成24年3月31日
12	医学研究科	公衆衛生学	小嶋 雅代	講師	名古屋市開発審査会	附属機関	委員	平成22年3月13日～平成24年3月12日
13	医学研究科	放射線医学	芝本 雄太	教授	粒子線がん治療医療連携専門家会議	その他	委員	平成20年2月13日～(期間限定せず)
14	医学研究科	精神・認知・行動医学	竹内 浩	講師	名古屋市精神医療審査会	附属機関	会長	平成22年7月1日～平成24年3月31日
15	医学研究科	病態医科学	田中 靖人	教授	自立支援医療(更生医療)にかかる診断業務 補装具費支給判定医にかかる診断及び相談業務 障害程度審査委員会	その他	委員	平成23年4月1日～平成24年3月31日
16	医学研究科	細菌学	長谷川 忠男	教授	名古屋市衛生研究所調査研究協議会	その他	委員	平成23年8月9日～平成25年3月31日
17	医学研究科	新生児・小児医学	水野 晴夫	講師	名古屋市小児慢性特定疾患協議委員会	その他	委員	平成22年4月1日～平成24年3月31日
18	薬学研究科	分子生物薬学	今川 正良	教授	公益財団 名古屋国際センター	その他	評議員	平成23年4月1日～平成28年3月31日
19	薬学研究科	医薬品代謝解析学	林 秀敏	教授	名古屋市廃棄物処理施設専門委員会議	類する機関	委員	平成22年8月11日～平成24年8月10日
20	経済学研究科	経営学	神山 真一	教授	名古屋市公共事業評価監視委員会	類する機関	委員	平成23年5月1日～平成25年4月30日
21	経済学研究科	経営学	神山 真一	教授	名古屋市情報化計画検討委員会	類する機関	委員	平成23年8月1日～平成24年3月31日
22	経済学研究科	環境マネジメント	香坂 玲	准教授	名古屋市環境審議会	附属機関	委員	平成22年8月1日 ～平成24年7月31日
23	経済学研究科	環境マネジメント	香坂 玲	准教授	環境都市なごや推進協議会	類する機関	委員	平成23年10月1日～平成25年9月30日
24	経済学研究科	経済学	濱口 泰代	准教授	名古屋市総合体育館指定管理者選定委員会	類する機関	委員	平成23年4月28日～平成24年3月31日
25	経済学研究科	経済学	濱口 泰代	准教授	名古屋市体育館指定管理者選定委員会	類する機関	委員	平成23年4月28日～平成24年3月31日
26	経済学研究科	経済学	濱口 泰代	准教授	名古屋市港サッカー場指定管理者選定委員会	類する機関	委員	平成23年4月28日～平成24年3月31日
27	経済学研究科	経済学	濱口 泰代	准教授	名古屋市野外スポーツ・レクリエーションセンター指定管理者選定委員会	類する機関	委員	平成23年4月28日～平成24年3月31日
28	経済学研究科	経済学	濱口 泰代	准教授	名古屋市スポーツ・レクリエーションセンター指定管理者選定委員会	類する機関	委員	平成23年4月28日～平成24年3月31日
29	経済学研究科	経済学	藤田 菜々子	准教授	名古屋市国民健康保険運営協議会	附属機関	委員	平成23年4月1日～平成25年3月31日
30	経済学研究科	経済学	松村 文人	教授	なごやジョブマッチング事業及び名古屋市就労意欲喚起事業委託業者選定委員会	その他	委員	平成23年5月10日～平成24年3月31日

31	経済学研究科	経済学	向井 清史	教授	名古屋市緑の審議会	附属機関	委員	平成22年4月1日～平成24年3月31日
32	経済学研究科	経済学	向井 清史	教授	名古屋市中心卸売市場運営協議会	附属機関	委員	平成23年5月1日～平成25年4月30日
33	経済学研究科	経済学	向井 清史	教授	名古屋市中心取引委員会	附属機関	委員	平成23年5月1日～平成25年4月30日
34	経済学研究科	経済学	向井 清史	教授	「公園経営基本計画（仮称）策定等業務委託」に係る事業者選定委員会	その他	委員	平成23年4月1日～平成24年3月31日
35	経済学研究科	経済学	向井 清史	教授	名古屋市中心消費生活審議会第1小委員会	附属機関	臨時委員	平成23年8月11日～平成24年3月31日
36	経済学研究科	経済学	森田 雄一	准教授	名古屋市上下水道事業経営調査会	類する機関	委員	平成22年4月1日～平成24年3月31日
37	経済学研究科	経済学	山本 陽子	准教授	名古屋子育て支援企業認定審査会	類する機関	委員	平成23年4月1日～平成25年3月31日
38	経済学研究科	経済学	山本 陽子	准教授	名古屋社会福祉審議会	附属機関	委員	平成23年4月1日～平成25年3月31日
39	人間文化研究科	人間の成長と発達	天谷 祐子	准教授	名古屋市男女平等参画審議会	附属機関	委員	平成23年4月13日～平成25年3月31日
40	人間文化研究科	人間の成長と発達	有賀 克明	教授	名古屋市立高等学校魅力ある高等学校づくり推進研究協議会	その他	委員	平成23年7月25日～平成24年3月31日
41	人間文化研究科	社会と協働	菊地 夏野	准教授	名古屋市配偶者からの暴力防止及び被害者支援基本計画（第2次）検討会議	類する機関	委員	平成23年6月15日～平成24年3月31日
42	人間文化研究科	社会と協働	藤田 榮史	教授	なごや子ども・子育て支援協議会	附属機関	委員	平成22年9月1日～平成24年8月31日
43	人間文化研究科	文化と共生	松本 佐保	教授	名古屋市民民保護協議会	附属機関	委員	平成22年6月1日～平成24年5月31日
44	芸術工学研究科	緑地計画	岡村 穰	教授	名古屋市広告・景観審議会	附属機関	委員	平成23年6月1日～平成25年5月31日
45	芸術工学研究科	建築計画・設計	鈴木賢一	教授	子ども参画推進事業検討委員会	その他	委員	平成23年7月～平成24年3月31日
46	芸術工学研究科	テキスタイル	藤井尚子	准教授	デザイン活用支援事業業務委託業者選定委員会	その他	委員	平成23年5月31日～平成24年3月31日
47	芸術工学研究科	作曲・音楽学・音楽情報学	水野みか子	教授	文化施設のあり方検討委員会	類する機関	委員	平成23年7月1日～平成24年3月31日
48	芸術工学研究科	建築史	溝口 正人	教授	特別史跡名古屋城跡全体整備検討委員会	類する機関	委員	平成22年4月1日～平成24年9月30日
49	芸術工学研究科	建築史	溝口正人	教授	名古屋市広告・景観審議会	附属機関	委員	平成23年6月1日～平成25年5月31日
50	芸術工学研究科	建築設計・都市計画	向口 武志	講師	名古屋都心公的空間デザイン研究会	その他	委員	平成23年9月1日～平成24年3月31日
51	芸術工学研究科	グラフィックデザイン	森 旬子	准教授	名古屋市緑の審議会	附属機関	専門委員	平成22年9月～平成24年3月31日
52	芸術工学研究科	グラフィックデザイン	森 旬子	准教授	名古屋市生涯学習推進センター協議会	附属機関	委員	平成22年7月1日～平成24年6月30日
53	芸術工学研究科	グラフィックデザイン	森 旬子	准教授	名古屋市環境影響評価審査会	附属機関	委員	平成23年2月1日～平成25年1月31日
54	芸術工学研究科	建築構造学	青木孝義	教授	歴史的建造物保存活用アドバイザー	その他	アドバイザー	平成24年2月22日～平成24年3月31日
55	芸術工学研究科	建築計画・設計	鈴木賢一	教授	名古屋市総合評価審査委員会委員	名古屋市財政局	委員	平成24年4月1日～平成26年3月31日
56	芸術工学研究科	建築計画・設計	鈴木賢一	教授	オアシス21水の宇宙船カラーライトアップ検討委員会委員	その他	委員	承諾日～平成24年6月30日
57	看護学部	精神保健看護学	香月 富士日	准教授	名古屋市精神医療審査会	附属機関	委員	平成22年4月1日～平成24年3月31日
58	看護学部	地域看護学	門間 晶子	准教授	名古屋市防災会議	附属機関	委員	平成22年4月1日～平成24年3月31日
59	看護学部	地域看護学	門間 晶子	准教授	名古屋市里親委託推進委員会	その他	委員	平成23年4月1日～平成24年3月31日
60	看護学部	地域看護学	門間 晶子	准教授	小規模住居型児童養育事業者選定委員会	その他	委員	平成23年4月1日～平成24年3月31日
61	看護学部	感染予防看護学	矢野 久子	教授	名古屋市民民保護協議会	附属機関	委員	平成22年6月1日～平成24年5月31日
62	看護学部	高齢者看護学	山田 紀代美	教授	名古屋市情報公開審査会	附属機関	委員	平成22年10月1日～平成24年9月30日
63	看護学部	高齢者看護学	山田 紀代美	教授	名古屋市個人情報保護審議会	附属機関	委員	平成23年4月1日～平成25年3月31日
64	システム自然科 学研究所	生化学	森山 昭彦	教授	なごや生物多様性センター	その他	アドバイザー	平成23年9月2日～平成25年3月31日

東海経済活性化フォーラム

「産業集積の
再活性化は可能か」

～「木曽川地域の新たな試みを題材として」～

かつて織物の産地として栄えた木曽川地域、繊維産業の斜陽とともにまちが元気をなくしていった。
この閉塞感を破るため木曽川から新たな試みが始まった。
木曽川地域の新たな試みを切り口に産業集積の再活性化について考えます。

2012年

3月1日 木 14:00～16:20
(受付開始／13:30～)参加費
無料

会場

じゅうろくプラザ 5F小会議室 2

岐阜市橋本町1丁目10番地11／JR 岐阜駅隣接 徒歩約2分

第1部

基調講演

14:10～14:50

第2部

現地報告

14:50～15:20

第3部

パネルディスカッション

15:30～16:20

講演講師／加藤 厚海 氏(広島大学大学院社会科学部マネジメント専攻准教授)

パネリストは裏面をご覧ください。



加藤 厚海 氏

広島大学大学院社会科学部マネジメント専攻准教授

PROFILE

同志社大学法学部政治学科卒業。神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程終了。
博士(経営学)(神戸大学)。主要著書・論文「需要変動と産業集積の力学 仲間型取引ネットワークの研究」(白桃書房)。
「産業集積における仲間型取引ネットワークの機能と形成プロセス 東大阪地域の金型産業の事例研究」『組織科学』
第39巻第4号(白桃書房)。(2007年度組織学会賞受賞論文)

お申込方法

裏面申込書に必要事項をご記入のうえ、FAXまたはお取引店までお申込ください。

■主催



名古屋市立大学



十六銀行



東海地区メインバンク

■後援

中部経済産業局 愛知県 岐阜県

東海経済活性化フォーラム

タイムスケジュール

14:00～14:10	主催者挨拶
14:10～14:50	基調講演 「産業集積の再活性化は可能か」 広島大学大学院社会科学部研究科マネジメント専攻准教授 加藤 厚海 氏
14:50～15:05	現地調査報告 「アンケート調査結果、 およびヒアリング調査の内容報告」 名市大チーム
15:05～15:20	産業集積の活性化に向けた最新の試み シバタテクノテクス株式会社 専務取締役 柴田 和明 氏
15:20～15:30	休憩
15:30～16:20	パネルディスカッション 【コーディネーター】 名古屋市立大学大学院経済学研究科 教授 河合 篤男 氏 【パネリスト】 広島大学大学院社会科学部研究科 准教授 .. 加藤 厚海 氏 木曽川産業クラスター創生協議会 松本 正義 氏 木曽川商工会 経営指導員 田中 明人 氏 シバタテクノテクス株式会社 専務取締役 ... 柴田 和明 氏
16:20	終了

■日時：平成24年3月1日(木)
14:00～16:20(受付開始13:30～)

■会場：じゅうろくプラザ 5F小会議室 2
岐阜市橋本町1丁目10番地11

■TEL：058-262-0150 ■定員：50名

■申込締切日：2月23日(木) (但し定員になりしだい締め切りますので
お早めにお申込ください。)

会場ご案内図



○交通のご案内

- JR岐阜駅隣接 徒歩約2分
- 岐阜各務原ICより 車約15分
- 名鉄岐阜駅より 徒歩約7分
- 岐阜羽島ICより 車約20分

○駐車場のご案内

有料駐車場(58台収容)がございますが、公共交通機関のご利用を勧めます。

お申込方法 下記申込書に必要事項をご記入のうえ、FAXまたはお取引店までお申込ください。

お問合せ先 十六銀行法人営業部地域開発グループ TEL.058-266-2523

送信先 **FAX.058-263-8150**

お申込日 平成 年 月 日

東海経済活性化フォーラム 参加申込書

お早めにお申込ください。定員になり次第締め切らせていただきます。

費 社 名				業 種	
ご 住 所	〒				
ご 連 絡 先	TEL			FAX	
	Eメール				
参加者氏名	ふりがな			部署・役職等	
	ご芳名			部署・役職等	
	ふりがな			部署・役職等	
	ご芳名			部署・役職等	
	ふりがな			部署・役職等	
	ご芳名			部署・役職等	

このセミナーを知ったきっかけ(複数解答可)

☐十六銀行からのご案内

☐名古屋市立大学からのご案内

☐その他

申込書にご記入いただいた個人情報については、本企画に係る事務処理のほか、今後開催するセミナーのご案内等に使用させていただきますので、予めご了承ください。お申込後、参加証等の発送はございません。